

The background is a vibrant blue with a subtle pattern of water ripples. Overlaid on this are several circular graphic elements: some filled with fine white lines and others with a white dot grid. The text is centered in the middle of the page.

20th Anniversary

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会
創立20周年記念誌

管工機材から設備機材へ



橋本総業株式会社

創業当初より、日本の近代水道・住宅設備の発展とともに歩み、日本の住空間を見つめて参りました。
私たちは設備商品の流通とサービスを通じ、「かけがえのないパートナー」として快適な住まいづくりのお手伝いをいたします。



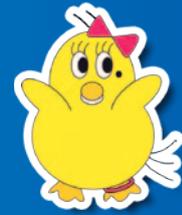
創立20周年記念誌

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会



20年の歩み

1996 - 2016





3 挨拶

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 会長
秋山 雅仁

4 祝辞

全国管工事業協同組合連合会 会長
大澤 規郎

厚生労働省 医薬・生活衛生局 生活衛生・食品安全部 水道課長
宮崎 正信

国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長
木村 実

公益社団法人日本水道協会 理事長
吉田 永

公益財団法人給水工事技術振興財団 専務理事
江郷 道生

8 全管連青年部協議会 20周年座談会

23 歴代会長メッセージ

26 全国管工事業協同組合連合会青年部協議会とは

28 通常総会開催記録

30 主な活動紹介

42 開催会議・事業等一覧

50 平成28年度役員紹介

51 全国会員メッセージ

若年者育成のため技能五輪全国大会・

68 技能グランプリの課題製作に挑戦

69 第20回通常総会

70 創立20周年記念式典

76 被災地支援活動

東日本大震災、熊本地震

80 歴代役員一覧

83 協賛企業一覧

96 編集後記

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 会長

秋山 雅仁



創立20周年に寄せて 時代に即した事業展開を

水道業界を担う後継者を育て、ダイナミックな活動を行う事を目的として青年部は平成9年に設立され、創立20周年を迎えることができました。

今日に至るまで、親組合のご理解と多大なるご支援を頂き、また青年部を卒業したOBの諸先輩方をはじめ、本協議会の運営にご協力を賜りまして改めて御礼を申し上げます。

業界を取り巻く情勢は日々一刻と変わり、我々青年部に求められるものも変わりつつあります。そして、長期間にわたるデフレと景気低迷からの脱却を優先課題とした経済政策「アベノミクス」の効果で長らく停滞してきた日本経済も徐々に回復基調に転じ、東京では「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の開催に向け各種施設の建設やインフラ整備が本格化してきています。

しかしながら、地方においては依然として厳しい経済情勢であるのも事実であり、業界の発展向上や技術者・技能者不足など、その人材確保と育成が建設業界における構造的な課題となっている昨今、担い手の育成など「若者が自分の未来を託せる魅力ある業界」にするための事業を行っております。

さて、最近の経済社会環境は、企業の経営者に幅広い知識と先見性を求めているように思われます。この変化に対応するめ我々青年部会員は自分が企業と業界の一員として自己の占める位置を再認識する必要があります。

その中で、全管連青年部の会員は時代を担う創造力と豊かな人間性をそなえた「プロフェッショナル」の集まりだと思います。青年部に携わることで業界と経済環境を構築できる人との意見を感じながらそれを業務に生かすことで組合青年部の存在をアピールしています。今後も「facebook」や「LINE」に象徴されるようにSNSの発展は目覚ましいものがあります。

私達水道業界にも今まで以上に活用されるかと思いますが、我々には1,600名の会員がいるという強みを持ち、いつでもどこでも会員間の繋がりががあると認識しながら、次代を見据えて行動していきたいと思っております。



全国管工事業協同組合連合会 会長

大澤 規郎

創立20周年を祝して

青年部協議会が創立20周年を迎えられた事を心からお祝い申し上げます。

青年部は、平成9年の設立以来、次代を担う後継者の育成、会員相互の連携や活動強化を図るための諸事業を積極的に展開され、管工事業界の健全な発展に貢献してきました。

一口に20年と申しますが、発足当時の規制緩和、その後の公共投資の縮小など、特にこの20年は変化のめまぐるしい時代であり青年部におかれてもその変化に全力で対応してこられました。その一つ一つが歴代会長を始め、役員、会員の皆様の汗の結晶であろうと思いますし、創立以来着実な活動を展開されてこられたことに深く感銘いたします。

さて、建設業界は社会資本整備の担い手であるとともに、自然災害の最前線で活動する安全・安心の守り手であります。私たちの管工事業界は「命の水」を守り、自然災害時において大きな社会的役割を果たし最前線で国民のライフラインを支える唯一の団体です。そして、将来にわたってその役割を果たしていくためには、経営基盤を強化し、経営の安定化を図ることが何より重要であります。

現在、担い手確保や生産性の向上等解決すべき課題は山積しておりますが、親組合と共に次代を担う若者を育成し、「魅力ある建設業界」に全力で取り組んで参りますので、青年部におかれましても、会員相互の連携を密に時代に即した事業展開を図っていくよう期待しています。

今後も、青年部がこれまで蓄えた豊かな知識や経験、友情と団結を生かし、さらなる発展を遂げられるようご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課長

木村 実



祝 辞

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会が設立20周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協議会は、平成9年の設立以来、次代を担う後継者の育成、会員相互の連携や活動強化を図るための諸事業を積極的に展開され、管工事業の健全な発展に貢献してこられました。これまで運営にご尽力されてこられました関係各位に対し、深く敬意を表します。

建設産業は、社会資本の整備・維持管理等を通じ、国民の生命・財産をまもり、我が国の経済・社会を支える基幹産業の一つです。皆様が携わっておられる管工事業は、給排水設備の設置や配管工事等により、人が生活する上で必要不可欠なライフラインを維持するという、極めて重要な役割を担っておられます。

一方で、建設産業は現在、技能労働者の高齢化や若年層人口の減少等に直面しており、将来における担い手の確保や技能・技術の継承、建設現場における生産性の向上が大きな課題となっております。このような課題の解決のため、若い皆様方に、前向きな姿勢と柔軟な発想による一層のご尽力を期待申し上げます。

終わりに、全管連及び貴協議会のご発展と、会員の皆様方の今後のご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



厚生労働省 医薬・生活衛生局 生活衛生・食品安全部 水道課長
宮崎 正信

祝 辞

この度、全国管工事業協同組合連合会青年部協議会が創立20周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。貴協議会は、次代を担う若きリーダーの育成や会員相互の親睦連携強化を目的に平成9年2月に設立されたと伺っております。以来、給水装置工事や配水管の整備・維持管理の担い手として水道の普及と発展への貢献に加え、事故・災害時の応急活動などにおいても、多大なるご協力とご尽力を賜り、会員の皆様方には心から感謝と敬意を表します。また、「水源地クリーンキャンペーン」などの様々な社会的活動にも継続的に取り組まれていることは、大変、意義深いものと考えております。

貴協議会の皆様は、新水道ビジョンの基本理念である「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」において、高度な技術・技能と豊富な経験を有する“街の水道屋さん”として、国民にとって最も身近な存在であり、今後の水道界の発展において非常に重要な役割を担っておられます。安全・強靱な水道を次世代に確実に引き継いでいけるよう、これまでと同様の御尽力をお願い申し上げるとともに、貴協議会と会員の皆様方のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

公益社団法人 日本水道協会 理事長 吉田 永

全管連青年部協議会創立20周年を祝して

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会が創立20周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴協議会は、次世代のリーダー育成のため、平成9年に設立されて以来、20年にわたり管工事業の発展に多大なる貢献をしてこられました。これまで運営にご尽力された関係者の皆様に深く敬意を表します。

我が国の水道は、高普及率を達成し、住民生活を支える必要不可欠な社会生活基盤となっている一方、自然災害への備え、施設の更新や再構築、人口減少社会への対応など、多くの課題を抱えております。これら課題解決に向け、貴協議会におかれましては、引き続き、水道事業に対するご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後に、貴協議会のご発展と、会員の皆様方の今後のご活躍を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。



公益財団法人 給水工事技術振興財団 専務理事 江郷 道生

全管連青年部協議会創立20周年を祝して

この度、全国管工事業協同組合連合会青年部協議会が創立20周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協議会が創設された平成9年は新しい指定給水装置工事業業者制度が導入された時期にあつて、次世代を担う後継者の育成と会員相互の親睦強化に向けて様々な事業活動に取り組み、管工事業と中小企業の組織活動の推進とその振興に寄与されてきました。特に創設時期が我が財団と同時期であることから「夢対話交流事業」における意見交換などは技術者・技能者の人材育成には有意義なものとなっており今後の活動に期待しております。

結びに、貴協議会のますますのご発展と、会員の皆様方の今後のご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。





全管連青年部協議会 20周年座談会

水道事業における 管工事業協同組合青年部の役割を考える

出席者(順不同敬称略)※役職は当時

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会

初代青年部会長 福田 可也
(富山県管工事業協同組合連合会青年部)

2代目 〃 高井 豊司
(兵庫県管工事業協同組合連合会青年部協議会)

3代目 〃 五十嵐 俊弘
(川崎市管工事業協同組合青年部会)

4代目 〃 加藤 炳秀
(京都府管工事工業協同組合青年会)

5代目 中島 誠照
(名古屋市指定水道工事店協同組合青年部会)

全国管工事業協同組合連合会
常務理事 松本 淳司

コーディネーター:
合同会社 水道ネットワーク通信 代表
有村 源介

司会 管工事業が水道事業の中で担っている分野は、水道使用者に最も近いところであり、管工事業を抜きにして、水道はあり得ません。特に、震災時に管工事業が果たしてきた役割は大きく、高く評価されると共に、震災対策の充実が図られております。また、各地において水道事業を支えるマンパワーとして貴重な存在となっております。その中で、青年部協議会は全管連を活性化させた存在であり、次世代を担う人材育成の場としても、活動されてきました。青年部協議会発足20周年を記念し、果たしてきた役割と今後のあり方についてお話を聞きたいと思っております。まず、初代会長から現在の会長まで、これまでの経緯についてお話を聞きたいと思っております。

福田 平成9年から13年までの2期4年、全管連青年部協議会の初代会長を務めました、富山県の福田です。全管連青年部協議会の立ち上げに際して、まず、当時の状況で申し上げておきたいことがございます。それは、ちょうどその時、富山県連の青年部を立ち上げよ



うという機運が高まっていたということです。当時、私は富山市管工事組合青年部の3代目の部長でしたが、前部長から県連に青年部を立ち上げてほしいということを知っており、そのことで頭の中は一杯でした。それと平行して、全管連でもアンケートで青年部の実態調査をしているということは聞いていました。出来上がったアンケートの結果報告を見ましても、富山県は事業数からしても、あるいは会員数からしても少ない方ではないという印象を持ちました。東京で100人位の規模で、準備委員会立ち上げのための集会が開催されることになり、全国の有志・青年部の方々が呼ばれ、富山から私も参加しました。集会では、小野澤会長の肝いりということで、「是非、立ち上げたい」というお話でした。話を聞いて、会長は業界のことを非常に熱心に考えておられるなと思いましたし、非常に共感した覚えがあります。

当時の時代背景としては、規制緩和に端を発して、中には指定工事店制度の廃止論まで言及されるということがあって、業界全体が非常に危機感を持っていました。そのように、時代が大きく変わろうとしている時に、従来のやり方ではダメだということで、若い力を業界の中に吹き込んで併せて将来のリーダーを育てて行こうということを目的に立ち上げようとしていました。このような小野澤さんの熱い思いがあり、私たち準備委員会のメンバーにもそういう思いはひしひしと伝わってきました。ただ、私は冒頭に言いました通り、県連の立ち上げという大きな仕事を抱えていたので、全管連のほうは、準備委員会の8名の中には選ばれましたけれども、まさか会長が自分のところに

まわってくるなど、夢にも思いませんでしたし、また、やれるはずもないと思っていました。けれども、どういはずみか会長を引き受けてくれという話になり、私としてはお受けするならば一発返答とと思っていましたので、乗りかけた船ですのでやってみようか、という気持ちになりました。市の単組青年部のスタッフの人達のコンセンサスも得た上で、お引き受けしました。それから約1年間、色々準備に関わりましたが、全管連の青年部協議会というのは親組合主導で総務委員会が主体で立ち上げようという事で準備して頂いていましたから、我々は基本的には船に乗っかるだけ、というようなスタンスでした。一方で、県連の青年部は、1から立ち上げるという状態でした。当初、高岡、射水、富山の3青年部で話し合い、同意して準備委員会を着々と進めていました。そういう中で併せて全管連の青年部協議会が同じ年に立ち上がるというのもまた、何かのご縁かなと思います。

富山県連での立ち上げは、1から10まで全部自分達で手掛けましたが、連合会である以上、カバー率を高くしたいという思いがあり、皆で手分けして各単組へ青年部設立のお願いのため回りました。その甲斐があって、全管連の青年部が出来たのが平成9年の2月から、半年遅れで県連がようやく立ち上がり、その時には当初から参加してもらったのが12単組の青年部でした。172社と非常にカバー率が高く、会員数の約3分の1をカバー出来た事に非常に満足しました。

県連を作った時、一つ大きな難関がありました。それは、各単組には特に青年部が無いところがたくさんあり、そういうところに青年部設立そのものも呼びかけましたが、いわゆる個人で参加したいという方もフォローしたいという思いがありましたので、未だに「富山県管工事業協同組合連合会青年部」となっておりません。「青年部協議会」にしなかった、ということです。1名でも有志の方であれば参加して頂けますよ、という、私の強い思いが入っております。当時の思い出としてはもう一つ、今でも使われている略称として、「パイレン会」というのがあります。これは、富山市管工事組合青年部とか連合会青年部とか名前が長くてややこしいものですから、一言で我々の業界を象徴する呼び名として、パイプレンチを省略してパイレン会とい

う名前を付けたのが自分としては印象に残っていることです。

一方、全管連での当会の立ち上げについては、親組合主導で進めていただき、立ち上げには約1400社、27都道府県の会員の方々を集まいただきました。ただ、各会員さん毎にそれぞれ活動のレベル、人数、構成が異なっており、非常に温度差が違ふということがありました。意識の高さがそれぞれで、種々様々、色々な方が混ざっておりました。特に、当初集まられた理事の皆さんは非常に個性的な人が多くて、私も個性的と言われていたかもしれませんが、それを抑えることが会の運営の要だと思っていましたし、それで会の立場が決まるぐらいの思いがありました。当初、人に任せておけないということで、自分で理事会の議長をやったりしたことを覚えています。そういう中でも後から後から、鋭い質問だとか無理難題だとか色々な意見が出まして、大変な思いをしました。

各組合の会員さんの代表の方々は、最年長の方が多かったのですが、その後、理事の交代時期に大幅にメンバーが入れ替わることになりました。2人目として出て来られた人達はおよそ良識派といえますが、非常に紳士が多かったです。なぜそういう巡り合わせになったのか、初代の頃の立ち上げの苦労は何だったんだろうなと思うぐらい、非常に皆さん紳士的協力的で、会もスムーズに進むようになりまして、それ以降、理事の人達は良識派の人達が今日に至るまでずっと出ておられるのではないかと思います。現役諸君がいらっしゃるから胡麻をすっているわけではないですが。

もう1つは、当初、親組合との関係がぎくしゃくする場面がありました。親組合の会長さんは当時、金子会長（故人）だったのですが、会長には近寄りがないとか、なかなかお会いできる機会を作ってもらえないこともあって、親組合との関係が上手くまわらない。

思い出として残っているのは、2年目の総会を東京の目黒雅叙園で行ったことです。当初、別の会場を予定していたのですが、もっと豪勢なところでやろうということで探したところ、リーズナブルで高級感のある雅叙園を会場にしました。会場が良くて、会としては非常に盛り上がったのですが、親組合の役員の人達

から睨まれてまして、私が卒業してからもずっと言われました。「親組合は質素にやっているのに、お前達は贅沢してなんだ」という話です。

青年部協議会で実施してきた事業について触れたいと思います。私は立ち上げ総会での会長就任挨拶で、「青年部活動の根幹は単組にあり」という話をしました。単組の活性化こそが青年部活動の一番根幹であるという話をし、未だにそう考えております。ですから、全国組織が出来たら、その主目的は単組の活動の支援ということが根幹であると思いましたが、その方針に基づいて色々な活動、事業を展開してきたつもりです。その一番のヒット作だったのが「自慢の活動対象」で、1回目は秋田の方がグランプリを取られました。これは全国で展開している単組の優れた青年部活動を、他の全国の方に知ってもらい、真似して欲しい、ということを狙ったものです。オリジナルはいらない、各単組が、良きは真似て、成長する。そして活性化していくということこそが業界の底上げにつながると考えており、そういう事業はずっと続けてやりました。

様々な事業の中で、全国へ発信してそれぞれの地域でその事業をやっていただくことによって、連帯感を持つと、ということで実施したのが、「水源地をきれいにするキャンペーン」です。これも、随分たくさん単組に参加していただき、盛り上がりました。自然保護というのは実は、自分としてはライフワークであり、環境問題に言及したいという思いもありました。後に、エコクラブ探検隊といった事業も加えられ、2代目会長の高井さんの時に水大賞の特別賞を受賞するところまでやっていただいたということで、非常に嬉しく思い、また、光栄に思いました。

上手くいかなかった事業のことも言っておかなければなりません。その最たるものは、資格免許の統廃合への取組です。全管連手帳に見るがごとしで、各省庁別に色々な資格があり、ざっと数えても30数種類に及びます。この業界は突出して資格免許の数が多く、これを整理・統廃合できないかという壮大な理想を掲げて、まず、全国の組合員からアンケートを取らせていただきました。親組合からもバッシングを受けましたし、出来るわけじゃないかという声もありましたが、私は青年部の特性として、自分達が正しいと思っ

たことを堂々と言える会でありたい、という気持ちがありましたので、取組みました。2年目の時に、京都での総会の時に、資格免許の統廃合は是か否かというテーマでディベート大会をやりました。三重と栃木でも討論会をやったりしました。業界としての機運の盛り上がりというのを狙っていましたが、結果的には常に困難でしたし、これを後輩諸君に引き継ぐのは無理があるということで、自分の責任として涙を飲みましたけれども、事業についてはその年をもって終了し、高井さんに引き継いだ思い出があります。あともう一つ失敗したのは国際交流事業です。世界の管工事業界と接触を持って業界の発展、地位の向上を図りたいと思いましたが、調べてみると、残念ながら同じような組合組織があるのは韓国だけで、他の国には無いという事が分かり、即、ぽしゃってしまったということがありました。

司会 2代目会長からお話願います。時代的には阪神・淡路大震災の復興期ですね。

高井 平成14年から17年まで2期4年、福田初代会長の後を受けて、会長を務めました。今のお話でお分かりになっていただけるかと思いますが、大変素晴らしい初代会長が引っ張ってこられた大きな会だけに、自分が次のバトンを受ける立場になったときは大変悩みましたし、出来れば逃げたいというのが本音でした。奇しくも今おっしゃられたように、震災もありましたし、地元では復興復旧に向けてどんどんやっている最中でありましたし、仕事も溢れている状態でした。そういった意味でも、というのが正直なところでした。自分がバトンタッチを受けるつもりで参加していなかったし、素晴らしい先輩方がたくさんいらっしゃいましたから、当然準備もしていなくて、固辞していました。すると、福田初代会長からお電話を頂いたり、本部の松本事務局長（当時）が神戸まで私を説得に来てくださって、今でも忘れませんが、神戸市役所の一番上階のレストランで2人でじっくり話し合いました。松本さんから「あなたに掛けた梯子は外さないからやってくれ」と言われ、決断をしました。それが、私がバトンを受け継ぐきっかけになった事です。折しも震災から少し時間が経っていて、まだまだ復興復旧の最中でしたけれども、たくさん全国から支援をいただいた



高井 豊司氏

(たかい とよし)

平成13年度～平成16年度
全管連青年部協議会 会長
(2代目)
兵庫県管工事業協同組合連
合会青年部協議会

り、応援を頂いたという事実があり、まだ復興の途中ではあるけれど、まずはお礼を言わないといけないなと、そういう思いもあって、兵庫県神戸で全管連の総会をやることになりました。自分がバトンを受け継ぐという時にそういう震災のお礼の気持ちを伝える会もさせていただいて、神戸からのお礼の気持ちを伝える総会開催がスタートでした。併せて、福田初代がおっしゃった県連設立の話ですが、実は私は神戸代表で出まして、その時は兵庫県でもなかったんですね。単組には青年部が兵庫県にありましたので、その青年部に声をかけて、急場でしたが県連設立も併せてさせていただきました。なんとか全管連総会を無事に終わらせるための委員会を立ち上げて、それがそのまま県連設立につながり、そのまま自分も県連の会長になって引っ張っていったという経緯がございます。あまりにも初代の背中が大きかったし、就任してからも苦労の連続というか、どのようにこの大きな青年部を舵取りしていったらいいのか、自分の考えが中々まとまりませんでした。梯子を外さない、と言ってくれた松本事務局長に相談して、これは外部の有識者の話も聞かないといけないな、ということから、その時応援をして下さっていた賛助会員のTOTOさんを訪問しました。TOTOの方にもお話を色々伺いして、どのような方向で舵取りをしていくのが望ましいのか、外部の目から見て、どんなことを期待されますかと色々な意見をお聞きした、ということもございました。

実際にやってみると、福田さんは私より10歳も先輩であり、こんな素晴らしい人には手が届かないし、背伸びしてもすぐにばれてしまうので、同じことをやる



五十嵐 俊弘氏
 (いがらし としひろ)
 平成17年度～平成20年度
 全管連青年部協議会 会長
 (3代目)
 川崎市管工事業協同組合青
 年部会

のは無理だと分かり、腹をくくりまして、それから色々な人に助けて頂きながら徐々に自分のペースで出来るようになりました。先ほどのお言葉にもありましたが、福田初代は、業界、そして親会に挑戦する青年部という気概がありました。もちろん人と同じ事をやっても仕方がないし、やるからにはやる、という決意で就任されて引っ張ってこられたので、色々なことへの挑戦はもちろん、親会とバンバンぶつかっているのも側で見えていました。ただ、自分はちょっとそこまでは、引っ張れないな、と。融和するとか仲良くするというような、そういう融和路線も必要だなということで、親会との関係も改善するという努力をしながら、楽しく膝を突き合せてする会議をどうやっていけばいいのかということ念頭においていました。しかしながら、「福田節」は健在で、根幹は単組にあるとか、やはりここでやる会議は最高レベルの会議でないといけない、と。各単組の代表が貴重な時間をさいて大切なお金をはたいてここに来ているのだから、どここの全国の会議でも最高の会議でないといけない、というポリシーが脈々と伝わっていきまして、私にもそれが分かっていたし、常にそういうことを意識して、その限られた時間の中で最高の会議をするためにはどうしたら良いのだろうかということを常に考えながら会議を常にやっていました。また、声の大きさとか語られる姿勢、それから話しかけられる口調、説得力、自分にはまったくそういうものがなくて、ベラベラしゃべる性格でもなくて、そういったものもこの全管連青年部で鍛え上げられたというのも事実です。例えば、いつも同じ場所でやるのではなく、ちょっと環境を変

えてメーカーさんの会議室を借りたり、どこかの技術センターに出かけてそこで会議をして勉強もして、理事会をしたり、そんな工夫、オリジナリティを入れました。

せっかく東京に出てきたのだから、理事の皆さんと楽しく一石二鳥で勉強もして会議もして帰るというようなことが出来ないかと、2年目以降にそのようにやりだして、それも中々好評で参加率も上がりながら運用できた記憶もあります。結局、私の時にも親会との関係の改善には至らなかったのですが、会長を卒業する最終の年には、親会の総会の中で青年部をPRする時間を10分だけ頂いて、そこを15分しゃべって、怒られたこともありましたが（笑い）。

福田会長時代は、私は広報を任されていたのです。青年部の機関誌は『アヒルのたまご』という名前ですが、この広報誌を作れと命じられたのが私の初仕事だったんです。この広報に携わったおかげで喋ること、発信すること、それから記録を残すことの大切さは痛感し、自分の貴重な財産になりました。だから自分が会長になってからも、どうやってこの素晴らしいメンバーを紹介していくかということに気を配っていましたし、どこかで何かチャンスはないかと常に思っていたところはあります。やはりどんな良い活動をして、発信しないと理解してもらえません。

福田 予定したシンボル・キャラクターが、アヒルなのに鶏の嘴になっていたので、急きょ変えて貰ったというエピソードもありました（笑い）。いまだにその時のキャラクターを使っていたら、ありがたいことです。

司会 3代目になると、時代背景も大きく変わってきましたね。

五十嵐 青年部協議会が10周年を迎える時期であり、そのことも含めてお話させていただきます。会長を仰せつかる前、第9回通常総会を私の地元、川崎で行う事が決まっており、その準備に追われていました。その最中、確か赤坂で行われた理事会の前に高井さんから呼ばれて、関西弁で「会長やってくれへんか」とストレートに言われました。総会の準備で忙しかったですし、そこで会長を受けたら翌年は10周年を先頭に立てこなさなければならない。当然、即答は出来ず、地元

帰って相談をした結果、バックアップしてくれるということで会長を仰せつかって4年やらせて頂きました。大変なこともありましたが、今振り返ってみると、会長を受けて良かったなと思っております。私が会長を引き受けた4年間というのは過去2人の会長のご努力によって、全管連青年部として基盤はもう出来ていたと思います。ただやはり、全管連の知名度がまだ浸透していませんでした。クラシアンは知っているけれど、全管連は知らないという市民の方は多い。なので、この全管連という名前をPRして、且つITを多用し外部団体との協力をもっと密にして全管連を盛り上げていきたいというのが私の4年間だったと思います。

加えて、活動する中で、親会の理解はあっても親会との事業協力という面で実現には至らなかった。高井さんの時代に初めて親会の全国大会の場で青年部協議会をPRする機会を与えられましたが、私の時に初めて親会の連携とまでは言えませんが、親会が各地で行う事業、委員会にも青年部として参画したことを思い出します。

話を戻し、私が会長を受けた翌年、青年部協議会10周年を迎えました。予算の積み立てはしていたものの、構成についてはゼロからのスタートでした。私は青年部協議会が設立してから、ここまで積み重ねてきた軌跡、財産、そして実績を、外向けにPRすることが10周年の一番の目的だろうと考えていましたので、それを念頭において10周年の計画を立てました。10周年記念誌は最初、CDでお配りしようという話もあったのですが、やはり記念に残るといって、紙媒体にさせて頂いた。式典も2部構成にして双方、異なった内容にしました。

記念講演は松本常務にご紹介いただいて海賀信好先生（お茶の水大学教育研究協力員）をお願いしました。海賀先生は世界各国を回って各地の水道事情を視察された方でした。ただ、講演の内容について、我々が求めるものと違ってしまう可能性もあったので、講演内容について、事前に画像を見せて頂きながら、お話いただく内容について、ところどころこちらの希望をお伝えして仕上げさせて頂き、青年部協議会をカッコよく見せるビデオも作製し、10周年を迎えたというようなエピソードが残っております。

現役の方々に言いたいことは、これから20周年の計画を立てるに当り、これまでの内容に捕われることなく、青年部カラーを活かした周年事業にさせていただければと思います。

司会 4代目の加藤さんからお願いします。

加藤 私は会長としては1期2年だけをお世話になりました。五十嵐さんから会長をやってほしいという打診をうけまして、いや、僕じゃ無理ですと即答でお断りしたのは覚えております。僕よりももっと適任の方がいっぱいいらっしゃるの、皆さんが断られたら僕がやります、という話をさせていただきました。会長を受けるにあたりまして、全国組織であるということ、やはり社業、地元の青年部、地元の親会等々、調整に調整を加えまして、1期だけなら良いよという了解をいただいた上でお受けしたという形を覚えております。また、個人的な話ですが、副会長までは経験したことがあったのですが、会長は全管連が初めてでして、2番手3番手の仕事は良く分かっていたつもりなんです、前に立って動かすということが如何に難しいかということ、会長職になって分かったことです。そんな中で、全管連青年部に対する認知度も上がってきまされたのですが、私の時には、ある意味ハードルを下げたいという思いの方が強くありました。というのは、これは批判ではありませんが、お固いイメージが理事の中に多かったということ、一生懸命やっているがあまりに疲れてしまって、貴重な時間、貴重なお金を使って会議をした後、その後コミュニケーションがなかったりとか、フォローがなかったりということがありました。私はまず、理事も来て、何かを持ってもらうということで、「笑い」があってもいいのではないかと考え、交流、懇親的なものにも力をいれさせてもらいました。

私の地元は京都なんです、地元の草の根レベルで地域間交流を定期的に行っており、全管連でもそういう事が出来ないか、という思いがありました。例えば広島と岡山が定期的に行っていたりとか、四国4県、あるいは東北で以前から6県の会議をやっていたという例がありました。そのような形で地域間交流をさせていただいて、コミュニケーションが以前に増して良くなり、すごく風通しの良い関係が出来たと思います。



自分が何を1番最初に見せたかといいますと、まずチーム作りをしました。それまでは、会合が終わると、食事をしてそれぞれが好きな所で2次会をすることが多かったのですが、そういうことが出来ない状況に持っていこうということを考えました。会員交流事業の名の下に男同士、おっさんばかり集まって合宿形式を取り、同じ釜の飯を食うということをやらせていただいた。その結果、次の理事会からは話が盛り上がりしました。同時に、日頃からお世話になっております賛助会員企業さんの工場であるとか、研修施設を我々が訪問し、何らかの形でタイアップをさせていただく、という形も考えてやらせていただきました。そういうことで、たまには事務局さんともぶつかり合いをしながらなんですが、何とかスタッフ、理事、皆さんに恵まれ、特に先輩方が作ってくださった基盤の上に乗せていただけたと思っております。

もう1つ導入したのは、テレビ会議の導入です。五十嵐さんのときにはSkypeという道具を使ってテレビ会議的な発想でやっておりました。私どもの場合は、IT推進委員会のご紹介で、三役会議にWeb会議システムを導入しました。これが東日本大震災の時に非常に役立ちました。復旧作業まではたどり着けませんでしたので、我々で何かできることはないかと相談した結果、Web会議システムを使って、秋田の青年部の方に受け入れ先を打診し、拠点を作って、何を作るとか具体的な内容をお話させていただいて、釜石市の方へ炊き出しに出掛けて、1日3カ所回らせていただきました。秋田の地元の青年部や有志の方々に凄くお世話になったのを今でも覚えています。

そういうことで、中島さんの時代になって、石巻市、いわき市へと続いていったのかもしれない、という思いがございます。

たまたまですけれども、親会に私の父親が理事・副会長という立場でおりましたので、親会さんの懐に入りやすいことを利用させていただき、ハードルを下げることもできたかもしれません。そういう意味では、例えば、福岡の青年部の副会長のところへ行きまして、青年部があると聞いていた、是非全管連へもう一度入って下さいという様な活動をし、今現在、福岡の青年部は入って頂いております。そういう流れで新規の会員単組、青年部があれば働きかけるということに努めつつ、バトンを今の会長はじめ現役の皆さんにお渡ししているという状況です。

司会 現会長からお願いします。

中島 私は加藤さんの後を引き受けさせていただいたのですが、今まで皆さん2期4年やってみえたので、加藤さんもおそらく4年やるのだろうなと思っていたので、本当に2年で辞められるということで、ある意味びっくりしました。実は私、青年部協議会に携わってから長く、初代の福田相談役の時を除いて、高井相談役、五十嵐相談役、加藤顧問の会長の下で仕事をさせていただきました。そのため、それぞれの時代の良い所、難しかった所を見ながらやって来れたのかなと、今振り返ると思います。ただ、今日お集まりの会長さんもそうなんですが、それぞれの時代に非常にキャラクターの濃い方といいますか、意見を言って下さる方がお見えになりました。これまで12年間関わってききましたが、その中で一番イメージに残っている言葉は「全管連青年部協議会は集まった理事さんを育てるところではないよ。地元で地元の思いを伝える、そんな資格





中島 誠照氏
 (なかじま まさてる)
 平成23年度～平成26年度
 全管連青年部協議会 会長
 (5代目)
 名古屋市指定水道工事店
 協同組合青年部会



松本 淳司氏
 (まつもと じゅんじ)
 全国管工事業協同組合連合
 会 常務理事
 全管連青年部の立ち上げか
 ら青年部に携わり、
 歴代会長と共に青年部の歴
 史を築き上げた。

を持った人達が集まって積極的に議論するところだよ」ということを言われました。ただ、私がこの協議会に携わったのも20代後半から30歳くらいの時だったので、まさしく自分は協議会に育ててもらったと思っています。そのことは協議会としては正しいことだったかどうか、今の自分を見てなんとも言えない部分があるのですが、そういったことがあり、それに恥じないように頑張ってきたのかなと今は思っています。

先ほど加藤顧問からお話があったように、私が会長を受けた年は、まさしく東日本大震災があった年で、3月に発災し、私は7月に会長に就任していました。今、思い返してみると全てが自粛ムードの中、我々も総会も開催するの可否も含めて非常に難しい判断を迫られていたと思ひ起こします。

そんな中、今年で4年目なんですけど、一番変わったと思うことは、非常に親組合さんとの関係が良くなったのではないかとことです。古くは高井相談役の時代に、親組合の総会におけるPR事業というのを初めて始められて、それが当たり前で総会の中に組み込まれて親組合の皆様と直接発信できるようになったこと、そして途中から、賀詞交換会等で親組合の皆様と直接お会いして青年部の状況を伝えられるようになりました。また、五十嵐相談役の時代からだと思うのですが、給水工事技術振興財団さんや、色々な外部の団体の皆さんから、青年部と一緒にこういったことをやっていただきたい、やってみたい、というお話をいただくようになって、管工事業界の中で青年部、若手がもっとも積極的に関わるといことが出てきました。そうした仕事を、親組合から青年部に任されるように

なったのが、この4年間だったのかなとっております。非常に手を広げたわけではないのですが、広がって、今の現役の三役も含めて、非常に色々なイベント等に参加をするようになりましたので、ハードな事業活動になっているとは思いますが、これも全て含めて過去の歴代会長、OBの皆さんが着実に様々な団体と関係を作って、つなげてきた結果であると、今、思いながら活動をさせてもらっています。

司会 4代にわたる会長の活動を、全管連本部において支えてこられた松本さんからお話を。

松本 まず福田さんの時代ですが、本当に規制緩和が喧伝される中、指定店は存続されたけれども、これから先、どうなるのだろう、というような時代でした。会長だった小野澤さんと青年部の福田さん、やはりそういう波乱の時にはそういう方々が出てこられるんだなと思いました。福田さんが青年部協議会会長になっていただき、組合活性化こそが全管連とか我々会員企業が生き残ることが出来る、その手伝いを我々がしないといけないんだ、ということ身を以て教えられたと思っています。ただ、先ほど言った中で、資格免許の統廃合については大変でした。実は給水装置工事主任技術者制度は、業界からの意向に沿って、指定店を守るために作ったわけですね。ところが理事会で、資格の統廃合に取り組みますと報告した話が、業界新聞の一面に「全管連が資格統廃合に検討」とぶち上げられたことがありました。翌日に水道課に呼ばれて「全管連はこういうことに反対する立場になっているのですか」と言われたときは、いやあ～、そうじゃないんです、これを中心に色々な我々の仕組みを作っていこ

うというような形でコアになるような制度なんです、ということの説明しました。その時は非常に疲れたというか、参りましたね。

福田 申し訳ございませんでした。

松本 いや、とんでもないです。福田さんは本当に素晴らしい指導者だとリスペクトしています。その他、社会貢献のための水源地キャンペーンやディベートを導入していただいた。

次に、高井さんの時代なんですけど、本当に21世紀の幕開けと共に高井さんは2代目になられたんですね。その年に水道事業者による第三者委託が制度化されて水道事業も大きく変わる時代だったのですが、我々はそういうようなことについては本当に無頓着だったなと思います。水道事業者のことであって、組合がどういようなことをやるか、ということまで考えられませんでした。

高井さんは業界のイメージアップ向上について、凄く力を入れていただいたと思っています。先ほどやはり自分で提案した機関誌『アヒルのたまご』の役割がそういうことをさせてくれたのだと思います。実は読売新聞に業界PRとして全管連の情報を社会生活面のような所に掲載してもらおうという仕掛けをしたことがあります。掲載される寸前までいったのだけれども、実現できなかった。これは本当に残念だったなと思っています。やはり水を守り地域を守るというのが我々の大きな役割ですから、今後は、住宅設備メーカーさんや管材商社さん、有識者らを巻き込んでネットワークを構築して進めていきたいと思っていますので、引き続き知恵を貸していただければなと思います。

五十嵐さんの時代は公共投資が削減されて、日本の経済が最悪の状況だった時でした。我々の仕事にも一



般競争入札が導入されて、本当に入札にはゼロか100かといった時代でした。

水道事業は、規制緩和から10年目を迎えた年で、その状況を検証して必要な措置を講じるような機会が我々にも与えられました。その対応が全然上手く出来なかった。本当に自分自身も反省していますけれども、工事業者だけが何を言っても評価、理解してもらえないんだということ、身をもって感じました。本当にこういうことを繰り返さないように厚労省や色々な水道関係者と連携を強化して対応していかないと、事務局自体がいらなくなるというか存在感が無くなるようなことになるかと痛感しました。

五十嵐さんの時には、そういう時代でしたから本部にいる我々はあまり関わらなくて、非常に苦労されたと思います。IT導入とか色々なことで功績、貢献していただきました。本当に恐ろしく新しいことに挑戦する姿勢には感服しております。

加藤さんの時は、現在の大澤会長と時代が重なっています。大澤会長は本当に課題を拾いだして徹底的にその事を解決しようという、やはりリーダーとしては素晴らしい方だと思っています。当時我々は組織強化のために47都道府県にわたる連合会化ということをや何とか早めにしていこうと、会長に提案し、それを実行してもらいました。また、災害対応の確立にも成果を上げていただいた。東日本大震災の前に、既にマニュアルを作ってあり、色々なことを準備できたということが、我々組織の大変大きなPRになったと思っています。

技術、技能者の育成にも力を入れております。技能五輪や技能グランプリなどで活躍できるような体制作りにも尽力されました。そして最後4つ目として青年



部との連携活用を事業目標に掲げました。この4番目の事については親会と青年部という目に見えない垣根を越えて、初めて共同で色々な事業と一緒にやれるような体制を敷いてくれました。ここまで10年以上の時間を要したということについては、皆さんがどれくらい苦労したかということについて、本当に申し訳なかったと思います。加藤会長はこのような大澤会長の意向を十分に踏まえていただいて、親組合との連携に努めてその距離を縮めていただきました。

中島さんの時代ですけれども、これは現会長へのお願いというか提案になりますが、時代に大変敏感な青年部の方々は、今、水道界からも注目されています。この対応力を全管連本部にもっと活かせるように組織改革とか提案をしながら、実行部隊として活動できるように仕組みづくりと一緒にやっていきたいと思っています。関係者の理解も今なら得られると思いますし、協力もしてもらえるとします。そうした活性化を図り、次の時代に繋げていけるようになったら良いと念願しております。

司会 一回り発言いただいたところで、補足や感想を。親会との話が印象的でしたが。

高井 親会との関係は随分出ましたね。そういう意味では私は、福田さんの挑戦する姿勢に憧れ、でも自分ではできないから融和路線にもっていったという気持ちはあります。結果的にそれが時流に合っていて、今の松本さんの発言になったのかなと思います。親会の方も「生意気に何を言う」という姿勢の人がたくさんおられたし、青年部自体が無い所もありました。そういった意味では福田さんの時の時代背景と加藤さんや中島さんの時の時代背景には大きな差があると、改めて感じています。そういう話を聞いていただけの会長になっただけでも、今の青年部の方は恵まれているのではないかと思います。

福田 今の人が大澤会長のことを「親父」のように呼んでいるのを聞いて凄くビックリしました。私たちの頃は金子会長なんて雲上人で、近くにも寄れないという雰囲気がありました。文字通り親子だということでも色々接触は試みましたが、松本さんにも随分骨を折ってもらいました。「青年部アワー」という企画を是非やりたくて、働きかけました。私は青年部活動



が組合の活性化につながるという信念がありましたので、「青年部のすゝめ」という冊子を作って単組でないところで、青年部を作るよう呼びかけて、色々なマニュアル本を作ったんです。結局、青年部アワーは実現しませんでした。後日、皆さんのご努力でそういうような機会を作ってもらったり、あるいはブースを設けたりできました。

高井 外部にも知ってもらわないといけないけど、中にも知ってもらわないといけないという課題は、私にとって大きかったです。『アヒルの…』はたったA4の4ページの中に私達の素晴らしい活動を知ってもらわなければなりません。今はいただいている補助金も何もないという状況で発行していたこともありましたが、そこが私の原点になっており、今でも自分の糧にもなっています。どうやったら見て楽しんで読んでもらえるかということを中心に考える、こだわりを持つということをここで学ぶことができました。先ほど、松本さんから読売新聞の話が出ましたが、その頃、悪徳業者みたいなものがはびこっていた時でもあり、社会問題・消費者問題に関連づければ、全管連を取り上げてくれるかもしれない、と考えたわけです。要は知名度を上げることによって会員を増やしたり、親会よりも先に青年部の名前を売る事によって親会に認めさせたりとか、そんな姑息なことを考えていたのも事実です。

今考えると、その努力というのは大切で、どれだけ素晴らしい活動をしていても、発信力がなければ伝わらないし、井の中の蛙になってしまいます。そういった意味では、五十嵐さんも加藤さんも対外的にもどんどん出て行って賛助会員も巻き込んでという活動をしていただきましたが、その種まきは私の時に出来たの

ではないかと思います。色々な講師を呼んで来て、話を聞いたり、ダメだったらこちらから足を運んだり、出前トークミッションといった名前をつけて、各地を行脚してまわったり…。来てくれないならこちらから行くという話で、あちこちに行ったということも非常に印象に残っています。

司会 初代と2代目は、切り拓いた人と融和を図った人ということで、絶妙のバランスだったという印象です。

五十嵐 お2人の功績は非常に大きく、私はその功績と言う輪を他の輪と結ぶことと重点を置いていました。会長をしていると、外部団体、異業種、加えて全国各地の親会からなど、様々なアプローチを受けます。私は来た物は全て受け入れて、お話を聞く、それが青年部協議会にとって有益になると判断したら、どんなにタイトであっても関係を絶やすことなく、進むようにしていました。

加藤 確固たるベースを作っていたので、それを良い所は使い、自分なりに変えたいところは変える、としか考えていませんでした。太く短く2年間務めると決めていましたので、事務局からも、もう一期やれと、だいぶお叱りを受けましたが、「やっと良い会になってきたのだから」という嬉しいお言葉もいただいたのですが、自分としては、出来ることはやったという気持ちで引き継ぎました。

司会 高井さんとは違う意味で「ソフト路線」のようでしたね。

加藤 どちらかと言うと、そうですね。先輩方がぶちあたられたその後ということで、自分の時はある程度、言葉は悪いですが、障害物が無い状態になっており、ある意味、下地を作っておいてもらっていたと思っております。

高井 日本水大賞の受賞もエポックメイキングな出来事でした。秋篠宮殿下の前で表彰をしていただいたという栄えある賞です。その賞を無謀にも貰おうと挑戦したのも無茶でした。ここだけの話、貰うためにはどうしたらいいのか、厚生労働省に話を聞きにいったんですよ。福田さんが立案された環境問題への取組みを評価してもらおうという話ですが、実際、始めたばかりの活動事業で、確かに大切な水環境保全を、水を生



業としている我々こそが出来る事をやっているのだけれども、まだ始めたばかりで、評価に値しないというのが本音でした。全国で水について一生懸命取り組んでいる団体、NPOがたくさんある中で、これはちょっと賞を貰うのは難しいなという話が聞こえてきた時に、松本さんと一緒に厚生労働省へでかけ「どないしたら賞が貰えますかね？」とストレートに関西弁で聞いたところ、相手が困った顔をしたのを今でも覚えています。新聞に初めて全管連青年部協議会が掲載され、一瞬ですけれど注目されました。栄えある賞を外部から貰えた、我々を評価してもらったわけです。全国の仲間を評価してもらうにはどうしたらいいか、ということから生まれた行動でした。身内が褒めてくれないのだったら外の人に褒めてもらう。外の人に褒めてもらえたら、親会は無視できないだろうというわけです。そこで、粘りに粘って賞を貰いにかかったという。そんな裏話が実はあります。

司会 戦略的に巧妙だったですね（笑）。

福田 やっぱ親会の見る目も変わりましたね。

高井 評価せざるを得ないですよ。外部の人から「どう思われますか？」と聞かれて、「あいつら良うやってる」としか言われないうからね。「けしからん」とは絶対に言えないので（笑）。ですから、表彰の舞台上がって賞状を貰った時には嬉しかったし、してやったりと思いました。

高井 それに味をしめて、やはり全国紙に掲載されなければダメだということで、また局長を連れて無謀にも読売新聞へ行って。それも1回だけではなくて、3回ぐらい行きました。

司会 マスコミの担当者が、全管連青年部協議会という組織を知るだけでも価値ある行動だと思いますね。

高井 五十嵐君にバトンタッチするのが決まっていた
実際まで一緒に読売新聞へ行ってました。

五十嵐 当時の高井会長は非常に厳しかったですよ(苦笑)。ですが、高井さんの妥協を知らない拘りのおかげ
で著名な方々とも接点を持つことが出来ました。

著名と言えば、こんなエピソードもありました。全
管連にも様々な面でご協力を頂いている橋本総業の橋
本社長と会談をする機会があった時、「何か望みを叶え
るとしたら」と、お話があり、私は迷わず国土交通省
大臣とお会いする機会を作って欲しいと無理なお願い
をしました。

ですが、橋本社長はその場で自らの携帯で当時の谷
垣大臣の秘書だった方に連絡と取ってくれて会談の機
会を作って頂きました。

その後、日程も決まっていたのですが、福田総理の
突然の辞意表明で実現はしなかったのですが今思い出
しても、非常に残念で仕方ありません。

高井 そんなことがあったのですか(笑)。

司会 座談会の後半には、現状と課題についてお聞き
したいと思います。

中島 全管連青年部、特に理事は忙しくなっています。
それは他団体との活動が多くなっているためで、この
4年間でやってきたことをみますと、例えば、「子ども
霞が関見学デー」というイベントで初めてお声がけを
いただいた。具体的には、我々の組合員が普段、水道
週間等のイベントでやっているような活動を、夏休み
の小学生に向けに、霞ヶ関で開催するという事です。
依頼を急遽いただき、実行部隊を組織して実施しまし
た。引き受けた理由は、全管連青年部、ひいては親組
合のPRに役立てばということなので、一般のお客さ
んに管工事組合の存在や、やっていること、例えば東

日本大震災の復旧ではこういう活躍をしましたよ、と
いったようなPRをさせていただきました。しかし、霞
が関でのイベントは初めての経験ということもあって、
PRするまで行き着かずにイベントで終わってしまった
というところは反省点として残っております。その
ように、イベントがあると引く手数多という状態です。

また、水道施設耐震化プロジェクト会議というのが
ありまして、これには富山の会長で全管連の副会長の
藤川さんが会議に参加されています。その中でワーキ
ンググループがあり、水道施設の耐震化率が低いとい
うことを一般の人にとどう伝えるかという活動方法を検討
したり、世論を盛り上げて予算を確保していく方向に
もって行けるような活動をさせていただいております。

これも、青年部に声がかかったということは、地元
レベルで一般のユーザーさんに日頃から、水を使った
イベントをしているので、その辺りのノウハウを活用
して、一般のお客さんを巻き込んだ活動に期待してい
ただいている、というところが出発点だと思います。

ただ、全国の会員一丸となった活動ではないので、
そのプロセスや方法を皆さんに伝えていくことを通し
て、地元で活かせるところがあれば活かしてほしいと
考えています。逆に、地方でこういうイベントをやっ
たら一般のお客さんに喜んでもらえたよ、というよう
な情報を貰う事によって、それを何らかの形で活かし
て、中央でのイベントに実現していく、ということが
出来ると思います。全国一丸となつての活動は難しい
のですが、歴代の会長さんにご出席いただいております
ので、何かヒントが貰えれば幸いです。

高井 他団体との付き合いや対外的な活動で忙しく
なったということは、青年部としては望ましいことだ
と思います。福田さんや私の時には、情報が欲しいし、
こちらから交流したいと思っていましたから、それに
比べると随分温度差があるようにも感じられます。そ
ういった中で、時流にあった活動が必要だし、もう一
つはそれが青年部協議会にとって、利のあるものなの
か、そうではないものなのかという選別は必要な時に
きているのかなと思います。もちろん物事を損得だけ
では考えられないですが、チャンスを受けて、そこへ
行って色々なことに挑戦することは大事なことです。

耐震化プロジェクトの話も、今後につながる我々の



生業の話だから良いと思うのですが、だけど、半分片足はつっこんでも、あと半分は全国のメンバーにとって、有益なものかどうかという判断を、会長やキャビネットはしていかないといけないことじゃないかと私は今、お話を聞いて感じました。

私が今、地元でやっているのは人材育成で、実務者委員会というものに、会を代表して人を送っています。私達も次の担い手として育てられたけど、私達のさらに次の担い手を育てることが今、急務ではないかと思えます。建設業は人材不足になっているし、我々の業界も早急に手を打たなければなりません。全管連の親会としてもそういう取り組みはしているとは聞いていますが、そのスピードでは間に合わないぐらい今、業界の若い担い手が少なくなっています。これは地方自治体も同様で、行政を担う技術者も場合によっては集まらないようなひっ迫した状況になっています。

そんな中で、我々中小企業へ、将来の技術者となってくれる人を入れようと思っても、工夫とか知恵を絞って、青年部の柔軟な姿勢や行動力、アイデアを活かさないと若い人達は簡単には入ってこないと思えます。我々の業界が10年20年後に存続する、そして全管連が存続するためにも、そこを重視してやらないといけないのではないのでしょうか。今、為すべきことは、人材の確保ではないかと思えます。それは全国の会員の課題で共通する事だし、そこが我々の腕の見せ所ではないかと今、感じています。

松本 全管連として、平成27年度の事業計画で設備工業高校との連携を考えておりますが、青年部として支援していこうという仕組みについてお話いただければ。

中島 業界に我々の次の世代が入って来ないという以前に、新しい職方が少ないという状況もありますので、対応は急務です。設備工業高校の全国的な組織がありまして、たまたま平成27年の賀詞交歓会の際に、その事務長さんにお会いする機会があり、意見交換をさせていただきました。我々設備業に対する理解も少ないし、担い手も少ない中で、我々なりに生徒さんにPRする機会を欲しいという話をさせていただきました。それに対して、7月に設備工業高校の先生方が集まる大会があるので、そこで直接全管連がPRしてみてもどうかというお話をいただきました。前向きに日程を調

整し直接PRさせていただきたいと思っています。

また、技術の継承については、今までスポットが当たってなかったと思うのですが、技能五輪大会に向けて、「技能五輪チャレンジ」と名づけた事業を実施しています。元々は若手の方が自分の技能を高めるきっかけとなるようにと取り組んでいる課題でしたが、我々自身が挑戦してみて、技術的にはそれほど難しくはなかったのですが、それにより、今後、若手が技術を高めるためにどうやたらいいか、どういうフォローをしたらいいか、ということを探る事ができました。そうしたことをきっかけとして、技術の継承や業界のPRを図ろうとしています。

高井 工業高校や設備工業科自身が無くなりつつあるという現状が全国で見取れます。兵庫県もそうなんですよ。だから、「設備工業」という名前に関わらず、高校生、大学生に対して、我々の業界はこんな業界なんだ、こんな素晴らしい所があるし、やり甲斐があるんだとPRしていかなければなりません。そのためにはまず、学校・教員に知ってもらわないといけない。学校・教員が知る事によって、それが生徒に伝わる。生徒に伝わる前に保護者を説得しないといけない。これは大学生の親も高校生の保護者も一緒ですよ。そういったことをPRするためのツールとかDVDなどが整えられて、初めて7月の舞台でも上手くいくと思うんですよ。そうしたものが我々の業界には一切ないでしょう。

中島 ありませんね。

高井 全管連だけではなく日空衛など、関係する団体・組織にも全くないので、これこそ我々青年部が先駆けてやらないといけないことではないかと思えます。それは投資しても絶対実のある物だから、それこそ親会とか今の賛助会員、それから行政に呼びかけて、是非タッグを組んで進めるべきです。行政のお手伝いばかりするのではなく、こちらのお手伝いもしてもらって、人材を確保できれば良いのではないかなと思えます。これは今の親会ではちょっと腰が重たすぎるのではないのでしょうか。青年部だから出来る、フットワーク良く動いて、そのモデルを出来上がった物を、全国へ発信していく。それを全国で活用して、その地元の学校と教育委員会とタッグを組んで、見本になる事が出来



れば、業界の担い手が入ってくるのではないかと思います。

学校の中に、一級管工事施工管理技士のポスターが貼ってあるのは少ないと思うんです。電気工事士とか土木の技能士とか建築士の資格のポスターは貼ってあっても配管技能士とか一級の管工事施工管理技士が貼ってあることは少ないですよ。業界のポスターさえPR出来てないんですよ。先ほど、発信が大切だと言いましたが、やはりそれが出来るのは青年部ではないかと思います。

福田 名称からして曖昧ですね。工業高校の中でも機械科と言っているとところもあれば、別の名前になっているところもあり、管工事がどの分野なのか、明快でないということですよね。それだけやはり業界のPRが足りていないということでしょう。高校に対してはインターンシップなどが非常に効果的かなと思います。先生方がだいたい理解がないもので、進めてくれないと、生徒は動かないですからね。

それと、アドバイスをということですが、私が会長を務めている時にいつも考えていたことは、全国の組織だから、全国のメンバーを巻き込む方法がないかということに常に考えていました。例えば、組合の存続問題が出た時に、組合の在り方に対する懇話会という事業を八戸の方にやっていただいたんですよ。やり方としては、こういうテーマについて各単組で語り合ってくれという話を全国に発信して、そこで得た情報を

元にして理事会なりで議論するとか、次のアクションへ移るとか、そういう手順を踏んだわけです。それによって、一つ同じ情報を発信するにしても、参加意識が全国の仲間にあるとすれば、非常に事業の効果は大きいのではないかなというように考えて、色々やってきた覚えがあります。単なる方法論ですが、また参考にして頂けたらと思います。

五十嵐 設立から多種多様のコンセプトを掲げて様々な事業を実行してきた中で、成功した事業もありますが、打ちのめされた事業もありました。

青年部協議会のメリットそれは、全国に連なる会員、そして横に繋がるネットワークだと思います。もちろん会員目線での事業というのは大切だと思いますが、年に1つだけは全国組織として誇れるPR事業を行ってほしいというのが一点。あと1つ、今後は仕事につながる活動もこれからは大切ではないかと思っています。例えば、各自治体が持っている、配管図等を指定業者が一定の条件を保ちながら、閲覧が出来、休日や夜間等の漏水等でも、管路が確認出来て、スムーズに修理を行えるような、自治体との連携模索などです。

全国の様々な事例を集約し、厚労省に持ちかけてトップダウンで、各自治体に取り組んで頂けるような活動も非常に難しいことではありますが、行っていく必要があるかと思っています。

高井 「官から民へ」という動きは全国的に拡大しており、その背景には行政の人間が少なくなってきた、水

道局でも職員の削減を図っていて、運営していくために急いで官から民へと、厚労省も旗を振っているわけですから、その流れで言えば、いかに合理化を図るか、ということでしょう。五十嵐さんが言った内容は理にかなっていて、ただ、個人情報や公の大切な情報であるから、セキュリティという部分では、それなりの対策が必要ということでしょう。例えば各会社のデスクで閲覧は出来なくても、水道組合へ行けばリアルタイムな最新の情報が見えるぐらいのことが出来るように調整を図るとか、そういった成功事例を青年部が集めて、モデルがあることを示してあげるといようなことをするというのは有益です。

ただ、親会を飛び越してそれをやって認められるかどうかという問題はありますが。だけど、親会と青年部の垣根が今、低くなっていて、青年部にも親会の人と同じ年齢の人がいるのも事実だし、そんな中で、私達の担う部分は、ここは絶対譲れないという部分と、私達が出来る事を念頭においてという気はします。「親会の下請けであってはいけない」と、よく福田さんに言われました。オリジナリティがないといけない、というのを言われたのですが、これはやはり時流ありきのことで、やはり20年たっているから、これからの先を考えた時に、親会の一部は我々が担うんだということが、昔は叶わなかったけれど、今だったら叶うのかなという気も五十嵐さんの話を聞いて思いました。

加藤 確かに、人材の確保と育成は、地元の経営者の1人としても切実な問題で、身につまされている部分は正直あります。余談になるかもしれませんが、京都府の土木の方のお話によると、府の土木の職員自体が募集をしても来ない状態になっているそうです。今、京都府下で例えばですが、土木の勉強をしている学生というのは100人足らずです。京都府下だけで言いますと土木科は伏見工業高校と舞鶴高専しかありません。よく考えてみれば、土木科をわざわざ選ぶという学生は、家業が土木分野である人間の方が多いんですね。そうすると、卒業後には家業を継ぐ可能性が高いわけで、行政としても今後の課題として考えていかなければなりません。その話をされた方は、管工事組合じゃない方なのですが、土木としてタイアップして考えていきたいと思いますという話もしておりました。それから、

高校生、大学生、専門課程にこだわらず、PRしていくということは必要なことだと思います。色々な機会でも高校生にPRをしてきましたが、管工事業とは何かということが、何らかの形で伝わっていれば良いのですが、果たしてどこまで伝わるかということは、本当に分かりません。

松本 私の方から全管連としての新しい動きを紹介したいと思います。平成25年の11月になりますが、自民党に水道事業促進議員連盟を設立され、公明党にも26年10月、政務調査会に上水道事業促進委員会が設置されました。

全管連としては国会議員の先生方との連携を図ってまいり、平成27年度水道予算については、当初予算が久しぶりに増えたり、耐震化の予算が50億円確保できたりという成果を上げることができ、やはり先生方の力というのは大きいものがあります。全管連でも、今まで政治力が無い等色々なことも言われてきましたが、やっとそういう流れを、若干でも変えられるような対応を、これから検討していきたいと思っています。そういう中で皆さんが、どういう所に期待しているか、事前に聞かせていただきたいと考えています。

後、品確法が改正されたりして、企業の動きも変わってくると思いますけれど、そういう中でやはりアウトサイダーとの差別化が、これからの生き残り策に繋がっていくのではないかと思いますので、そういう点について、皆さんから意見を集約できるような体制を作っていけると良いと思っています。

司会 最後に、現会長から一言。

中島 本日は、青年部協議会の歴史も含めて、色々なお話を伺う事が出来ました。課題というのは常にあるものなのですが、1つ1つの課題を着実に片付け、改善していかなければならないと思います。高井相談役から人材に関してのお話をいただきましたし、また、その手法についても福田相談役からいただきました。今日いただいた話を理事会をはじめとして、会員と深めながら、今後の活動に繋げていければと思っております。今日はお忙しい中、お越しいたごき、意見をいただきました。本当にありがとうございました。（了）

次代の青年部に誇りと伝統を持って頂くために

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 現会長 秋山 雅仁

この度、全国管工事業協同組合連合会青年部協議会は創立20周年を迎えることができました。平成9年2月に管工事組合及び組合員の次代を担う後継者を育成することを目的として全管連青年部協議会を設立され、諸先輩方の絶え間ない努力と行動により、現在では全国に誇れる団体に築き上げて頂きました。これもひとえに、親組合の皆様、そして歴代会長をはじめ、役員ならびに全国の青年部会員の永きにわたるご努力の賜物であり、深甚なる敬意を表する次第です。

この20年間は、わが国経済社会を取り巻く環境が大きく変化した激動の時代でありましたが、この間、全管連青年部協議会も時代と共に大きく変化いたしました。そしてこの度、創立20周年を機に記念誌を取りまとめることは、全国の青年部会員が次の新しい時代に向けた全管連のあり方を考えるうえで大変意義深いことであり、また各地域の更なる発展に大いに資するも

のと確信しております。

過去の歴史を振り返り検証すること。そこには歴代会長並びに多くの諸先輩方の艱難辛苦の足跡がしっかりと標されており、その誇りと伝統の重みを強く感じます。奇しくも20周年という節目の年に私が拜命した全管連青年部会長、全管連20年の歴史の中で単なる通過点になるのではなく、一つの起点として何らかの結果を残し、次代へとしっかりとバトンタッチしなくてはならないのだという使命感を持ち活動を続けて行きたいと思えます。

最後になりますが、ここまで全管連青年部協議会をしっかりと導き頂いた歴代会長並びに諸先輩方に心から感謝と御礼を述べさせていただきますと同時に、これから後継の諸先輩方が、揺るぎない信念の下、全管連青年部協議会を愛し互いに切磋琢磨しつつ、自企業との両立を遂げることが出来るよう心の底から祈念申し上げます。

青年部協議会に望むこと

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 初代会長 福田 可也

20年の歳月を経て、当青年部協議会の活動も、親組合と連携して 諸問題に取り組む姿勢が窺える。業界の未来を切り拓く組織としては 大変頼もしい限りです。

特に「水道耐震化プロジェクトWG」への参画は、わが業界の代表者として、大いに発言をしてくれたことと拝察します。しかしこのプロジェクトは、市民の理解を得つつ 様々な活動が必要であり、当会の存在理由とも言える 斬新な発想と行動力の発露としていただきたいものである。我国の災害時対策は、関西、東日本の大震災を経験し、大きくその体制が整備されたところですが、発災後の対応以上に有効な手段は、予防としての耐震化であることは自明の理であります。そういう観点からも、ステークホルダー当事者として、具体的に社会のコンセンサスを得る活動を全国規模として展開されることを期待します。

また上記と並行し、ライフラインの担い手としての当会には、発災時の地元体制としての初動給水等BCPの普及整備についても 行政と連携し尽力して欲しいところ です。

「現役の青年部へ」

光陰矢の如しと申しますが、私の実感としてはまさにそれ以上であります。

東京如水会館での設立総会では、発起人代表として、各地元の若い人たちのレベルアップこそが、当会の設立の趣旨であるご挨拶しました。

爾来20年間、現役諸君は確実に 期待通りに いやそれ以上に その役割を果たして来られました。さらにこれからの未来に向け、社会の為に活躍されんことを祈っております。

機動力に優れた組織体制の構築を

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 第2代会長 **高井 豊司**

地域に密着した組織力と長年培ってきた技術力が備わっている我々は、行政の仕事の一部が民間委託になる機会が増えている今、仕事を任せて貰える組織として、これまで以上に信頼に応えていかなければならないと感じます。今後も若い人材を継続して育て、実績や経験の上にある技術やノウハウを丁寧に継承し、民間であるがゆえに出来る効率のよい運営を目指すことが望まれます。有益情報の瞬時共有化も含め、更に機動力に優れた組織体制にしていくことが大切なポイントであると思います。

また、全国から寄せられた優れたモデル事例や今までにない新たな取り組みをタイムリーに紹介し、寄せられる様々な悩みや問題に対して、あらゆる観点から現場にマッチした答えを提供し助言できないものかと考えます。

業界の活性化は勿論、多種多様なテーマで全管連の未来を考え、異業種とのマッチングやコラボレーション事業などの試みも加速させ、国民に必要とされる団体であることを積極的に発信していくことが今後に必要な取り組みではないかと考えます。

[現役の青年部へ]

斬新な発想と積極的な行動で業界の見本となるべく活動を続けられている現役青年部の皆さんに心から感謝と敬意を表します。

世の中には画期的なことや実績の無いことをやると批判の対象となってしまう風潮もありますが、人のやっていないこと、試していないことをやってこそ青年部。これまでの実績や経験も活かしながら、今後も型にはまらない魅力ある活動を目指して欲しいと願っています。

自治体との連携強化により、より一層のサービス向上を！

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 第3代会長 **五十嵐 俊弘**

全国的に官から民への以降が進む中、各自治体が保有している独自の配管図等は指定工事業者であれ、窓口には赴かないと閲覧出来ないシステムとなっているのが現状である。

管の老朽化による自然漏水は休日、夜間を問わずいかなる場所でも発生し、また解体業者による無断な給水管切断等の事例もある中、如何にスムーズな現場対応をすることが求められているものの、必要な情報が得られないまま現場に出向き、対応に苦慮することが頻繁にあります。

ある一定の条件をクリア出来れば、オンラインでマップピング等の情報を得られ、即座に現場対応している地域は存在するのでしょうか？

全国の様々な事例や意見を集約し、自治体との連携を進めて、更なるサービス向上を目指す事が他業者、他団

体より、一歩も二歩も抜け出る、鍵になると考えます。

様々な壁は立ちはだかるものの、全管連として、先頭に立って自治体との連携模索を図り、スピード感溢れる対応は必須条件である。

これまで取り組んできたことに加え、全国会員一社一社の利益向上に繋がる取組みをあえて名付けるとするなら、「株式会社 全管連」！！

20年の経験を活かし、さらなる高みへ

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 第4代会長 加藤 炳秀

現在、水道業界の課題として、水道職員や工事に携わる従事者の減少と高齢化で技術の継承への取り組みが問題となっています。我々青年部はそのような状況の中、技能五輪全国大会への課題製作に取り組みなど、若年者へ向けたメッセージを行ってきました。現場の第一線で働く我々の声を今後も届けるようにできればと思います。

また、同業者や同世代の人の青年部を知ってもらうための活動を増やし、SNSに代表される「facebook」や「LINE」を使った情報発信を続けてきました。今後、このような情報発信はさらなる進化を遂げ、私達の業界にも使用されてくると思われますので、その際には時代に乗り遅れないようにしていきたいです。

今後、未来の建設業界を担う若年技能者の若者達に、我々「命の水」を守る水道業界の素晴らしさを伝える

とともに、青年部らしい柔軟な発想の事業を期待しています。

【現役の青年部へ】

私が会長を務めた2年間は、役員の見解が活発でした。その姿勢は失わず、私の強い意見を出しながら、青年部事業を進めて行ってほしいです。また、今後は親組合の役員になられる方も多くいると思いますので、青年部らしい発想を親組合のステージで生かしていただけるよう期待しています。

日本の水道を守るのは君たちだ！

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 第5代会長 中島 誠照

地域性、あるいは各々の過ごした時代背景により、同じ青年部会員であれ、活動に対する動機づけ、活動方法の違いを肌で感じる機会は多いと思います。一方、全国より集まる多様な価値観をもつ会員が、その違いを理解し、共通点を模索する過程こそが、全国組織である当会の醍醐味であり、意見交換を重ねてきた結果、地域密着、豊富な知識と技術力を持つ誇り高き技術者集団といった長所を認識でき、協議会内で共有に結びついてきたのだと思います。

例えば、組織力を高めた災害対応の必要性、あるいは新規入職者確保の難しさを、当会の設立時の20年前に想像するのは難しかったように、今後も課題が次々と現れるでしょう。ただ、どんな状況下であれ、「地域密着」「水道を守る」「知識を高める」「技術力を高める」といった根本の部分に常にぶれずに意識した活動

を切に望みます。この意味で、昨年、「技能グランプリ課題の挑戦」という事業を通じて、技術を高め合う姿勢を、設備を学ぶ学生へ発信した活動について、課題製作から学生へのPRを含めた一連の流れに運営側の資質と問題解決に対する嗅覚、素早く効果的な行動力を見て大変心強く感じました。

会員各々が私共の根っこである、地域の水道を守るという視点を意識し、官民間問わず様々な関係団体との意見交換、連携、発信に積極的に取り組むことが地域の水道を守り、さらに自社、地元組合、協議会の発展に繋がると信じます。若き皆様には、各々の行動、活躍が日本の水道を守る使命の一役を担っている意識のもと、これからの活動に取り組んでほしいと思います。皆様の益々の発展と活躍を期待しております。頑張れ、全管連青年部協議会！

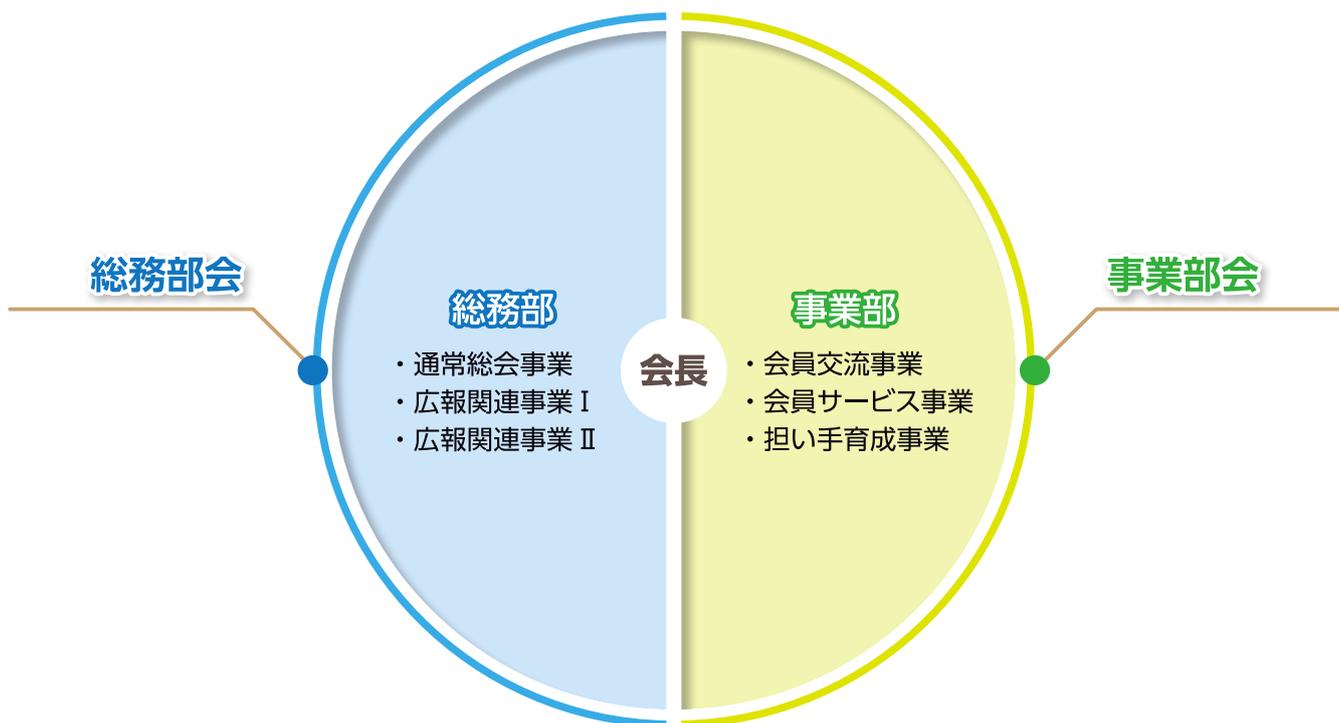


全国管工事業協同組合連合会 青年部協議会とは

全管連青年部協議会は管工事組合及び組合員の次代を担う後継者を育成し、会員相互の親睦と親密なる提携を図り、その活動を強化することにより、管工事業と中小企業の組織活動の推進と振興に寄与する事ことを目的として、1997年2月15日に設立されました。

設立20年を迎えた2016年9月現在、本会の規模は27都道府県31団体、会員1,600名を数えるまでになりました。(参考：設立10年時 24都道府県29団体1,400名)

本会は、「既成の概念にとらわれない自由な発想と行動力で業界に新風を送る」をモットーに、よりよい社会・環境の未来を願って、さまざまな青年部らしい活動を続けています。



年度ごとにテーマに沿った事業活動を展開しています

五十嵐会長

2007

「ディテール/detail」
細部にまでこだわった新たなる改革のスタート

2008

「スケールメリット/scale merit」
規模の大きさに伴う利益を目指して

加藤会長

2009

「Only One」
皆さん、各々のファンを作りましょう

2010

「ゆいまーる」
相互扶助の気持ちで行動しよう

中島会長

2011

「結集 ～ひとつになろう～」

2012

「温故知新 ～回顧・そして成熟へ～」

2013

「挑戦 一歩前へ」

2014

追求 ～高め合おう～

秋山会長

2015

看脚下（足元を見よ）

2016

ボトムアップ（底上げ）

通常総会開催記録

新潟総会

平成19年7月14日

開催地：新潟市

ホテル新潟



【プログラム】

- ・講演会「双葉山に学ぶ相撲道の再考」（講師：前時津風親方、第8第日本相撲協会理事長 内田 勝男氏）
- ・「日本酒」利き酒大会

広島総会

平成20年7月12日

開催地：広島市

広島国際会議場、
ANAクラウンプラザホテル広島



【プログラム】

- ・講演会「被爆体験を語る」（講師：新宅 勝文氏）

秋田総会

平成21年7月4日

開催地：秋田市

秋田キャッスルホテル



【プログラム】

- ・講演会「日本の水道のゆくえ ～民間活力の導入と施設更新～」
（講師：東京都市開発株式会社顧問 石井健睿氏）
- ・竿灯（かんとう）の実演ショー

京都総会

平成22年7月3日

開催地：京都市

京都全日空ホテル



【プログラム】

- ・講演会「若者へのメッセージ」
（講師：近畿産業信用組合代表理事 会長 青木定雄氏）
- ・腕相撲大会

東京総会

平成23年7月16日

開催地：東京都千代田区

如水会館



【プログラム】

- * 東日本大震災の影響により講演会の開催は無し

富山総会

平成24年7月14日

開催地：富山市

名鉄トヤマホテル



【プログラム】

- ・講演会「日夜水道を支える管工事業への期待」
(講師：厚生労働省健康局水道課課長 石飛博之氏)
- ・講演会「心に木を育てよう ～持続可能な未来に向けて～」
(講師：稲本 正氏)
- ・第1回全国カン切断王選手権大会

徳島総会

平成25年7月20日

開催地：徳島市

ホテルクレメント徳島



【プログラム】

- ・講演会「道の教育」
(講師：専門学校禅林学園校長、禅林学園高等学校校長 小判繁樹氏)

埼玉総会

平成26年8月23日

開催地：さいたま市

浦和ロイヤルパインズホテル



【プログラム】

- ・講演会「人と人とのつながりの大切さ」
(講師：サッカー解説者 セルジオ越後氏)

青森総会

平成27年8月1日

開催地：青森市

ホテル青森



【プログラム】

- ・講演会「世界一を目指して」
(講師：齋藤春香氏、元ソフトボール女子日本代表監督)

【創立20周年記念式典】

東京総会

平成28年8月20日

開催地：東京都新宿区

京王プラザホテル



【プログラム】

- ・講演会「汝何の為にそこにありや」
(講師：佐藤裕之氏、羽後設備㈱代表取締役社長)
- ・ピッチシ管管

水源地をきれいにするキャンペーン&エコ倶楽部探検隊

<http://www.zenkanrenjr.jp/water2015/index.html>

全管連青年部協議会の継続事業「水源地クリーンキャンペーン・エコ倶楽部探検隊」のレポートが完成しました。今年度も12単組の応募があり、全国各地で活発な活動の報告があり、平成27年6月6日～平成27年11月28日に実施されました。



北は北海道から南は大分県まで、青年部会員や社員の方、協力業者の方、ご家族、子供からお年寄りまで各水源地のゴミ拾い等で汗を流していただき、「水源地クリーンキャンペーン・エコ倶楽部探検隊」の趣旨にご賛同下さり、ご参加の皆様にご心より感謝申し上げます。

阪神大震災から21年、東日本大震災から5年が経ちますが、改めて忘れてはいけない、風化させてはいけない、「水」の大切さ、きれいな「水」のありがたさを実感できる活動ではないでしょうか。

美しい日本の環境、水源地をより美しく子供たちの世代、その次の世代まで引き継いでいけますよう、全管連青年部協議会発足からの継続事業であるこの活動が全国の全単組に広がることを願っております。

活動事例は全管連青年部HPにて紹介しています。



1 水源地をきれいにするキャンペーン

宮城県管工業協同組合青年部連絡協議会



釜房ダムにおいて清掃活動を行いました。4グループに分かれてそれぞれの担当区域を清掃し、「清掃していますよ」「ゴミを捨てないで」のPRかねて往来する車に目立つように黄色の服を着用し、約1時間の清掃を行い、その後は釜房ダム資料館で水道水がどのような過程を経て蛇口から出ているのかを見学しました。

平成27年8月8日

2 合同ボランティア清掃活動

福島地区管工事協同組合青年部・
(一社)福島県空調衛生工事業協会北支部



日本一の清流「荒川」の河川敷にある「荒川桜つつみ河川公園」と河川敷の清掃活動を行いました。この時期福島では恒例の「芋煮会」を行うグループが多く、子供たちの姿が多くなっており、福島が復興に向けて、さらに前進している事を実感する事ができ、うれしく思います。清掃活動は可燃・不燃ゴミ、資源物等が集まりました。

平成27年10月24日

3 第13回ゴミ清掃ボランティア活動

東京都管工事工業協同組合青年部長協議会



大田区の平和の森公園において、ゴミ清掃のボランティアを実施しました。清掃活動は青年部員とその家族が参加しました。公園は整備が行き届いている事もあり、ゴミはほとんどありませんでした。清掃後は昼食会もかねて会員同士親睦を深めることができました。

平成27年9月27日

4 記念植樹草刈り、家族交流バーベキュー(第8回)

富山県管工業協同組合連合会青年部(パイレン会)



全国大会富山大会記念植樹の周辺草刈り、維持管理活動を、富山市山田地内の山田ふれあい森林公園KOROりんの森にて草刈りを行いました。私たちは自然・生命の根源にある「水源地＝森づくり」を通じた循環型社会の重要性を再認識し、会員家族を含めた交流の場として活動を継続しています。

平成27年9月27日

5 水源地見に行き隊

名古屋市指定水道工事店協同組合青年部会



みんなでゴミ拾いや雑草刈りを行っています。

名古屋の水道の源流である木祖村を訪問し、様々な活動を行う事により参加者にいつも普通に飲んでいる水道の大切さを知って頂く、何年も継続している企画です。

最初はダム内部にあるパルプ室の見学、次にバスで味噌川ダムの防災資料館に移動し、ダムの目的や構造について学びました。

平成27年9月27日

6 水道週間に伴う疎水周辺の清掃活動

京都府管工事工業協同組合青年会



ゴミを拾いに鴨川沿いを青の集団が縦横無尽

今年は親組合が毎年行っている清掃活動事業に参加させて頂きました。当日は疎水沿いコース、平安神コース、鴨川周辺コース三条駅から東大路通コースと4つのコースがあり、当青年会は鴨川周辺コースを選定。京都は観光地なので、ゴミはほとんど無いと思っていましたが、空き缶などのゴミもあり、清掃活動の余地はありました。

平成27年6月6日

7 石屋川クリーンキャンペーン

神戸市管工事工業協同組合青年部会



清掃作業中

神戸市東灘区の石屋川で河川の清掃活動を行いました。小林会長の挨拶の後、ゴミ袋やゴミバサミを持って移動。清掃を始めて気が付いたのはタバコの吸い殻の多さで、その後はガラス片、壊れた傘、空き缶など1時間でしたがゴミ袋に重みを感じました。水は人間には造れないかけがえない資源。しかし、水質汚染につながるゴミは我々人間が作り出したもの。私達がこの矛盾に気づき、理解する事でゴミを減らすことができれば、もっと気持ちのいい街神戸になります。平成27年11月22日

8 水源地クリーンキャンペーン・エコ倶楽部探検隊 ～北平野配水池をきれいにしよう～

姫路市管工事工業協同組合青年部会



軽トラック一台分のゴミ

北平野配水池で清掃活動を実施し、総勢19名が参加しました。最初は雑草刈、落ち葉などのゴミだけと思われましたが、不法投棄されている電化製品、ペットボトル、コンビニエンスストアの袋などのゴミがかなりありました。しかし、参加者の協力のおかげで軽トラック1台分のゴミを集める事ができ、集合写真では参加者の達成感と満足感あふれる顔をしていました。平成27年11月28日

9 ボランティア清掃活動(ゴミ拾い)

広島市指定上下水道工事工業協同組合青年部会



全国水道週間に合わせ、広島市水道局牛田浄水場周辺の清掃活動を行いました。牛田浄水場では、火ばさみとゴミ袋を手に清掃を開始しました。この道路は幹線道路で交通量も多く、植え込みの中には空き缶や、レジ袋、そして煙草の吸殻等、たくさんのゴミが投げ込まれていました。メンバーは仕事をやりくりし、集まったゴミは予想以上でしたが、浄水場水辺の美化に貢献ができたのではないかと思います。平成27年6月6日

10 熊野水源地クリーン作戦(XI)

福山管工事協同組合青年部会



福山市熊野町の「熊野水源地クリーン作戦XI」。少し肌寒さを感じながらスタートしました。ポート1隻・火ばさみ35本・ゴミ袋80枚及びゴミ回収車搬用2トンダンプ1台、軽トラックにて実施。この機会を通じ、普段当たり前に使っている「水」というものが長い経過を経て、私たちの目の前にただただ存在していること。当たり前を当たり前にしないことで、我々が生きているのではなく、生かされているという感謝の心をもって、さらにその意識から新たな行動が生まれていく好循環というものを作り出せると感じました。

平成27年11月7日

11 水源地ボランティア清掃

高松市上下水道工事工業協同組合青年部会



板瀬池周辺で清掃活動を実施しました。過去に色々な水源地へ行っていますが、その中でもトップクラスの美しさでした。そのため、ゴミを探すのに苦労しました。私たちの仕事で排出するゴミといえば、塩ビパイプが多いかと思いますが、リサイクルすることができるそうです。清掃することも大事ですが、ゴミを出さないことやリサイクルすることを考えなければならぬ時代なのかもしれません。今後の青年部の課題として取り組んでいきます。平成27年11月28日

12 日本一きれいなまちづくり「水道水源クリーンアップ大作戦」

大分市管工事協同組合青年部会



大分市水道局古国府浄水場の取水口付近上流大分川河川敷ならびに堤防等の清掃美化活動を行いました。当日は天候にも恵まれ、1時間ほどの清掃活動を実施し、空き缶やペットボトル、ビニール袋、紙くずなど、70リットルのゴミ袋で20袋ほどのゴミを回収する事ができました。このような清掃活動により、水質保全の大切さを知り、会員一同の意識の向上に繋がるとなっています。平成27年5月30日

第7回 日本水大賞 「審査部会特別賞」受賞 (平成17年)

全管連青年部協議会が毎年行っている「水源地をきれいにするキャンペーン」と「エコクラブ探検隊」が、第7回日本水大賞の審査部会特別賞を受賞しました。平成17年6月3日、国際連合大学ウ・タントホールで開催された表彰式・受賞活動発表会では、青年部協議会発足間もない平成11年からの活動を評価して頂き、今後も充実した活動を展開していく大きな励みとなりました。

「全管連ジャーナルへの寄稿」

全管連青年部協議会の活動を親組合機関誌「全管連ジャーナル」に掲載させて頂くことで、親組合の皆様にも活動を周知している事業です。

毎月1回発行される「全管連ジャーナル」は、管工事業界の関連法令などにテーマを絞った専門誌です。

青年部は毎月2頁を頂き「アヒルのたまごニュース」として、事業報告や会員組合の活動紹介など青年部協議会の情報を提供しています。

全管連青年部協議会
アヒルのたまごニュース No.217

今月号は、7月1日に熊本県阿蘇郡西原村で行った青年部のボランティア活動の報告です。

「熊本地震復興ボランティア活動を終えて」
～熊本県西原村でボランティア活動を実施～

平成28年熊本地震におかれまして被災された方々にお見舞い申し上げます。
平成28年7月1日、福島県管工事業協同組合連合会青年部を代表して全管連青年部協議会の熊本復興ボランティア活動に参加してまいりました。5年前の東日本大震災において全国の方々から励みや支援をいただいたことを思いながら心を込めて作業してまいりました。

熊本市中心街に入って感じたことは、ライフラインや市街地の整備等の復旧が非常に進んでおり、街が円滑に、平穏に機能している事と、何よりも生活している人たちに笑顔が見られている事が、非常に印象的でした。我々東日本大震災の2か月後は、ライフラインの復旧工事等の進捗と供給のバランスが一致せず、余裕のない日々を送っていたように思います。恐らく、地元の業者の結束とボランティア活動の円滑な運営が功を奏しているのだと思います。復旧作業が進む西原村付近へ近づくと倒壊した家が多数みられました。熊本地震は過去最大の震度7ではあるものの、東日本大震災とは異なり、広範囲ではない事と、地震が中心市街地に大きく及ばなかった事、沿岸部の津波が少なかった事も復旧作業の運営の円滑化につながっているのかな、と感じました。

ボランティアセンターにはなんと、福島県在住の私の小中学校の先輩が作業にあたっており、驚かされました。「5年前の思いを思い出して来たんだー」と言っておられました。そんな思いをもっている方がいる事を感じる貴重な活動となりました。

そして、2班に分かれ、1班は数の水廻りの復旧作業を行いました。西原村では倒壊した民家が多く、水廻り復旧がままならぬ状況でした。そ

ちには笑顔が見られている事が、非常に印象的でした。我々東日本大震災の2か月後は、ライフラインの復旧工事等の進捗と供給のバランスが一致せず、余裕のない日々を送っていたように思います。恐らく、地元の業者の結束とボランティア活動の円滑な運営が功を奏しているのだと思います。復旧作業が進む西原村付近へ近づくと倒壊した家が多数みられました。熊本地震は過去最大の震度7ではあるものの、東日本大震災とは異なり、広範囲ではない事と、地震が中心市街地に大きく及ばなかった事、沿岸部の津波が少なかった事も復旧作業の運営の円滑化につながっているのかな、と感じました。

ボランティアセンターにはなんと、福島県在住の私の小中学校の先輩が作業にあたっており、驚かされました。「5年前の思いを思い出して来たんだー」と言っておられました。そんな思いをもっている方がいる事を感じる貴重な活動となりました。

そして、2班に分かれ、1班は数の水廻りの復旧作業を行いました。西原村では倒壊した民家が多く、水廻り復旧がままならぬ状況でした。そ

親会の中で、福島県連青年部より、熊本青年部へ親連会の贈呈を行いました。5年前、東日本大震災の際には全国の方々の沢山の支援、励まし、義援金をいただきましたので、その思いを熊本の方へ伝えることができました。今後この「輪」が広がっていく事を期待します。

熊本地震復興ボランティア活動に参加して、人と人とのつながりである「輪」が素晴らしいものである事を改めて感じました。そして新しくできた、アツイ熊本、九州男児との「輪」をこれからより一層深いものとしながら、この「輪」を全国へ広げていきたいと思っています。

最後にこの活動を行うにあたり、短い期間でありながら、スケジュールの調整等に尽力していただいた事務局 仲村氏に感謝いたします。

福島県管工事業協同組合連合会青年部
日下 貴博

<http://www.zenkanrenjip>

「メールマガジン」の配信

全管連青年部協議会の活動を毎月1回、メールマガジンで配信しています。メールで送信する事で、外出先からスマートフォンで確認する事もでき、利便性があります。また、写真を多数使用する事で、見やすさをアピールしています。平成28年9月の配信で112回目となりました。

全国管工事業協同組合連合会 青年部協議会
メールマガジン 第112号

【2016年9月8日発行】 発行: 全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 <http://www.zenkanrenjip>

第20回通常総会 創立20周年記念式典を開催

全管連青年部協議会の第二十回通常総会及び関連行事が八月二十日(土)に東京・西新宿の京王プラザホテルにて開催された。...

>> [この記事の詳細はこちら](#)

広報関連事業Ⅱ

全管連総会PR事業

全管連の通常総会や全国大会終了後に、青年部の活動報告時間を頂いてPRを行う事業です。過去には、PR時間が3分の時もあり、歴代青年部会長のスキルも試されていました。また、総会会場外には全管連青年部のPRブースを展示させて頂くなど、青年部を卒業されたOBの方々や、全管連青年部へ未加入の組合の方々にもPRを行う等、精力的な活動を行いました。



子ども霞が関見学デーへの出展

子ども霞が関見学デーは、各府省庁が連携して子どもたちに業務説明や省内見学などを行うことで親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会を提供すると共に、各府省庁の業務に対する理解を深めてもらうことを目的に毎年開催しています。

厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部水道課は、全管連等の協力を得て水道水とミネラルウォーターの利き水を行いました。全管連青年部は「水について考よう」をテーマに、塩化ビニル管を使用した工作作りと輪投げ体験を行ったほか、全管連の活動を分かりやすく理解してもらうために、熊本地震における応急復旧活動のパネル展示やオリジナルシャープペンシルを来場者に配布し、多くの子ども達に楽しく学んで頂いた。

○期 日 平成25年8月7、8日（1回目）

○期 日 平成28年7月27、28日（2回目）

○場 所 厚生労働省



広報関連事業Ⅱ

全国穴掘り大会への参加

毎年2月に千葉県成田市の「成田ゆめ牧場」で開催される全国穴掘り大会に平成23年より参加しています。

同大会は、6人までのチームで制限時間内（30分）にどれだけ深い穴を掘れるかを競う大会です。平成28年2月7日に行われた第16回大会は、過去最多の337チーム2,000人が参加しました。

使用できる道具は、スコップ、バケツ、ロープに限られており、ひたすら穴を掘るだけというシンプルな競技が魅力です。

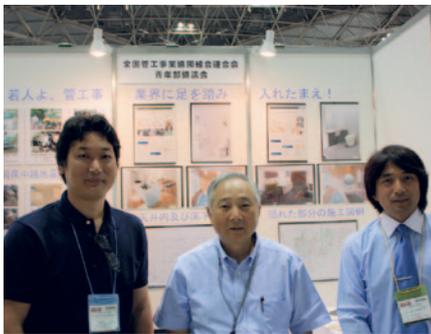
全管連青年部は第11回大会より参加しており、第13・14回の大会で、愛知県の豊田市管工事業協同組合青年部が2連覇を果たしました。



橋本総業主催・みらい市への出展

本会賛助会員の橋本総業(株)主催の「東京みらい市」に本会青年部が出展させて頂き、全管連の活動を紹介させて頂く事ができる展示ブースをご提供頂き、平成20年より出展をしています。この「みらい市」は、橋本総業(株)並びに関連メーカー、ディーラにより組織されている「みらい会」が主催となって設備展示・即売会を毎年、全国各地で開催しています。

平成28年の東京みらい市では全管連の紹介及び管工事業界の紹介をメインにすると共に、青年部が行った熊本県を中心とする大震災後のボランティア活動を紹介しました。また、青年部が製作した技能グランプリ作品の展示やその際の映像を放映しました。



会員交流事業

会員交流事業

全国各地に会場を移動して開催されている「会員交流事業」。当初は移動シンポジウムと称して、青年部協議会の活動に役立つと思われる興味深いテーマを掲げ、事例発表やパネルディスカッション、ディベート討論会が行われた。その後、ブロックシンポジウム、会員交流事業と名称を変更し、現在では震災被災地における支援活動や賛助会員等の協力を頂きながら研修会を開催。今後、業界を担う青年経営者の個々の資質の向上と、会員相互の交流を目的としている。

会員交流事業 開催記録

開催日：平成18年11月11日
開催地：北海道札幌市

開催日：平成19年10月27日
開催地：愛知県名古屋市



開催日：平成20年11月28日
開催地：福岡県北九州市



開催日：平成21年11月14日
開催地：埼玉県秩父市



開催日：平成22年11月6日
開催地：愛知県常滑市



開催日：平成23年10月15日
開催地：宮城県石巻市



開催日：平成24年11月10日
開催地：福島県いわき市



開催日：平成25年11月30日
開催地：山形県山形市



開催日：平成26年11月8日
開催地：大分県大分市



開催日：平成27年11月14日
開催地：群馬県伊勢崎市



会員情報交換サイト『e-kan.jp』

平成20年会員サービス事業として運用を開始した会員情報交換サイト『e-kan.jp』。このサイトは、会員登録をすることで、青年部の会員間の情報交換（掲示板への書き込み）や、余った資材などの交換を行う事ができました。

しかしながら、情報交換については『facebook』に代表されるSNSの発達や、また、全国間での資材の交換は想定していたほど需要はなく、登録者も100名程度の人数でした。そのため、事業継続への検討を行いました。平成25年に本事業を終了するという惜しまれる結果となりました。



会員サービス事業

フェイスブックを利用した情報提供

全管連青年部間でグループを作成し、現在、170名の登録があります。『e-kan.jp』に代わる会員コミュニケーションのツールとして活用している『facebook』は、各会員の活動紹介や個人の活動紹介等に使用されています。

また、災害時には連絡を会員間で連絡を取り合う等、日々のコミュニケーションとして活用されています。



厚生労働省とディスカッション

通常ではなかなかお会いしてお話をするのが難しい方々と、全国から集積されたいろいろなテーマで、将来について「夢」を持てるようなディスカッションをしようと企画した事業です。

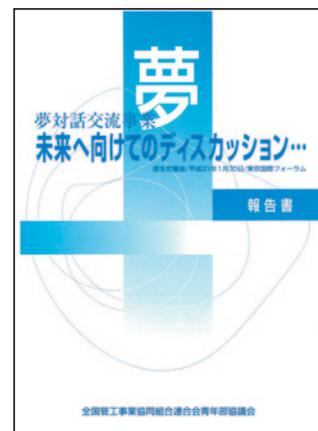
この事業を具体化させて頂くにあたり、私たちを取り巻く環境が凄まじい速さで激しく変化していく中で、これからの業界（団体）の存在意義やあり方を改めて考える必要があると思いました。そのためには、当業界の関係官庁の方々と本音で意見交換をすることも一つの手段であると考え、厚生労働省の職員の方々とディスカッションを行いました。

日 時 平成21年1月30日

場 所 東京国際フォーラム

- テーマ ①指定工事店制度のなかでの組合の存在について
②業務の統一について
③水道事業におけるIT化について
④環境対策・災害対策・安全対策について

出席者 厚生労働省 * 役職は当時
伊藤 誠（健康局水道課長補佐）
古川 明彦（健康局水給水装置課長）



開催会議・事業等一覧

平成9年

1997

- | | | | |
|-------|--|--------|----------------|
| 2月15日 | 全管連青年部協議会設立総会
福田可也氏(富山)が初代会長に就任
第1回理事会の開催(東京都) | 9月15日 | 広報紙「アヒルのたまご」発刊 |
| 3月15日 | 第1回常任理事会の開催 | 9月19日 | 全管連 金子会長との懇談会 |
| 5月17日 | 常任理事会、理事会の開催
第1回総務部会・事業部会の開催 | 9月20日 | 常任理事会・理事会の開催 |
| 8月23日 | 総務部会・事業部会の開催 | 11月15日 | 総務部会の開催 |
| | | 12月17日 | 事業部会の開催 |
| | | 12月20日 | 常任理事会の開催 |

平成10年

1998

- | | | | |
|-------|-----------------|-------------|--------------------------|
| 1月17日 | 理事会の開催 | 9月24日～10月1日 | 「水源地をきれいにするキャンペーン」を各地で実施 |
| 2月21日 | 第2回通常総会の開催(東京都) | 11月21日 | 常任理事会の開催 |
| 4月18日 | 理事会の開催 | 12月24日 | 全管連・総務部会との懇談会を開催 |
| 6月20日 | 理事会の開催 | | |
| 9月5日 | 理事会の開催 | | |

平成11年

1999

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|------------|------------------------------------|
| 2月27日 | 通常総会の開催(京都市)
理事会の開催
ホームページの開設 | 9月1日～10月1日 | 「水源地をきれいにするキャンペーン2」を各地で実施 |
| 4月3日 | 総務部会・事業部会開催 | 9月18日 | 移動シンポジウムを開催(埼玉県大宮市)
「青年部のススメ」発刊 |
| 5月15日 | 理事会の開催 | | 異業種との交流 |
| 6月1日 | 水道週間中央行事in八戸に参加 | | 会員名簿の作成 |
| 7月31日 | 総務部会・事業部会の開催 | | |

平成12年

2000

- | | | | |
|-------------|--|------------|----------------------------------|
| 2月26日 | 通常総会の開催(札幌市) | 9月1日～10月1日 | 「水源地をきれいにするキャンペーン3」を各地で実施 |
| 4月1日 | 事業部会開催 | 10月7日 | 理事会開催
移動シンポジウム開催(富山市) |
| 4月15日 | 総務部会開催 | 11月18日 | 常任理事会開催
全国で「組合のあり方に関する懇話会」を開催 |
| 5月20日 | 理事会開催 | | |
| 6月14日 | 全管連総会で青年部活動をPR | | |
| 7月17日～8月31日 | 「水道屋PR大作戦コンテスト」 | | |
| 7月28日 | 「業界における資格免許のあり方」について親組合と
青年部の意見交換会を実施 | | |

平成13年

2001

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-------|---------------------|
| 1月20日 | 理事会開催 | 9月15日 | 移動シンポジウムを開催(福島市) |
| 2月24日 | 通常総会の開催(神戸市)
理事会でメーリングリストを導入 | 12月4日 | 全日電工連青年部協議会との懇談会を開催 |
| 7月～10月 | 環境問題研究事業「エコクラブ探検隊」を実施 | | |

平成14年

2002

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|--------------------|
| 2月16日 | 理事会の開催
ISO研修会の実施 | 8月23日 | 理事会前の研修会を開催 |
| 5月25日 | 理事会の開催 | 10月12日 | 理事会、移動シンポジウム(和歌山市) |
| 7月13日 | 通常総会の開催(盛岡市) | 11月 | 青年部の実態調査アンケートを実施 |

平成15年

2003

- | | | | |
|-----------------|--|--------|---|
| 2月14日 | 理事会前の研修会「TOTOテクニカルセンター視察」を開催
理事会の開催 | 5月17日 | 理事会の開催 |
| 5月 | 未来ビジョン研究事業 提言書「管工事業のこれからを考える」完成 | 7月12日 | 通常総会の開催(名古屋) |
| 6月18日 | 全管連札幌総会において青年部ブースを設けPR用CDアルバムを披露・配布 | 8月30日 | 理事会の開催 |
| 6月7日～平成16年3月27日 | 「水源地をきれいにするキャンペーン」エコクラブ探検隊を全国で展開 | 10月 | メールマガジン配信開始 |
| | | 11月1日 | 理事会、講演会・移動シンポジウム(宇都宮市) |
| | | 11月26日 | 夢対話交流事業(厚生労働省とのディスカッション～管工事業の将来展望～)を実施
夢市場創造事業(住まい方勉強会をHP上にて展開)を実施 |

平成16年

2004

- | | | | |
|-------------|-----------------------------|--------|--------------------|
| 1月26日～3月10日 | 夢ビジネスコンテスト募集 | 7月10日 | 通常総会の開催(仙台市) |
| 2月13日 | 夢対話交流事業(国土交通省とのディスカッション)を実施 | 9月10日 | ホームページを更新 |
| 2月14日 | 理事会、全国部会長サミットを開催(東京都) | 9月11日 | 第1回四国サミットに出席(高知市) |
| 3月 | 会員名簿(CD-ROM版)発行 | 9月17日 | 出前トークミッションを開催(奈良市) |
| 3月19日 | 夢ビジネスコンテスト公開審査会を実施(秋田市) | 9月25日 | 出前トークミッションを開催(大分市) |
| 6月16日 | 全管連埼玉総会においてPR事業を開催 | 10月23日 | 出前トークミッションを開催(福岡市) |
| | | 11月13日 | 移動シンポジウムを開催 |
| | | 11月20日 | 出前トークミッションを開催(倉敷市) |

平成17年

2005

- | | | | |
|-------|---|--------|--|
| 3月5日 | 出前トークミッションを開催(松江市) | 7月2日 | 通常総会の開催(川崎市) |
| 4月9日 | 出前トークミッションを開催(長崎市) | 8月27日 | 理事会の開催 |
| 6月3日 | 「水源地をきれいにするキャンペーン」&「エコクラブ探検隊」が第7回「日本水大賞・審査部会特別賞」を受賞、国連大学において表彰される。その様子が当日の読売新聞で紹介される。 | 9月24日 | 第2回四国サミット出席(松山市) |
| 6月22日 | 全管連神戸総会において映像によるPR事業を開催 | 10月18日 | (財)水道技術研究センター主催による水道サロンに高井顧問、五十嵐会長がゲストスピーカーとして出演 |
| | | 11月12日 | 理事会、移動シンポジウム(岡山市) |
| | | 11月17日 | 出前トークミッションを開催(四日市市) |

平成18年

2006

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------------------------|
| 2月25日 | 理事会、第2回全国部会長サミットを開催(東京都) | 6月21日 | 全管連総会PR事業を開催(青森市) |
| 3月10日 | 出前トークミッションを開催(草津市) | 7月15日 | 第10回通常総会の開催(東京都)
創立10周年記念式典の開催 |
| 4月1日 | 出前トークミッションを開催(名古屋市) | 8月31日 | 創立10周年記念誌発行 |
| 4月15日 | 出前トークミッションを開催(福井市) | | |
| 5月27日 | 理事会の開催 | | |

開催会議・事業等一覧

平成18年

2006

- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|-------------------------|
| 9月23日 | 第3回四国サミット 参加(ロイヤルパークホテル高松) | 11月10日 | 三役会(札幌市管工事会館) |
| 10月6日 | 第26回管工機材・設備総合展 視察(名古屋市吹上ホール) | 11月11日 | 第55回理事会(北海道建設会館) |
| 10月20日 | 第38回管工機材・設備総合展 視察(東京都立産業貿易センター) | 11月11日 | 第1回ブロックシンポジウム(札幌全日空ホテル) |
| 10月27日 | 千曲川県営水道工事業協同組合青年部との情報交流会(東京さぬき倶楽部) | | |

●日本郵政株式会社発足(1月) ●ヨーロッパで熱波、英国では90年ぶりに7月の最高気温記録更新(7月) ●国際天文学連合、冥王星を惑星から除外、準惑星に(8月) ●「地方分権改革推進法」が成立、公布(12月)

平成19年

2007

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1月17日 | 全管連新年賀詞交歓会 参加(虎ノ門パストラル) | 10月26日 | 三役部会長会(名古屋市指定水道工事店協同組合水道会館) |
| 1月27日 | 三役会(川崎管工事会館) | 10月27日 | 第61回理事会 |
| 2月24日 | 三役会・第56回理事会(全管連会館) | | 第2回ブロックシンポジウム(ホテル名古屋ガーデンパレス) |
| 3月9日 | 監事会(全管連会館) | 11月9日 | 山形市管工事協同組合青年部設立20周年記念式典への参加(山形国際ホテル) |
| 4月21日 | 三役会(ホテルグランドパレス新高輪) | 11月17日 | 東京都管工事工業協同組合青年部長協議会創立20周年記念式典への参加(東京・ホテルはあといん乃木坂) |
| 5月26日 | 三役会・第57回理事会
地域情報交換事業 開催(全管連会館) | 11月20日 | 全青協東北地区出向者会議への参加(ホテルグランシェール花巻) |
| 6月6日 | 監事会(全管連会館) | | |
| 6月20日 | 全管連総会PR事業(岐阜グランドホテル) | | |
| 7月13日 | 三役会(ホテル新潟) | | |
| 7月14日 | 第58,59回理事会、第11回通常総会(ホテル新潟) | | |
| 7月15日 | 第60回理事会(ホテル新潟) | | |
| 9月8日 | 第4回四国サミットへの参加(ホテルサンシャイン徳島アネックス) | | |
| 9月15日 | 三役部会長会(全管連会館) | | |
| 9月20日 | NPO法人グリーンサイエンス21 第1回セミナーへの参加(東京・日本水道会館) | | |
| 10月5日 | 全管連との意見交換会(全管連会館) | | |



三役会ホテルグランドパレス新高輪



全管連総会PR事業(岐阜グランドホテル)



第61回理事会第2回ブロックシンポジウム

●消費期限切れの牛乳使用等食品偽装問題相次いで発覚(1月) ●能登半島で地震、M6.9(3月) ●政府が「アジア・ゲートウェイ構想」を発表(5月) ●ソロモン諸島付近で大地震、M6.9(4月) ●建築基準法等改正(6月) ●新潟県中越沖地震新潟・長野で震度6強、東京電力刈羽6号原発で放射能漏れ(7月) ●ペルー沖で地震、M7.9(8月) ●スマトラ島沖地震、M8.5(9月) ●サブプライムローン問題で金融不安始まる ●チリで大地震、M7.7(11月)

平成20年

2008

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|--|
| 1月17日 | 全管連新年賀詞交歓会への参加(東京・虎ノ門パストラル) | 4月19日 | 三役部会長会(デスクカット品川港南口店) |
| 1月25日 | 平成19年度 第1回監事会(全管連会館) | 5月24日 | 三役部会長会、第62回理事会(全管連会館) |
| 2月9日 | 三役部会長会(全管連会館) | 5月26日 | NPO法人グリーンサイエンス21 第2回セミナーへの参加(東京・日本水道会館) |
| 2月16日 | 東北部会長会議への参加(秋田管工事業協同組合会館「カデル」) | 5月31日 | 名古屋市指定水道工事店協同組合青年部会設立20周年記念式典への参加(ホテル名古屋ガーデンパレス) |
| 3月22日 | 会員サービス事業検討委員会[西日本地区](神戸市管工事会館) | | |
| 4月2日 | 橋本総業(株)の取材(橋本総業(株)東京配送センター・東雲ビッグハウス) | | |



親会新年賀詞交歓会

- 6月6日 (株)岩手県管工業協会青年部会創立20周年記念式典への参加(ホテルメトロポリタン盛岡)
- 6月12日 平成19年度 第2回監事会(全管連会館)
- 6月13日 全管連との意見交換会(全管連会館)
- 6月18日 全管連第48回通常総会、全国大会でのPR活動(宮崎市・フェニックスシーガイアリゾート)
- 7月11日 三役部会長会(ANAクラウンプラザホテル広島)
- 7月12日 第63回理事会、第12回通常総会(広島国際会議場、ANAクラウンプラザホテル広島)
- 7月13日 第64回理事会(ANAクラウンプラザホテル広島)
- 7月19日 関西みらい市視察(インテックス大阪)
- 8月8日 会員サービス事業
資材流通システム作成委員会
(東京・デスカット品川港南口店)
- 8月8日~9日 みらい市への出展(東京ビッグサイト)
- 8月27日 みらい市報告会への参加(東京・グランドアーク半蔵門)
- 9月13日 三役部会長会(全管連会館)
- 9月27日 第5回四国サミットへの参加(高知市管工事会館)
- 10月23日 第40回管工機材設備総合展視察(東京都立産業貿易センター浜松町館)
- 10月29日 全管連第50回広報委員会への参加(名古屋市指定水道工事店協同組合水道会館)
- 11月14日 東アジア給排水設備シンポへの参加(東京・東京ガス(株)本社)
- 11月27日 三役部会長会(北九州・ホテルクラウンパレス小倉)
- 11月28日 第65回理事会
第3回ブロックシンポジウム(北九州・TOTO(株)小倉第一工場)



会員サービス事業検討委員会

- 中国四川大地震、M8.0(5月)
- 中国で四川大地震発生(5月)
- 岩手・宮城内陸地震、M7.2震度6強(6月)
- 北海道・洞爺湖サミット(7月)
- 米国の大手証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻(9月)
- 徳山ダム完成(10月)

平成21年

2009

- 1月16日 全管連新年賀詞交歓会への参加(東京・虎ノ門パストラル)
- 1月29日 全管連近畿ブロック連絡会議への参加(帝国ホテル大阪)
- 1月30日 三役部会長会、夢対話交流事業(東京国際フォーラム)
- 2月23日 平成20年度 第1回監事会(全管連会館)
- 3月27日 (株)タブチの取材(株)タブチ大阪本社・工場)
- 4月11日 三役部会長会(東京・デスカット品川港南口店)
- 5月16日 三役部会長会、第66回理事会(橋本総業(株) 東雲ビッグハウス)
- 5月28日 平成20年度 第2回監事会(全管連会館)
- 6月17日 全管連第49回通常総会、全国大会でのPR活動(徳島市・アスティとくしま)
- 7月3日 三役部会長会(秋田管工事業協同組合)
- 7月4日 第67・68回理事会、第13回通常総会(秋田キャッスルホテル)
- 7月5日 第69回理事会(秋田キャッスルホテル)
- 8月21日~22日 みらい市への出展(東京ビッグサイト)
- 8月22日 三役部会長会(東京国際フォーラム)
- 9月16日 みらい市報告会への参加(東京・グランドアーク半蔵門)
- 10月3日 会員サービス事業 第1回会議(ホテルリッチフィールド仙台)
- 10月24日 川崎市管工事業協同組合設立20周年記念式典への参加(川崎日航ホテル)
- 10月31日 第6回四国サミットへの参加(サンライズ糸山今治国際ホテル)
- 10月31日 岡山市管工設備協同組合青年部設立10周年記念事業(アークホテル岡山)
- 11月13日 全管連との意見交換会(全管連会館)
- 11月14日 三役部会長会(全管連会館)
- 11月14日 会員交流事業(キャタピラー・ジャパン(株)秩父デモセンター)
- 11月14日 第70回理事会(秩父市・旅館梁山泊)
- 11月21日 富山市管工事業協同組合青年部設立20周年記念式典への参加(富山第一ホテル)



秋田総会



会員交流事業

- WHOが新型インフルエンザ(H1N1)の発生警戒レベルを初のフェーズ6に認定(4月)
- 裁判員制度開始(5月)
- 駿河湾沖地震、M6.5最大震度6弱(8月)
- 衆院選で民主党が勝利、民主党政権発足(8月)
- 行政刷新会議事業仕分け実施(11月)
- 西日本を中心に記録的な大雨(11月)



夢対話交流事業

開催会議・事業等一覧

平成22年

2010

- | | | | |
|---------|---|--------|--|
| 1月18日 | 全管連新年賀詞交歓会への参加(品川プリンスホテル) | 9月4日 | 三役部会長会議(東京ビッグサイト) |
| 1月26日 | 平成21年度 第1回監事会(全管連会館) | 9月18日 | 第7回四国サミットへの参加(中野うどん学校 高松校) |
| 2月6日 | 三役部会長会、第71回理事会(全管連会館) | 9月24日 | 第2回Web会議(会員サービス事業) |
| 4月10日 | 三役部会長会(東京・デスカット品川港南口) | 9月27日 | みらい市報告会への参加(東京・グランドアーク半蔵門) |
| 5月15日 | 三役部会長会、第72回理事会(都市センターホテル) | 10月14日 | 第3回Web会議(会員サービス事業) |
| 5月25日 | 平成21年度 第2回監事会(全管連会館) | 11月2日 | 第4回Web会議 |
| 6月16日 | 全管連第50回通常総会、全国大会でのPR活動(新宿区・京王プラザホテル) | 11月6日 | 三役部会長会
会員交流事業
第75回理事会(横LIXILテクノトレーニングセンター) |
| 7月2日 | 三役部会長会(京都府管工事工業協同組合) | 11月17日 | 第5回Web会議 |
| 7月3日 | 第73回理事会、第14回通常総会(京都全日空ホテル) | 12月1日 | 第6回Web会議 |
| 7月4日 | 第74回理事会(京都全日空ホテル) | 12月15日 | 平成22年度 第1回監事会(全管連会館) |
| 7月16日 | 関西みらい市視察(インテックス大阪) | | |
| 7月31日 | 青森県管工事業協同組合連合会青年部協議会設立10周年記念式典への参加(八戸グランドホテル) | | |
| 9月1日 | 第1回Web会議 | | |
| 9月3日~4日 | みらい市への出展(東京ビッグサイト) | | |



京都総会



みらい市への出展



みらい市への出展



会員交流事業



監事会



第71回理事会



第72回理事会

- チリ大地震、M8.8(2月) ●中国青海地震、M7.1(4月)
- 宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」が国内では10年ぶりに発生(4月)
- 「今夏(6~8月)が、1898年以降の113年間で最も暑い夏」と気象庁発表(9月)
- 大阪地検でFD改ざん事件が発覚(9月)

平成23年

2011

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1月17日 | 全管連新年賀詞交歓会への参加(品川プリンスホテル) | 4月1日 | 第10回Web会議 |
| 2月4日 | 全管連との意見交換会(全管連会館) | 4月7日 | 第11回Web会議 |
| 2月5日 | 三役部会長会、第76回理事会(全管連会館) | 4月9日 | 被災地支援活動(岩手県・釜石市) |
| 2月6日 | 第11回 全国穴掘り大会への参加(成田市・成田ゆめ牧場) | 4月23日 | 三役部会長会(全管連会館) |
| 2月24日 | 第7回Web会議 | 5月12日 | 平成22年度 第2回監事会(全管連会館) |
| 3月7日 | 第8回Web会議 | 5月21日 | 正副会長部会長会、第77回理事会(全管連会館) |
| 3月24日 | 第9回Web会議 | 6月15日 | 全管連第51回通常総会、全国大会でのPR活動(東京・品川プリンスホテル) |



全管連と意見交換会

- 6月17日～18日 みらい市への出展(東京ビッグサイト)
- 7月15日 正副会長部会長会(全管連会館)
- 7月16日 第78・79回理事会、第15回通常総会(東京・如水会館)
- 8月1日 第1回Web会議(会員交流事業)
- 8月20日 正副会長部会長会(全管連会館)
- 8月29日 第2回Web会議(会員交流事業)
- 9月10日 第8回四国サミットへの参加(徳島・ホテルグランドパレス徳島)
- 10月3日 第3回Web会議(会員交流事業)
- 10月14日 正副会長部会長会(宮城・リッチモンドホテルプレミア仙台駅前)
- 10月15日 会員交流事業(宮城県石巻市)
- 10月16日 第80回理事会(宮城・ホテル壮観)
- 12月5日 第4回Web会議(会員サービス事業)
- 12月22日 平成23年度 第1回監事会(全管連会館)



第11回全国穴掘り大会への参加



被災地支援活動



東京総会

●前年末から、ラニーニャ現象の影響によりオーストラリア、ブラジルなど世界各地で大規模な水害が多発(1月) ●ニュージーランド、クライストチャーチ付近でM6.3の地震(2月) ●東日本大震災が発生。M9.0の巨大地震とそれに伴う大津波により、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に甚大な被害。福島第一原子力発電所で原子力事故発生(3月) ●九州新幹線開業(博多～新八代間)(3月) ●東日本大震災後の電力供給不足で、1都8県の一部で計画停電を実施(3月) ●総務省統計局が日本の総人口が大幅減少と発表 ●世界人口70億人に到達(国連推計)(10月)

平成24年

2012

- 1月17日 全管連新年賀詞交歓会への参加(東京・品川プリンスホテル)
- 2月4日 全管連との意見交換会
正副会長部会長会、第81回理事会(全管連会館)
- 2月5日 第12回 全国穴掘り大会への参加(千葉・成田ゆめ牧場)
- 2月13日 第5回Web会議(会員サービス事業)
- 3月6日 第6回Web会議(会員サービス事業)
- 4月7日 正副会長部会長会(東京・デスカット品川港南口店)
- 5月17日 平成23年度 第2回監事会(全管連会館)
- 5月19日 正副会長部会長会議、第82回理事会(全管連会館)
- 6月13日 全管連第52回通常総会、全国大会でのPR活動(福井・フェニックスプラザ)
- 6月18日 第1回Web会議(富山総会)
- 7月15日 正副会長部会長会議(富山市管工事協同組合)
- 7月16日 第83回理事会、第16回通常総会(富山・名鉄トヤマホテル)
- 7月27日～28日 みらい市への出展(東京ビッグサイト)
- 8月23日 第2回Web会議(会員交流事業)
- 8月25日 正副会長部会長会議(Web会議)

- 8月29日 第3回Web会議(会員交流事業)
- 9月8日 第9回四国サミットへの参加(高知・ホテル日航高知旭ロイヤル)
- 9月29日 正副会長部会長会議(京都府管工事工業協同組合会館)
- 11月3日 第2回東アジア給排水シンポジウム(台湾・国立台湾科技大学)
- 11月10日 会員交流事業、第84回理事会(福島県いわき市)
- 12月7日 平成24年度 第1回監事会(全管連会館)



第2回東アジア給排水シンポジウム



第84回理事会



富山総会



富山総会管切断選手権



富山総会記念旅行

●完全デジタル放送化、地上アナログ放送廃止(3月) ●東京スカイツリー開業(5月) ●大分県・熊本県・福岡県・佐賀県で記録的な豪雨(九州北部豪雨)(7月) ●中央自動車道笹子トンネルで天井崩落事故(12月) ●衆院選で自民党が勝利、第2次安倍内閣始動(12月)

開催会議・事業等一覧

平成25年

2013

- | | | | |
|------------|---|--------|-------------------------------------|
| 1月17日 | 全管連新年賀詞交歓会への参加(東京・品川プリンスホテル) | 9月7日 | 第10回四国サミットへの参加(愛媛県・宇和島第一ホテル) |
| 2月2日 | 正副会長部会長会議、第85回理事会(全管連会館) | 10月7日 | 正副会長部会長会議(Web会議) |
| 2月3日 | 第13回 全国穴掘り大会への参加(千葉・成田ゆめ牧場) | 10月25日 | さいたま市管工事業協同組合青年部30周年事業(埼玉・大宮サンパレス) |
| 4月6日 | 正副会長部会長会議(愛知・ホテルリソル名古屋) | 11月7日 | 正副会長部会長会議(Web会議) |
| 5月10日 | 平成24年度 第2回監事会(全管連会館) | 11月8日 | 宇都宮市管工事業協同組合青年部20周年事業(栃木・ホテルニューイタヤ) |
| 5月18日 | 正副会長部会長会議、第86回理事会(東京・橋本総業(株)みらいエコリフォームセンター) | 11月30日 | 会員交流事業、第90回理事会(山形県山形市) |
| 5月31日～6月1日 | 橋本総業(株)・みらい市2013への出展(東京ビッグサイト) | 12月19日 | 平成25年度 第1回監事会(全管連会館) |
| 6月19日 | 全管連第53回通常総会、全国大会でのPR活動(鳥取・米子コンベンションセンター) | | |
| 7月19日 | 正副会長部会長会議(徳島・クレメントホテル徳島) | | |
| 7月20日 | 第87回理事会、第17回通常総会、第88回理事会(徳島・クレメントホテル徳島) | | |
| 7月21日 | 第89回理事会(徳島・クレメントホテル徳島) | | |
| 7月26日 | 九管連第51回通常総会、全管連青年部のPR活動(長崎・ホテルニュー長崎) | | |
| 8月7日～8月8日 | 子ども霞が関見学デーへの参加(厚生労働省) | | |



第86回理事会



第17回通常総会



子ども霞が関見学デーへの参加



会員交流事業

- 政府の情報収集衛星レーダー4号機が種子島宇宙センターから打ち上げ(1月)
- 兵庫県淡路島付近を震源とする地震M6.3(4月)
- テレビ放送(NHKと在京広域民放局)における東京スカイツリーからの本放送開始(5月)
- 富士山が世界文化遺産に登録(6月)
- 2020年東京五輪決定(9月)
- 2018年国際水協会(IWA)世界会議の東京開催が決定(9月)

平成26年

2014

- | | | | |
|-------|--|-----------|---|
| 1月17日 | 全管連新年賀詞交歓会への参加(東京・品川プリンスホテル) | 5月16日 | 平成25年度 第2回監事会(全管連会館) |
| 1月31日 | 技能五輪全国大会「配管職種」競技挑戦企画(渡辺パイプ(株)板橋サービスセンター) | 5月17日 | 正副会長部会長会議、第92回理事会(全管連会館) |
| 2月1日 | 正副会長部会長会議、第91回理事会(全管連会館) | 6月18日 | 第1回Web会議 |
| 2月2日 | 第14回 全国穴掘り大会への参加(千葉・成田ゆめ牧場) | 7月16日 | 全管連第54回通常総会、全国大会でのPR活動(北海道・ANAクラウンプラザホテル釧路) |
| 3月5日 | (公財)給水工事技術振興財団との意見交換会(東京・(公財)給水工事技術振興財団) | 7月18日～19日 | 橋本総業(株)・みらい市2014への出展(東京ビッグサイト) |
| 3月14日 | 秋田管工事業協同組合青年部協議会30周年事業(秋田・秋田キャッスルホテル) | 8月7日 | 第2回Web会議 |
| 4月11日 | 正副会長部会長会議(Web会議) | 8月22日 | 正副会長部会長会議(埼玉・浦和ロイヤルパインズホテル) |
| | | 8月23日 | 第93回理事会、第18回通常総会(埼玉・浦和ロイヤルパインズホテル) |



釧路総会 PR



埼玉総会

- 9月13日 第11回四国サミットへの参加
(香川県・高松市)
- 10月18日 高知市管工事設備業協同組合
若葉会 20周年記念式典(高知
県・ホテル高砂)
- 11月8日 会員交流事業、第94回理事会
(大分県大分市)
- 12月17日 平成26年度 第1回監事会
(全管連会館)



会員交流事業

- 関東甲信で2週連続大雪、都心も27センチ(2月)
- あべのハルカス、地上60階建て、高さ300mの日本一高いビル開業(3月)
- 消費税(5%→)8%スタート(4月)
- 「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録(6月)
- 日本の広範囲で豪雨が発生。京都府福知山市に大規模な洪水被害、丹波市や広島市に大規模な土砂災害(7~8月)
- 御嶽山が噴火(9月)

平成27年

2015

- 1月16日 全管連新年賀詞交歓会への参加(東京・品川プリンスホテル)
- 1月21日 第3回Web会議
- 2月7日 正副会長部会長会議、第95回理事会(全管連会館)
- 4月11日 正副会長部会長会議(京都府・京都府管工事工業協同組合)
- 5月15日 平成26年度 第2回監事会(全管連会館)
- 5月16日 正副会長部会長会議、第96回理事会(全管連会館)
- 5月22日~23日 橋本総業(株)・みらい市2015への出展(東京ビッグサイト)
- 7月8日 全管連第55回通常総会、全国大会でのPR活動(栃木県・ホテル東日本宇都宮)
- 7月31日 第2回Web会議
- 7月31日 正副会長部会長会議(青森・青森市管工事業協同組合)
- 8月1日 第97・98回理事会、第19回通常総会(青森・ホテル青森)
- 8月2日 第99回理事会(青森・ホテル青森)

- 9月12日 第12回四国サミット開催(徳島県・徳島市)
- 11月14日 会員交流事業、第100回理事会(群馬県伊勢崎市)
- 12月22日 平成27年度 第1回監事会(全管連会館)



給排水設備研究会



会員交流事業(群馬)



青森総会

- 北陸新幹線開業(金沢・富山~長野間)(3月)
- 口永良部島で噴火(5月)
- 明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業が世界文化遺産に登録(7月)
- 阿蘇山が噴火(9月)
- 関東・東北豪雨災害。鬼怒川が決壊(9月)
- 大村智氏(医学生理学)、梶田隆章氏(物理学)がノーベル賞(10月)

平成28年

2016

- 1月18日 全管連新年賀詞交歓会への参加(東京・品川プリンスホテル)
- 1月21日 第3回Web会議
- 2月6日 正副会長部会長会議、第101回理事会(全管連会館)
- 2月7日 第16回全国穴掘り大会への参加(千葉・成田ゆめ牧場)
- 4月9日 正副会長部会長会議(兵庫県・神戸市管工事業協同組合)
- 5月13日 技能グランプリ課題取組み(東京・城東職業能力開発センター)
- 5月14日 第102回理事会(全管連会館)
- 8月19日 正副会長部会長会議(東京・東京都管工事工業協同組合)

- 8月20日 第103回理事会、第20回通常総会、創立20周年記念式典(東京・京王プラザホテル新宿)
- 9月10日 第13回四国サミット開催(高知県・高知市)
- 10月26日 自民党青年局との交流会
- 11月12日 会員交流事業、第104回理事会(石川県小松市)



第16回穴掘り大会

- マイナンバー制度開始(1月)
- 日本銀行が日本初となるマイナス金利政策の導入を決定(1月)
- 北海道新幹線開業(新青森~新函館北斗)(3月)
- 平成28年熊本地震。M6.5(前震)とM7.3(本震)が立て続けに発生(4月)
- 伊勢志摩サミット(5月)
- 公職選挙法改正施行で選挙権が18歳に引下げ(6月)

平成28年度役員紹介



会長
秋山 雅仁
岡山

●メッセージ
内なる充実・外への展開



理事
齋藤 洋也
山形

未来の業界そして社業を担う
「人づくり」に邁進します。



理事
山本 昌宏
広島

Congratulations on 20th!!
ますますのご発展を!!



総務担当副会長
扇 俊介
宮城

次世代を担う後継者の育成に
努めて参ります。



理事
日下 貴博
福島

次の世代へ繋いでいけるように
頑張ります。



理事
渡邊 光一
高松

変えてはいけない、変えなければ
いけないものの追求



事業担当副会長
田村 茂人
徳島

愛



理事
廣田 勝義
宇都宮

今だからできる事に真摯にとりく
んでいきます



理事
日野 隆史
愛媛

絆を強く、笑顔でいたい!!



総務部会長
小林 弘幸
兵庫

何事にも取組み挑戦する姿勢を
もって前進!



理事
太田 勝晶
川崎

情熱と行動力!



理事
伊藤 章久
高知

向き不向きは有るけれど、常に前
向きに。



事業部会長
村上 竜馬
東京

全青協会員の技術、技能、結束
力を世界へ発信!



理事
北澤 昂也
新潟

古いものをたずね求めて新しい
事柄を知る。



理事
谷村 正夫
長崎

諸先輩方が築いて来られた想いを
絆いで活動します。



総務副部会長
仲儀 公亮
埼玉

30周年は47都道府県の青年部
が参加する式典に。



理事
棚元 理人
富山

天の時・地の利・人の和で、更なる
発展の十年が始まる



理事
伊藤 大輔
大分

青年部だからこそ出来る事を目
指して前進あるのみ。



事業副部会長
小金丸 剛
福岡

業界の有志達に感謝 この先も
一步一步日々精進



理事
成瀬 章宏
石川

青年部らしい発想で進化してい
きたいと思います。



監事
積田 鉄也
埼玉

更なる親睦と青年部らしい積極
的活動を希望します。



理事
白谷 和弘
北海道

技術と絆を次世代に



理事
永山 雅規
名古屋

公僕の精神で会員ファースト!



監事
瀧島 康秀
東京

一期一会



理事
溝江 貴之
青森

一期一会を心がけて様々な可能
性へと繋げていきたい。



理事
山本 真義
京都

先輩方から受け継いだ仲間の絆
は自分の財産です。



監事
川又 健太郎
川崎

青年部らしい活動及び会員相
互の繋がりを大事に!



理事
鈴木 英樹
秋田

一歩前へ。



理事
池田 直仁
和歌山

さらなる飛躍を!!

全国会員メッセーヂ

全 国
31 会 員
紹 介

北海道 P52
北海道管工事業協同組合連合会青年部協議会

北陸・信越・中部 P58~P60

新潟市管工事業協同組合青年部
石川県管工事協同組合青年部会
富山県管工事業協同組合連合会青年部
名古屋市指定水道工事店協同組合青年部会

近畿 P60~P61

京都府管工事工業協同組合青年会
和歌山市管工事業協同組合青年部
兵庫県管工事業協同組合連合会青年部協議会

東北 P52~P54

青森県管工事業協同組合連合会青年部協議会
宮城県管工業協同組合青年部連絡協議会
秋田管工事業協同組合青年部協議会
山形市管工事協同組合青年部
福島県管工事協同組合連合会青年部

関東 P55~P58

宇都宮市管工事業協同組合青年部会
さいたま市管工事業協同組合青年部
川口市管工事業協同組合青年部
越谷松伏管工事業協同組合青年部
熊谷市管工事業協同組合青年部
川崎市管工事業協同組合青年部会
東京都管工事工業協同組合青年部長協議会

中国 P62~P63

岡山市管工設備協同組合青年部
広島市指定上下水道工事業協同組合青年部会
福山管工事協同組合青年部

九州 P65~P67

福岡市管工事協同組合青年部会
長崎市管工業協同組合青年部
熊本市管工事協同組合青年部会
大分市管工事協同組合青年部会

四国 P63~P65

高松市上下水道工事業協同組合青年部会
愛媛県管工事協同組合連合会青年部連絡協議会
徳島市指定上下水道工事店協同組合青年部
高知市管工事設備業協同組合若葉会



全国会員メッセージ

北海道管工事業協同組合連合会 青年部協議会

代表者氏名、役職名 会長 臼谷 和弘

構 成 員 数 125名

設 立 年 月 日 H.8.3.28

ホームページアドレス なし

北海道管工事業協同組合連合会 青年部協議会は、道内5市（札幌、函館、士別、室蘭、釧路）により、構成しています。

主な活動として、各単組青年部に対する協力支援、未加入単組青年部への加入促進、技術研修会の開催、そして、全管連青年部協議会への参画があります。

今年で設立20周年を迎えましたが、次の10年に向かって会員が一致団結し、将来の業界発展、個々のスキルアップ及び次代を担う人材の育成を目指して活動を進めていきます。



青森県管工事業協同組合連合会 青年部協議会

ライフラインは我々が守る！！

代表者氏名、役職名 会長 高橋 寿典

構 成 員 数 104名

設 立 年 月 日 H.13.6.2

ホームページアドレス なし



当会は平成13年に県内3単組で発足し、現在では県内7単組（青森、弘前、八戸、十和田、三沢、西北五、黒石）により運営されており、会員数は104名となっております。若手への技術の継承、知識と知恵の受け継ぎが急がれる昨今、当会では研修会の開催などを通じ、業界の発展と会員相互の連携・親睦を活動の要としています。平成27年度には全管連青年部の第19回通常総会青森大会を開催することができました。今後も全管連青年部の皆様と交流を深めていきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

宮城県管工業協同組合青年部連絡協議会

共存共栄でお互いに成長していこう！

- 代表者氏名、役職名 会長 郷古 孝雄
- 構 成 員 数 37名
- 設 立 年 月 日 S.46.3.20
- ホームページアドレス http://www.miyakan.or.jp/youth_group/index.html

本会は、昭和46年3月、組合員企業の後継者同士が横の連携を取りながら研修等を重ね、常に新しい感覚で経営を創造できるよう、また各社がより一層の健全経営を図り、以て組合の発展に寄与することを目的に設立されました。

近年の実施事業としては、親組合への事業報告会と懇談会、水源地（ダム）清掃や仙台市立保育園の水まわりの点検を行うボランティア活動、県内同業組合の青年部同士の交流を兼ねた合同研修会、会員の家族参加のファミリーレクリエーション、親睦を兼ねた研修旅行、卒業会員を送り出す卒業式、スポーツ大会としての親善ゴルフコンペなど多岐にわたっています。これからも会員間の親睦を図りながら資質向上のための諸事業に取り組んでいきたいと考えております。



秋田管工事業協同組合青年部協議会



「道」から一步前へ

- 代表者氏名、役職名 会長 鈴木 英樹
- 構 成 員 数 20名
- 設 立 年 月 日 S.59.6.5
- ホームページアドレス <http://www.akikan.org/>

昭和59年からスタートし、33年を迎えました。技術講習会、社会奉仕活動、水に関わる環境教育活動、ボランティア活動など様々な事業を行い、次代を担う人材育成の場となっております。

これからの青年部は、諸先輩の情熱が築き上げてきた活動を継承し、激動の時代に必要なニーズを的確に捉え、自らが成長できる活動を模索し、行動する事だと考えております。「我々が楽しみながら活動をする」ということを念頭に、より充実して、社会に役立ち、自分自身の糧としていきたいと思っております。

私たちが抱いている青年部像が引き継がれるよう、今を充実した活動に行っていきたいと考えています。

全国会員メッセージ

山形市管工事協同組合青年部

代表者氏名、役職名 部長 庄司 健一郎

構 成 員 数 21名

設 立 年 月 日 S.63.4.27

ホームページアドレス なし

山形市管工事協同組合青年部は「魅力ある管工事業界づくりに若い力を結集しよう」を目的に昭和63年4月27日に設立されました。

近年の主な事業は、山形県の秋の風物詩「芋煮会」会場の河川敷給水装置点検を始め異業種（建築・電気）青年部との交流会、県内青年部との交流会、研修会、研修旅行などを実施しております。来年当青年部も設立30周年を迎えます。今後も若手技術者の育成・魅力ある業界の発展につながるよう活動を続けていきます。



福島県管工事協同組合連合会青年部



和

代表者氏名、役職名 部長 山内 健晴

構 成 員 数 168名

設 立 年 月 日 S.57.1.29

ホームページアドレス

福島地区管工事協同組合 <http://www.chuokai-fukushima.or.jp/kankojif/>
郡山市管工事協同組合 <http://www.chuokai-fukushima.or.jp/gunkan/>
いわき管工事協同組合 <http://www.chuokai-fukushima.or.jp/iwakikan/>

2011.3.11東日本大震災におきまして、全国の皆様におかれましては、沢山の励まし、ご支援をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。福島の復興も日進月歩しております。

福島県管工事協同組合連合会青年部は管工事業界の次代を担う若手技術者と指導者を育成し業界の健全なる発展に寄与することを目的に結成され、現在福島市を中心に9地区の連合により組織されています。

連合会の特性を生かし、総会及び地区交流会を毎年持ち回りにて開催することで相互交流を図っております。近年、新しい活動として全国穴掘り大会に参加することで、部員間の友情を深めつつ大会優勝をひたひたと狙っております。

宇都宮市管工事業協同組合青年部会

「時代に合った事業の創造」

代表者氏名、役職名	部会長 黒澤 佳樹
構 成 員 数	24名
設 立 年 月 日	H5.11.26
ホームページアドレス	http://www.u-kankoji.or.jp/member.html

「会員相互の親睦と会員の資質の向上を図る」という目的で作られてからはや22年が経ちました。我々現役メンバーは、同じ同業者、また同世代の仲間との交流の場を作ってくださった業界の諸先輩方に対し、深く感謝しております。部会員同士も非常に仲良く、楽しく活動しております。しかしながら、今後我々の働く建設業界は、労働人口の減少、熟練工の高齢化に加え、若手技術者の離職など、慢性的な人手不足等が問題となっていきます。これらの業界の諸問題に対し、青年部会一同取り組んでいきます。

また、青年経済人として、黒澤佳樹新部会長を中心とし、地域社会への貢献、活発な異業種交流、組合・業界に対して提案なども活発に活動をしていきます。



さいたま市管工事業協同組合青年部

この時代を生き抜く力の集結

代表者氏名、役職名	会長 仲儀 公亮
構 成 員 数	25名
設 立 年 月 日	S.59.7.7
ホームページアドレス	http://www.kankoji.org (YOUTH)

さいたま市管工事業協同組合青年部は、「親組合の事業に協力し、業界と組合の発展に寄与するとともに、地域社会への奉仕と自己の修練を積み青年としての将来に大きな明るさと夢と希望を持った青年たらんこと」を目的として設立されました。現在、仲儀会長のもと団結して精力的に活動しています。設立当初より引き継がれております主に4つに分けた活動方針を元に運営しております。当会員の若さの集結が良いエネルギーとなり業界に活気を与えられる存在を目指したいと思っております。



全国会員メッセージ

川口市管工事業協同組合青年部

共に築く、知識と技術！

代表者氏名、役職名 部長 西野 亨
構 成 員 数 20名
設 立 年 月 日 S.50.1.10
ホームページアドレス <http://kawakan.or.jp/>

20代から40代までと幅広いメンバーで構成し、月1回の定例会・勉強会や防災訓練への参加、異業種様との交流会等精力的に活動しております。

皆様のおかげで一昨年をもちまして40周年という大きな節目を迎える事ができました。これからも部員一同、ますます精力的な活動を行ってまいります。



越谷松伏管工事業協同組合青年部



たよれる街の水道屋さんとして

代表者氏名、役職名 部長 鈴木 実
構 成 員 数 25名
設 立 年 月 日 S.54.7.10
ホームページアドレス <http://www.koshimatsu-kankouji.or.jp>

私たち越谷松伏管工事業協同組合青年部は地元の皆様のご支援ご協力のおかげをもちまして今年で37周年を迎えます。日頃は親会である越谷・松伏管工事業協同組合のもと、地域への貢献として越谷市松伏町の公園の水道点検清掃を定期的に行っており、同組合の活動を知って頂く為、越谷市市民まつりや越谷・松伏水道企業団主催の水道フェアなどに出席や催事にて、事業のPRや、水道に関する相談コーナーを設け、地域の皆様にとってのたよれる街の水道屋さんとしてご相談をお受けしております。

このように地域に根付いた活動を軸に、信頼に応えられる技術を磨くための講習会や意見交換などを行っております。

当青年部は1人でできることだけでなく、他の部員や地域との連携を上手に活用し、お客様だけでなく部員同士が互いにたよれる街の水道屋さんを目指し活動を行っております。

熊谷市管工事業協同組合 青年部

あついぞ！熊谷 つかめ！新時代を

代表者氏名、役職名 青年部長 中村卓嗣

構 成 員 数 19名

設 立 年 月 日 S.49.8.9

ホームページアドレス なし

私たち、熊谷市管工事業協同組合 青年部会は、(経営技術の向上と親睦を図り、もって組合に寄与する)ことを目的に設立され、今年で42年目を迎えました。現在 中村卓嗣青年部長を始め会員数19名にて組合発展の為日々活動しております。

例年、埼玉県熊谷市のみで生息する、埼玉県指定天然記念物 ムサシトミヨ(清流のシンボル)保護指定区域内の環境整備のため、堆積汚泥除去・除草作業を年2回、環境部ならびに保存会会員の指導を受け継続しております。

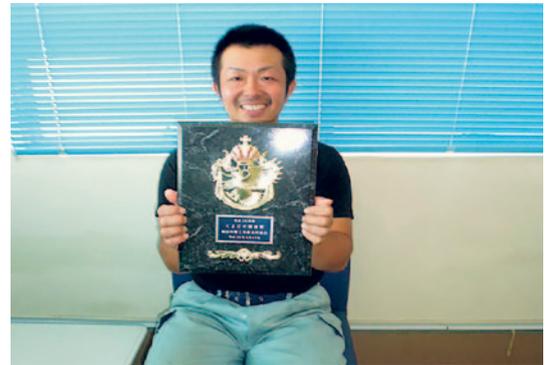
また、役員中心として以下の事業を展開しています。

※ムサシトミヨ生息地の環境整備

※各勉強会・研修会の実施

※市町村合併に伴う青年部拡大についての企画

我々青年部は、全管連青年部協議会に参加することで、全国の青年部皆様の活動と経験を参考に、さらなる意欲的な活動を展開したいと思っております。



川崎市管工事業協同組合 青年部会

親睦と啓発から生まれるポテンシャルを活かして！

代表者氏名、役職名 会長 川又 健太郎

構 成 員 数 23名

設 立 年 月 日 H2.3.29

ホームページアドレス なし



我々、川崎市管工事業協同組合青年部会は会員相互の親睦と啓発、そして業界の次世代を背負う若手後継者の育成と組合の発展に寄与する目的とし平成2年に設立されました。会員すべてが総務部・事業部と別れる2部制になっており、全員参加型の会運営を目指し、少人数ながらいろいろな事業を企画・運営しております。主な事業としましては各種資格関連及び商品・工法についての講習会、他団体交流(川崎市技能職団体連絡協議会青年部・神奈川県中小企業青年中央会・川崎市建設青年会)、地域社会貢献事業(老人施設修繕ボランティア活動)、技能職者に学ぶ(市内中学校・高等学校において講師)などを積極的に行っております。また、家族参加型交流会も定期的に行い魅力のある会を目指し、常に新しいことへの挑戦と会員一人一人の想いを実現出来る会運営を目標に、今後も青年部らしさを活かした活動を繰り広げ、共に成長していきたいと思っております。

全国会員メッセージ

東京都管工事工業協同組合青年部長協議会

確かな技術、技能を身に付け設備業の高みへ！

代表者氏名、役職名 会長 村上 竜馬

構 成 員 数 395名

設 立 年 月 日 S.63.2.24

ホームページアドレス <http://www.tokan.or.jp>

東京都管工事工業協同組合青年部長協議会は、支部青年部の交流や諸事業を通じ組合の次代を担う後継者育成を目指し、昭和63年2月に設立された青年部連絡協議会が前身となり、平成16年4月より各支部青年部長を基本に構成する現在の形態となりました。主な活動としては、管材店マップ作成（平成3年初版、平成18年リニューアル、平成27年6月Web版）、支部対抗ソフトボール大会（平成12年第1回を開催）、ゴミ清掃ボランティア活動（平成13年以降毎年開催）の他、定例役員会・協議会も開催しています。これからも仲間を大切に、若い感性を生かした積極的な活動を目指します。



新潟市管工事業協同組合青年部



地域に根差した活動

代表者氏名、役職名 部長 板垣 英一

構 成 員 数 26名

設 立 年 月 日 S.57.10.20

ホームページアドレス <http://www.niigata-kankoji.or.jp/>

我々青年部は新潟市管工事業協同組合傘下事業所の後継者を中心として組織し、会員相互の人格を陶冶、資質の向上をはかり以って管工事業界の次代を担う経営者及び指導者を養成すると共に業界の健全なる発展に寄与することを目的として、昭和57年10月20日に設立し33年が経過いたしました。

青年部の事業としましては、地元公園の清掃活動、イベントへの青年部ブースの出展等地域に根差した活動を行っております。

また、組合のHPも今年に入りリニューアルされたばかりで青年部の活動も記載してありますので、ぜひ一度組合HPの青年部ページをご覧ください。

石川県管工事協同組合青年部会

水と空気の調和で人の未来を創る

代表者氏名、役職名	部会長 成瀬 章宏
構 成 員 数	35名
設 立 年 月 日	H.16.4.1
ホームページアドレス	http://ishikawakankouji-seinen.jimdo.com/

本会は石川県管工事協同組合の発展と地位向上、会員相互の親睦を図り、さらに組合の推進力となる事を目的として平成16年に発足しました。

組合（業界）の推進力となる為に会員のスキル向上を目標とした事業を展開して13年ダム周辺の清掃活動、研修旅行、ゴルフコンペ、ボーリング大会、13年の間に後継者から事業主になった方も多いう事で昨年度は「倒産する会社の見分け方」と題して与信管理の勉強会を開催して多くの会員に好評をいただきました。会員のスキルを上げ強靱な会社運営をすることが我々にできる最大の社会貢献だと信じて今後とも頑張っていきたいと思えます。



富山県管工事業協同組合連合会青年部（パイレン会）

「明るく！ 楽しく！」

代表者氏名、役職名	部長 不破 徳博
構 成 員 数	122名
設 立 年 月 日	H.9.9.12
ホームページアドレス	http://www.tomikan.net/kenren/

北陸新幹線開業も記憶に新しい富山県を地盤とする県連青年部、愛称「パイレン会」です。全管連青年部初代会長の福田先輩輩出、平成24年度第16回通常総会富山大会開催と、全国の皆様方と多くの友情を育ませて頂きました。

創立以来、学び場・交流の場として先輩方から引継ぎ本年度19年。県内各青年部との絆を基に、継続事業として定着した「経営戦略会議」、「10周年記念植樹維持管理」などを展開しています。

社会・経済の変化の中で、今自分達に何が出来るかを考え、明日からの“やる気・パワー”を発揮できるよう「明るく、楽しく」青年部活動を進めています。



全国会員メッセージ

名古屋市指定水道工事店協同組合青年部会

「30周年のその先へ」

代表者氏名、役職名 会長 後藤 一弘

構 成 員 数 62社

設 立 年 月 日 S.63.10.24

ホームページアドレス <http://setsubi-it.com/kumiai/meisui-yg/>

私たち名水協青年部会は、原則として名古屋市内各区より選出された役員が集まり活動しています。自慢の事業は、毎月一回開催される定期夜間勉強会です。開催回数は既に120回を超え、毎月新しい工法や商品を学んだり、資格取得の為の講習会を開催したりと、会員のレベルアップに力を注いでいます。活動内容は、ホームページにも掲載していますので一度ご覧下さい。今後もフェイスブックなどを活用して紹介していきたいと思います。また2年後には設立30周年を迎えます。その後も、名水協青年部会が継続していけるよう、役員一同頑張っていきます。



京都府管工事工業協同組合青年会



代表者氏名、役職名 会長 鈴木 顕一

構 成 員 数 26名

設 立 年 月 日 S.56.10.21

ホームページアドレス <http://www.suikyo.or.jp>

京都府管工事工業協同組合青年会は経営者としての見識人格を練磨するとともに業界の発展に寄与し、次代を担う原動力となることを目的として設立されました。若年層の建設業界離れによって次世代の担い手が減少している事は事実ではありますが、その現実にもめげず向上心を忘れることなく挑戦していくことで見えてくるものがあると信じて活動しています。諸先輩方が築き上げたこの青年会をより一層良きものにし次の世代に継承していけるよう青年会一同、日々邁進しております！



和歌山市管工事業協同組合 青年部

一致協力

代表者氏名、役職名 会長 森田 大介

構 成 員 数 33名

設 立 年 月 日 H7.12.6

ホームページアドレス <http://w-kankoji.hp4u.jp/seinen>

私たち青年部は、将来の管工事業を担う人材の育成や会員相互の親睦と連携の強化、社会貢献を目的として活動しています。

主な活動としては、紀ノ川一斉清掃(国土交通省河川愛護月間行事)参加、紀州踊り(ぶんだら節)参加、全管連依頼事業“エコ倶楽部探検隊”(和歌山市教育委員会と提携)、会員との親睦のバーベキュー大会やボウリング大会などを行っています。また、2011年紀伊水害復旧(那智勝浦町)、今年4月には熊本地震の災害復旧にも協力してまいりました。

そして一昨年をもちまして青年部も20周年という節目を迎え、会員一同活動に力をいれてまいります。



兵庫県管工事業協同組合連合会 青年部協議会

次世代を担う管工事業界の若手後継者の育成

代表者氏名、役職名 会長 犬賀 直樹

構 成 員 数 73名

設 立 年 月 日 H.13.7.6

ホームページアドレス なし



私たち兵庫県連青年部協議会は、横の繋がりを1番大事にしている組織です。普段は仕事で競い合う好敵手ですが、困ったときは何も言わず助け合うという感じで集まっている仲間です。

年間を通して色々楽しい行事も多く、仕事の話や遊びの話など気軽に何でも話せるアットホームな雰囲気の青年部になっています。

特に仕事面では、他都市の仕様について教えてもらったり申請業務を協力しあったりお客さんの情報を共有したりと、大変有意義な関係を築いています。

全管連でも兵庫県の青年部はいいな～と羨ましがられるような会にしたいと思っていますので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。

全国会員メッセージ

岡山市管工設備協同組合 青年部

安全な水で、安心な未来を繋ぐ

代表者氏名、役職名 部長 妹尾 幸三

構成員数 29名

設立年月日 H.11.11.6

ホームページアドレス なし

当青年部は平成11年11月に会員相互の親睦と、次世代を担う若者の育成及び、管工事業界の更なる発展に寄与することを目的として発足しました。

近年は年間行事として、市水道局主催の水道週間における水道フェアでの餅つきや、防災訓練での配水管の応急復旧訓練を行っています。

今後も、各部員が外にも目を向け、若手が失敗を恐れず挑戦してゆける組織としていきたいと考えております。

最後になりますが、平成27年8月から当青年部の秋山副部長が全管連青年部協議会の会長を務めており、他都市の取り組み等を今まで以上に知ることができ当部員の励みともなっております。



広島市指定上下水道工事業協同組合青年部会

目指そう！！経営者としての資質の向上

代表者氏名、役職名 部会長 田尾 日出人

構成員数 21名

設立年月日 H.13.7.23

ホームページアドレス なし

当青年部会は平成13年に産声をあげ、全管連青年部協議会加入、広島県中小企業団体青年中央会加入と活動の範囲を広げ、全国の同業種、異業種団体との交流など「人との出会いはお金では買えない財産になる」をモットーに現在21名が三部会構成で活動しております。

部会内においては「ひろしまフラワーフェスティバルへの出展」「広島キッズシティへの参加」「メーカー研究会」「研修会・勉強会」「親組合行事参加」「交流会（他都市・異業種）」を中心に様々な活動を展開しております。



福山管工事協同組合青年部

『自発・自立・自覚』

代表者氏名、役職名 青年部部长 種本 豊

構 成 員 数 16名

設 立 年 月 日 H.13.10.6

ホームページアドレス http://www.kankouji.or.jp/b_ea.htm

私たち福山管工事協同組合青年部は、組合及び組合員の次代を担う後継者の育成に貢献し、会員相互の親睦を図り、業務に緊密なる提携を保ち、併せて管工事業界の健全なる成長・発展に寄与し社会に貢献することを目的として設立されました。会員の参加姿勢も高く、水・環境フェスタへの出展・水源池クリーン作戦への参加他、研修旅行や交流事業など、多くの機会と接点から、相互研鑽を図っております。新旧文化が融合し、新たな文化を育む広島県の中核市である福山市。さらなる街への貢献と、水道事業者として使命をもって、益々成長できるよう努めて参ります。



高松市上下水道工事業協同組合青年部会



未来に繋げよう安全なウォーターライフ

代表者氏名、役職名 部会長 三島 季夫

構 成 員 数 26名

設 立 年 月 日 H.15.4

ホームページアドレス <http://takamatsu-jsk.com/young/>

・こんにちは、高松市上下水道工事業協同組合青年部会です。当組合は今年で設立14年目を無事迎えることができました。会員全員がいろいろと経験してきた中で良い処を提案し、スムーズな事業の運営を目指して日々邁進しております。運営面では、それぞれの委員会に部会員を振り分け、各委員毎に案を出し各統括が熟考したものを役員会にて審議し、会の運営を行っております。そうすることによって若い青年部メンバーの育成も合わせておこなっています。

今後は、色々な事業を少しでも多く展開出来る様、部会員全員で考えていきます。

全国会員メッセージ

愛媛県管工事協同組合連合会 青年部連絡協議会

Try

代表者氏名、役職名	日野 隆史
構 成 員 数	12名
設 立 年 月 日	H.10.10.24
ホームページアドレス	なし

本会は、企業の後継者の育成を目的とし、平成10年10月に設立されました。現在、新居浜市、今治市、東予周桑、松山市、大洲宇和島市の6支部が所属しています。役員は、会長1名、副会長2名、会計理事1名、理事2名で構成され任期は2年間です。主な活動として総会、理事会、各関連団体事業への参画、機関誌の発刊などがあります。



徳島市指定上下水道工事店協同組合青年部



代表者氏名、役職名	部会長 野林 誉尚
構 成 員 数	14名
設 立 年 月 日	H.16.3.24
ホームページアドレス	なし

当青年部は、管工事業界の将来を担う若い経営者又は後継者を中心として設立し、会員の親睦・研修等の事業を通じて会員相互の連携を強化することは勿論のこと、フレッシュな感覚とバイタリティーを導入し、徳島市指定上下水道工事店協同組合の活性化を諮り、友に活動することを目的としております。

毎年6月の「水道週間」にて、徳島市水道局主催の「浄水場一日解放事業」に協賛し、各種イベントを企画し水道局と共に市民の理解と関心を高めることを事業として行っております。

レベルアップを目的とした資材メーカーの講習、職長教育、各種研修会を積極的に開催をし、毎月、定例会として全員が集まり、さまざまな企画を計画したり和気藹々と青年部らしく事業をしています。

全管連青年部協議会においても「地方から発信」と、大会を通じて活性化を図るため、H25年には全管連で始めて地方における全国大会を開催いたしました。

全国の皆さんと交流の一つの機会をとらえて、水道業界や組合のPRを広く行い、また地元地域の方々へご理解をいただけるような事業計画を立て、積極的に事業や会議参画し、青年部として活発に活動をしていきたいと考えております。



高知市管工事設備業協同組合 若葉会

来世に残そう美味しい水

代表者氏名、役職名 会長 伊藤 章久

構 成 員 数 18社

設 立 年 月 日 H6.9.9

ホームページアドレス なし

高知県の美味しい水は、鏡ダムに貯水され山間部を抜け、高知中心を流れる川から取水しております。その川の名称は《鏡川》とされており名称の由来は『我が影を映すこと鏡の如し』として《鏡川》と名付けられたそうです。また、坂本龍馬が泳いだ川としても有名で、環境省から「成の名水百選」に選定されております。水道事業のみでなく環境保全活動も行い、歴史ある綺麗な川を後世に残していくよう、これからも取組んでいきます。

【これが高知の夜明けゼヨ！】



福岡市管工事協同組合 青年部会

我らが職に誇りをもって！！管工事魂

代表者氏名、役職名 会長 小金丸 剛

構 成 員 数 32名

設 立 年 月 日 S.55.4.1

ホームページアドレス <http://www.fuku-kan.com>

福岡市管工事協同組合青年部会は会員相互の親睦を図ると共に、様々な研修会や講習会を開催し「管工事業界の成長と発展。次世代を担う後継者の育成」を目的としています。

昨今、九州地方では記録的な大寒波や大地震など自然災害が多く発生しています。青年部会の中でも、災害に対する危機管理体制や防災に対する知識を学び、SNS等を用いた活動を行っています。

今後は、青年部会一丸となって更なるスキルアップを目指して活動していきます。



全国会員メッセージ

長崎市管工業協同組合青年部

経営者としての見識及び人格の練磨

代表者氏名、役職名	部長 谷村 正夫
構 成 員 数	10名
設 立 年 月 日	S.62.10.2
ホームページアドレス	http://nagasaki-kankumi-aisei.wix.com/seinenbu

情報交換や・技術研修会を行っています。また、清掃活動・フェア参加などの事業活動に力を入れています。毎月1回は会議を行い、より良い活動へのアイデア創出を和気あいあいと進めています。例会後はお酒の席に移り、素晴らしいアイデアを出しますが、お酒と共に忘れる事も多々あります。

同じ悩み辛みを話し、助言を言い合える仲間が出来る事は何よりの成果です。

今後の課題は、更にPRが出来るよう、部員の拡大を目指し、イベントを盛り上げる事。そして、参加して頂く方々や部員にも喜んで頂く事業にする事です。今後もどうぞよろしくお願い致します。



熊本市管工事協同組合 青年部会



代表者氏名、役職名	部会長 林 誠
構 成 員 数	39名
設 立 年 月 日	H.3.1.9
ホームページアドレス	http://www.kumakan.com/

初めまして。熊本市管工事協同組合青年部会です。当青年部会は平成3年1月9日に設立され『組合員及び関係団体と協調を図り、後継者育成に貢献すると共に、組合及び会員の健全なる成長・発展に寄与し社会に貢献する』を目的に、今後益々活発に活動を行っていきたくと考えております。

平成18年より市内の公園・学校にて節水コマ取替ボランティア及び節水学習を水保全課と協力して行い、水保全の一環としてお米作り体験学習を会員皆様と水の大切さ等を次の世代の子供たちに知ってもらい環境保全活動を行っております。他には技能祭等のイベントに出展し当青年部の活動を広く周知する事なども行っております。

この度全管連青年部協議会に参画させて頂き、全国の青年部の皆様の活動・経験を参考に我々青年部会のさらなる活発な活動を展開していきたくと思います。



大分市管工事協同組合青年部会

「相互扶助」「相互連携」「人づくり」

代表者氏名、役職名 会長 伊藤 大輔

構 成 員 数 22名

設 立 年 月 日 S.53.11.4

ホームページアドレス なし

大分市管工事協同組合青年部は、昭和53年に発足しました。

現在は総務・親睦委員会、技術技能・視察委員会、社会奉仕活動委員会の3つの委員会を作り、献血やチャリティー餅つき、水道局主催イベントへの参加、視察研修旅行やゴルフ大会などの活動を行っております。

また、全管連青年部や西日本地区、九州地区の青年部との交流を行い、全国の仲間と絆を深めております。

近年、部会員が減少し、新規加入会員もなかなか集まらない状況ですが、青年部にしか出来ない事、青年部だからこそ出来る事を会員一同で考えていながら活動していくことで、業界発展を目指し、自己のスキルアップに繋がるよう頑張っていきたいと思っております。





若年者育成のため

技能五輪全国大会・技能グランプリの課題製作に挑戦

全管連青年部は、管工事業界の発展のためには若年者の育成が一番であるとし、そのため役員自らが建築配管職種の製作を行いました。また、技能グランプリ大会はここ数年同大会の「建築配管」職種の参加者が減少しているため、同会のPRも併せて行いました。

○技能五輪全国大会「配管」職種課題製作

期日：平成26年1月31日

場所：渡辺パイプ(株) 東京設備サービスセンター(東京都板橋区)



○技能グランプリ「建築配管」職種課題製作

期日：平成28年5月13日

場所：東京都立城東職業能力開発センター



通常総会

毎年1回、全国各地で通常総会を開催し、第20回は東京で開催されました。

現在、全国の青年部が持ち回りで総会を開催しており、総会を開催する事で、地元の団結力を高めています。

第20回通常総会

次第

開 会

会 長 挨 拶

出席状況報告

議 長 専 任

議 事

【第1号議案】

平成27年度事業報告の件

【第2号議案】

平成27年度収支決算報告
並びに会計監査報告の件

【第3号議案】

役員補充選任の件

【第4号議案】

平成28年度事業計画(案)の件

【第5号議案】

平成28年度収支予算(案)の件

閉 会



司会(佐藤理事)



議長(日下理事)



全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 創立20周年記念式典



開催概要



[日 時] 平成28年8月20日 (土)
[時 間] 午後3時30分～午後5時40分
[場 所] 京王プラザホテル
(5F コンコードE)

創立20周年記念式典が多数のご来賓、全国の会員団体、賛助会員など総勢約400名の出席のもと、8月20日に東京都新宿区の京王プラザホテルにおいて挙行されました。

記念式典



1. 開会
2. 会長挨拶
3. 来賓祝辞
4. 会員団体紹介
5. 活動事例報告
6. 全国中小企業団体中央会会長表彰授与
7. 歴代相談役退任式
8. 閉会

冒頭、秋山会長の挨拶の後、ご来賓の中から大澤全管連会長、厚生労働省宮崎水道課長、東京都水道局田村技監に祝辞を頂きました。記念式典では、記念講演として、全管連青年部OBの佐藤裕之氏による「汝何の為にそこにありや」と題した講演が行われました。





秋山会長



全管連・大澤会長



厚生労働省・
宮崎水道課長



東京都水道局・
田村技監

20周年記念ビデオ 『全管連青年部の歩み』を上映

この日のために製作された20周年記念ビデオが上映され、全管連青年部のこの10年の足跡と成果を映像で振り返りました。





永年の功績に対する感謝状贈呈

表彰式が行われ、組合の振興発展に尽くした功績として、全国中小企業団体中央会より、団体表彰並びに秋山会長の永年の功績に対する表彰が行われました。



全国中小企業団体中央会会長表彰(団体)



全国中小企業団体中央会会長表彰(個人)



賞状を掲げる

田村副会長(写真左)と秋山会長



歴代相談役 退任式

全管連青年部協議会設立時よりご尽力頂いた初代から第3代会長の福田可也相談役(富山)、高井豊司相談役(兵庫)、五十嵐俊弘相談役(川崎)の退任式が執り行われました。



退任された(写真左2人目から)
福田相談役、高井相談役、五十嵐相談役



汝何の為にそこにありや

地方創生／まちおこし実践論 ～雪寄せから風力発電まで～



さとうひろゆき
講師：佐藤裕之氏
講師略歴

1961年秋田市生まれ。秋田県立秋田高等学校、一橋大学法学部を卒業後、IR（インベスター・リレーションズ）の専門会社（株）アイ・アール ジャパンのコンサルタント等を経て、1996年に帰郷。空調衛生設備の設計施工会社、羽後設備（株）に入社。取締役企画部長、代表取締役専務を経て2006年から代表取締役社長。2012年に、風力発電会社（株）ウェンティ・ジャパンを設立し、代表取締役社長に就任。併せて2013年、風力発電関連の企業や団体によるコンソーシアム「秋田風作戦」を設立し、会長に就任。秋田での風力発電機の部品製造や周辺産業の振興による地域の活性化にも取り組んでいる。

他に（株）北都銀行取締役、秋田市総合計画・地方創生懇話会副会長、（一社）秋田県浄化槽協会副会長、（一社）秋田県空調衛生工事業協会副会長などもつとめる。元秋田管工事業協同組合青年部協議会会長、元全国管工事業協同組合連合会青年部協議会副会長。

水道事業にとどまらず、各方面で活躍される佐藤裕之氏の講演では、秋田県の人口減少や農業県の定義とは何かについて説明頂き、秋田県の地形を生かした風力発電の設置を通じて、地方の活性化を示して頂いた。地方創生のポイントとして「故郷に錦を飾る」が人がもっと増えて行く必要があり、エネルギー・水・食糧・環境等を考えると、その再生は地方にある事を示して頂いた。その為に、発展のみを考えるだけではなく、何と何を結びつけることのアプローチが今後必要となっていくと示して頂きました。



～懇親会～

懇親会の流れ

- 開会の辞
- ▼
- 会長挨拶
- ▼
- 来賓紹介
- ▼
- 乾 杯
- ▼
- 祝 宴
- ▼
- 次期開催地紹介
- ▼
- 御礼挨拶
- ▼
- 閉会の辞



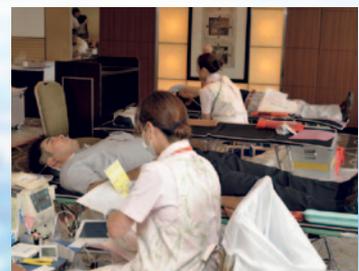
賛助会員による ブース展示

総会会場前で協賛企業による展示ブースの出展を行い、多くの本協議会会員が集まる総会の場において、会員のメリットとなる新製品などの情報を協賛企業の皆様よりご提供頂いた。ブース展示は、本協議会会員との交流を通してメリットのある場を提供することを目的としています。



献血活動

社会貢献活動として、日本赤十字献血センターの協力のもと、献血事業を実施し、60名の会員が献血を行いました。今後も継続して行っていきます。





炊き出しの様子



白玉ぜんざいを提供



釜石市立甲子中学校



ホットコーヒーを配布

◆青年部が被災地支援活動を岩手県釜石市にて行う

未曾有の被害をもたらした東日本大震災発生から約1ヶ月、この震災は被災者のみならず、世界の人達の心にも大きな爪後を残していきました。いまだ幾度となく続く余震や放射能の影響、そしてテレビでは連日連夜のように報道されている被災者の方々の原状と実態。いったい何故このような無残な出来事が…。そのような中、全管連青年部として何か出来る事はないのかと協議した結果、4月9日（土曜日）に岩手県釜石市にて秋田青年部、岩手青年部の方々の協力のもと、約1,000名分の炊き出しを行いました。

震災発生から約2週間後、正副会長部会長WEB会議にて全管連青年部として何かできる事はないかと議題に上り集中審議、被災された単組や復旧作業に日夜頑張ってる青年部員達に物資や材料の提供など色々な案が出されましたが、1人でも多くの方々にとの思いで最終的に「白玉ぜんざい」、「挽きたてコーヒー」などを1,000名分行うことに決定、そして、炊き出し経験の有る佐藤副会長（秋田）が、快く地元の調整等を引き受けて頂き、実行の運びとなりました。

炊き出し前日に集合場所である秋田に各地より集合

し、物資の積み込み及び炊き出し当日の役割分担の再確認を行いました。炊き出し当日は朝6時に秋田管工事協同組合に集合し高橋理事長に挨拶、そして簡単なスケジュールを説明後、総勢40名の大部隊で出発、途中休憩場所の「道の駅」にて岩手青年部とも合流し、一路釜石市へ向かいました。午前10時頃に釜石市の災害復旧本部に到着し、ボランティア活動のコーディネーターして頂いた神山氏、そして釜石市長にご挨拶をしました。その後、ボランティアセンターにて秋田管工事協同組合とNPO法人トップスポーツコンソーシアム秋田から提供して頂いたトラック3台分の食料や生活物資を搬入し、炊出し会場となる、甲子中学校へ向かいました。

甲子中学校では、数百人の方々が避難生活されており、運動場には所狭しと自衛隊の方々が駐留しておりました。学校施設内に入ると机の上に沢山の災害支援関係の書類が並べてあり、改めて被災者の大変さが垣間見ることとなりました。そしてそんな慌ただしい中、ご厚意で家庭科調理室をお借りして炊き出しの準備を開始、廊下では沢山の皆さんが、今か今かと並んで待つ



参加頂いた方々と集合写真



働く婦人の家ではコーヒーを配布



被災地の様子

ている姿に現実はこちらなんだと思い知らされました。午後1時半頃に炊き出しを終了し、片付け、そして次の会場となる「市民体育館」と「働く婦人の家」に2班に別れて炊き出しを行いました。なお、市民体育館には釜石市水道工事業協同組合の石川理事長も駆け付けて下さり、ご挨拶をさせて頂きました。

この炊き出しを通し、沢山の方々から『本当にありがとうございます』、『美味しかった』、『久しぶりにいただいた』といった純粋な嬉しい言葉を頂きましたが、頑張っただけ下さしとは簡単に口に出せませんでした。何故なら、被災者の皆さまの大変さの方が想像付くところが多く、被災者のほとんどの方々が「九死に一生」を得ており、震災後、毎日一生懸命に生活しているから…。そして、多くの被災地では被災者が先頭に立って被災者を助け合っているのだから…。だから、決して無理はしないで下さいとだけお伝えして参りました。

2回目の炊き出しも午後4時頃に終了し、岩手青年部の皆さまとそしてお別れし、残ったメンバーで被災地の釜石市内の視察を行いました。現状はテレビや写真で見るのとは違うと予想していましたが、実際に被災地を見た瞬間から私達はただただ驚き、呆然と言葉を無くして立ち尽くすだけでした。そしてその恐怖心の中、テレビで見ていた映像が走馬灯のように頭の中を駆け巡り、自然の猛威の前では、私たち人間は全くの無力なのかと思い知らされました。

秋田への帰りの車中、避難所で会った方々の事やこれからの災害支援など、いろんな事を話し合いながら帰りましたが、何事にも意味をなさず…。被災地もそうじゃないところも、心にはポツンと何かが…。正直、言葉では表現出来ません。しかし、復興作業は始まったばかりです。何とかしたい、何か出来ないか!?何が出来るとかなど思い付く事があれば、形にして欲しいという思いでいっぱいです。そして、僅かながらでも我々全管連青年部としても協力していきたいと…。そして、午後9時半頃に秋田に到着し、後片付け後に協力して下さった秋田の皆さんにお礼を申し上げ、解散させて頂きました。

最後に、今回炊き出しに協力して頂いた秋田青年部の方々、岩手青年部の方々、そして物資を提供して頂いた会員の方々及び協力参加して頂いた方々、本当に有難うございました。皆様方の協力なくして、この炊き出しは行うことができなかったと思います。また、被災地にて復旧作業にあたっている会員の方々、そしてこれから被災地に復興支援に行かれる方々、胸を張って頑張って下さい!!

そして最後に、被災なされた皆さまにおかれましては、1日でも早く平穏な日々が回復いたしますよう、心よりお見舞い申し上げます。

秋山雅仁理事（岡山市管工設備協同組合青年部）

※役職は当時

熊本地震復興ボランティア活動

～熊本県阿蘇郡西原村でボランティア活動を実施～

平成28年7月1日 熊本県阿蘇郡西原村



ボランティア登録



活動の様子



仮の水道管の復旧作業



地震により散乱した民家の片付けを行う

平成28年熊本地震におかれまして被災された方々にお見舞い申し上げます。

平成28年7月1日、福島県管工事協同組合連合会青年部を代表して全国管工事業協同組合青年部協議会主催の熊本復興ボランティア活動に参加してまいりました。5年前の東日本大震災において全国の方々から励ましや支援をいただいたことを想いながら心を込めて作業してまいりました。

熊本市中心街に入って感じたことは、ライフラインや市街地の整備等の復旧が非常に進んでおり、街が円滑に、平静に機能している事と、何よりも生活している人たちに笑顔が見られている事が、非常に印象的でした。我々東日本大震災の2か月後は、ライフラインの復旧工事等の需要と供給のバランスが崩れており、余裕のない日々を送っていたように思います。恐らく、地元の業者の結束とボランティア活動の円滑な運営が

功を奏しているのだと思いました。復旧作業を行う西原村付近へ近づくと倒壊した家が多数みられました。熊本地震は過去最高の震度7ではあるものの、東日本大震災とは異なり、広範囲ではない事と、地震が中心市街地に大きく及ばなかった事、沿岸部の津波が少なかった事も復旧作業の運営の円滑化につながっているのかな、と感じました。

ボランティアセンターにはなんと、福島県在住の私の小中学校の先輩が作業にあたっており、驚かされました。「5年前の想いを返しに来てるんだー」と言っておられました。そんな想いをもっている方がいる事を感じる貴重な活動となりました。

そして、2班に分かれ、1班は仮の水道管の復旧作業を行いました。西原村では倒壊した民家が多く、水道復旧がままならい状況でした。その中で、我々本業ともいえる水道復旧の一端をボランティアとして担う事



民家の片付けを終えて



ボランティア活動を終えて

ができたのは非常に有意義であるものでした。

もう1班は10数名にてお年寄りがひとりで運営していたお店及びその住居内の地震後そのままになっていた食器や冷蔵庫、陳列棚、食糧等の片付けの作業を行いました。全管連青年部協議会のメンバーで作業をするのは初めてでしたが、みなさん、あうんの呼吸で非常に円滑に作業を行う事ができました。これも日頃から会長を中心に年に数回の理事会やリアルタイムで行うフェイスブック等でコミュニケーション「輪」をとっていた事がよかったのだと考えます。

作業の後、熊本市内にて熊本市管工事協同組合の理事、青年部の方々と情報交換を行いました。懇親会の中で、福島県管工事協同組合連合会青年部より、熊本市管工事協同組合青年部へ義援金の贈呈を行いました。5年前、東日本大震災の際には全国の方々より沢山の支援、励まし、義援金をいただきましたので、そ

の想いを熊本の方へ伝えることができました。今後この「輪」が繋がっていく事を期待します。

熊本地震復興ボランティア活動に参加して、人と人とのつながりである「輪」が素晴らしいものである事を改めて感じました。そして新しくできた、アツイ熊本、九州男児との「輪」をこれからより一層深いものとしながら、この「輪」を全国へ広げていきたいと思えます。

最後にこの活動を行うにあたり、短い期間でありながら、スケジュールの調整等に尽力していただいた全管連事務局の仲村氏に感謝いたします。

日下貴博理事（福島県管工事協同組合連合会青年部）

歴代役員一覧

会長



平成9年度
平成12年度
福田 可也(富山)



平成17年度
平成20年度
五十嵐 俊弘(川崎)



平成23年度
平成26年度
中島 誠照(名古屋)



平成13年度
平成16年度
高井 豊司(兵庫)



平成21年度
平成22年度
加藤 炳秀(京都)



平成27年度
秋山 雅仁(岡山)

平成19年度 (2007年)

会長

五十嵐 俊弘 (川崎)

総務担当副会長

佐藤 裕之 (秋田)

事業担当副会長

高柳 茂宣 (東京)

総務部会長

平岩 誠 (広島)

事業部会長

中島 誠照 (名古屋)

総務副部会長

中井 啓仁 (和歌山)

事業副部会長

加藤 炳秀 (京都)

理事

八木 橋仁志 (北海道)

中野 和哉 (青森)

佐々木 英彦 (岩手)

井上 環 (宮城)

笹原 好巳 (山形)

斎藤 匡司 (福島)

黒川 平 (宇都宮)

積田 鉄也 (埼玉)

山口 輝恭 (新潟)

織田 寿一 (富山)

井戸 裕之 (兵庫)

秋山 雅仁 (岡山)

高尾 雄二 (高松)

宮本 正一郎 (愛媛)

田村 茂人 (徳島)

下元 大介 (高知)

濱崎 光章 (大分)

監事

田代 政明 (東京)

樋口 泰宏 (川崎)

平成20年度 (2008年)

会長

五十嵐 俊弘 (川崎)

総務担当副会長

佐藤 裕之 (秋田)

事業担当副会長

高柳 茂宣 (東京)

総務部会長

中島 誠照 (名古屋)

事業部会長

平岩 誠 (広島)

総務副部会長

中井 啓仁 (和歌山)

事業副部会長

加藤 炳秀 (京都)

理事

八木 橋仁志 (北海道)

中野 和哉 (青森)

紺野 輝樹 (岩手)

井上 環 (宮城)

原田 誠 (山形)

坂本 憲弘 (福島)

佐藤 義晴 (宇都宮)

積田 鉄也 (埼玉)

佐藤 信久 (新潟)

吉枝 貴之 (富山)

井戸 裕之 (兵庫)

秋山 雅仁 (岡山)

高尾 雄二 (高松)

佐藤 隆史 (愛媛)

田村 茂人 (徳島)

下元 大介 (高知)

濱崎 光章 (大分)

監事

椿 浩一 (東京)

樋口 泰宏 (川崎)

平成21年度 (2009年)

会長

加藤 炳秀 (京都)

総務担当副会長

佐藤 裕之 (秋田)

事業担当副会長

中島 誠照 (名古屋)

総務部会長

井戸 裕之 (兵庫)

事業部会長

高柳 茂宣 (東京)

理事

川股 幸徳 (北海道)

佐々木 昭仁 (青森)

紺野 輝樹 (岩手)

井上 環 (宮城)

原田 誠 (山形)

坂本 憲弘 (福島)

佐藤 義晴 (宇都宮)

積田 鉄也 (埼玉)

川又 健太郎 (川崎)

佐藤 信久 (新潟)

吉枝 貴之 (富山)

中山 清誠 (和歌山)

秋山 雅仁 (岡山)

福田 光剛 (広島)

高尾 達也 (高松)

佐藤 隆史 (愛媛)

田村 茂人 (徳島)

西川 章仁 (高知)

監事

椿 浩一 (東京)

樋口 泰宏 (川崎)

平成22年度
(2010年)

会 長
加藤 炳秀 (京都)
総務担当副会長
佐藤 裕之 (秋田)
事業担当副会長
中島 誠照 (名古屋)
総務部会長
井戸 裕之 (兵庫)
事業部会長
高柳 茂宣 (東京)
総務副部会長
秋山 雅仁 (岡山)

事業副部会長
佐藤 義晴 (宇都宮)
理 事
川股 幸徳 (北海道)
佐々木昭仁 (青森)
紺野 輝樹 (岩手)
扇 俊介 (宮城)
原田 誠 (山形)
新田 学 (福島)
積田 鉄也 (埼玉)
川又健太郎 (川崎)
佐藤 信久 (新潟)

吉枝 貴之 (富山)
中山 清誠 (和歌山)
福田 光剛 (広島)
高尾 達也 (高松)
佐藤 隆史 (愛媛)
田村 茂人 (徳島)
西川 章仁 (高知)
監 事
椿 浩一 (東京)
樋口 泰宏 (川崎)

平成23年度
2011年

会 長
中島 誠照 (名古屋)
副会長
秋山 雅仁 (岡山)
事業担当副会長
田村 茂人 (徳島)
総務部会長
太田 博之 (秋田)
事業部会長
佐藤 義晴 (宇都宮)
総務副部会長
岡田 真一 (兵庫)

事業副部会長
宮本 茂樹 (京都)
理 事
川股 幸徳 (北海道)
成田 一郎 (青森)
八重樫 敏 (岩手)
扇 俊介 (宮城県)
齋藤 洋也 (山形)
新田 学 (福島)
仲儀 公亮 (埼玉)
川又健太郎 (川崎)
村上 竜馬 (東京)

堀川 晃 (新潟)
浦田 律夫 (富山)
中山 清誠 (和歌山)
福田 光剛 (広島)
三島 季夫 (高松)
佐藤 隆史 (愛媛)
西川 章仁 (高知)
高田 拳 (福岡)
監 事
積田 鉄也 (埼玉)
椿 浩一 (東京)

平成24年度
(2012年)

会 長
中島 誠照 (名古屋)
総務担当副会長
秋山 雅仁 (岡山)
事業担当副会長
田村 茂人 (徳島)
総務部会長
太田 博之 (秋田)
事業部会長
佐藤 義晴 (宇都宮)
総務副部会長
岡田 真一 (兵庫)

事業副部会長
宮本 茂樹 (京都)
理 事
川股 幸徳 (北海道)
成田 一郎 (青森)
八重樫 敏 (岩手)
扇 俊介 (宮城)
齋藤 洋也 (山形)
新田 学 (福島)
仲儀 公亮 (埼玉)
村上 竜馬 (東京)
川又健太郎 (川崎)

堀川 晃 (新潟)
浦田 律夫 (富山)
中山 清誠 (和歌山)
福田 光剛 (広島)
三島 季夫 (高松)
日野 隆史 (愛媛)
西川 章仁 (高知)
高田 拳 (福岡)
監 事
積田 鉄也 (埼玉)
椿 浩一 (東京)

平成25年
(2013年)

会 長
中島 誠照 (名古屋)
総務担当副会長
秋山 雅仁 (岡山)
事業担当副会長
田村 茂人 (徳島)
総務部会長
扇 俊介 (宮城)
事業部会長
川又健太郎 (川崎)
総務副部会長
佐藤 義晴 (宇都宮)

事業副部会長
村上 竜馬 (東京)
理 事
川股 幸徳 (北海道)
荒川 伸也 (青森)
鈴木 英樹 (秋田)
齋藤 洋也 (山形)
山内 健晴 (福島)
仲儀 公亮 (埼玉)
堀川 晃 (新潟)
棚元 理人 (富山)
杉山 勤 (和歌山)

小林 弘幸 (兵庫)
佐藤 博一 (京都)
山本 昌宏 (広島)
友澤 幹知 (高松)
日野 隆史 (愛媛)
西川 章仁 (高知)
高田 拳 (福岡)
大仲 晴光 (大分)
監 事
積田 鉄也 (埼玉)
瀧島 康秀 (東京)

歴代役員一覧

平成26年度 (2014年)

会 長	事業副部会長	小林 弘幸 (兵庫)
中島 誠照 (名古屋)	村上 竜馬 (東京)	佐藤 博一 (京都)
総務担当副会長	理 事	山本 昌宏 (広島)
秋山 雅仁 (岡山)	川股 幸徳 (北海道)	友澤 幹知 (高松)
事業担当副会長	溝江 貴之 (青森)	日野 隆史 (愛媛)
田村 茂人 (徳島)	鈴木 英樹 (秋田)	西川 章仁 (高知)
総務部会長	齋藤 洋也 (山形)	高田 拳 (福岡)
扇 俊介 (宮城)	日下 貴博 (福島)	大仲 晴光 (大分)
事業部会長	仲儀 公亮 (埼玉)	監 事
川又健太郎 (川崎)	堀川 晃 (新潟)	積田 鉄也 (埼玉)
総務副部会長	棚元 理人 (富山)	瀧島 康秀 (東京)
佐藤 義晴 (宇都宮)	杉 山 勤 (和歌山)	

平成27年度 (2015年)

会 長	事業副部会長	永山 雅規 (名古屋)
秋山 雅仁 (岡山)	小金丸 剛 (福岡)	池田 直仁 (和歌山)
総務担当副会長	理 事	山本 真義 (京都)
扇 俊介 (宮城)	臼谷 和弘 (北海道)	山本 昌宏 (広島)
事業担当副会長	溝江 貴之 (青森)	渡邊 光一 (高松)
田村 茂人 (徳島)	鈴木 英樹 (秋田)	日野 隆史 (愛媛)
総務部会長	齋藤 洋也 (山形)	濱田 啓志 (高知)
小林 弘幸 (兵庫)	日下 貴博 (福島)	伊藤 大輔 (大分)
事業部会長	佐藤 義晴 (宇都宮)	監 事
村上 竜馬 (東京)	太田 勝晶 (神奈川)	積田 鉄也 (埼玉)
総務副部会長	北澤 昂也 (新潟)	瀧島 康秀 (東京)
仲儀 公亮 (埼玉)	棚元 理人 (富山)	川又健太郎 (川崎)

平成28年度 (2016年)

会 長	事業副部会長	永山 雅規 (名古屋)
秋山 雅仁 (岡山)	小金丸 剛 (福岡)	池田 直仁 (和歌山)
総務担当副会長	理 事	山本 真義 (京都)
扇 俊介 (宮城)	臼谷 和弘 (北海道)	山本 昌宏 (広島)
事業担当副会長	溝江 貴之 (青森)	渡邊 光一 (高松)
田村 茂人 (徳島)	鈴木 英樹 (秋田)	日野 隆史 (愛媛)
総務部会長	齋藤 洋也 (山形)	伊藤 章久 (高知)
小林 弘幸 (兵庫)	日下 貴博 (福島)	谷村 正夫 (長崎)
事業部会長	廣田 勝義 (宇都宮)	伊藤 大輔 (大分)
村上 竜馬 (東京)	太田 勝晶 (川崎)	監 事
総務副部会長	北澤 昂也 (新潟)	積田 鉄也 (埼玉)
仲儀 公亮 (埼玉)	棚元 理人 (富山)	瀧島 康秀 (東京)
	成瀬 章宏 (石川)	川又健太郎 (川崎)

事務局



専務理事
粕谷 明博
成人した青年部のさらなる活躍を期待します。



常務理事
松本 淳司
求められる業界へ、さらなる高いステージをめざして。



局長
上田 忠幸
退任の相談役の皆様、お疲れ様でした。



課長
佐藤 良浩
皆様のおかげで20周年。30周年に進みましょう!



課長
鈴木 都久生
成人した青年部のさらなる活躍を期待します。



主任
依田 仁朗
更なるご発展とご活躍を祈念しております。



主任
阿蘇 千寿子
今後の益々のご発展を祈念いたします。



主任
仲村 信慶
次の10年へ向けて、ご活躍を祈念します。

協賛企業一覧

橋本総業株式会社	表2
TOTO株式会社	84
株式会社LIXIL	85
キャタピラー・ジャパン株式会社	86
前澤給装工業株式会社	87
渡辺パイプ株式会社	88
(一社) 全国設備業IT推進会	89
株式会社 日本エキスパートシステム	90
積水化学工業株式会社	91
株式会社 日邦バルブ	91
損害保険ジャパン日本興亜株式会社・株式会社ウーベル保険事務所	92
株式会社 キッツ	92
株式会社 オンダ製作所	92
京王プラザホテル	93
兼工業 株式会社	93
株式会社 川西水道機器	93
コスモ工機株式会社	93
株式会社 美巧社	93
河上商事株式会社	93
株式会社 佐藤管材工業	93
前田印刷株式会社	94
株式会社トラパンツ	94
株式会社大成美術印刷所	94
株式会社関東観光社	94
アサガミプレスセンター株式会社	94
富士ゼロックス株式会社	94
株式会社 水研	94
安田株式会社 岡山支店	94
株式会社日本設備工業新聞社	95
東京都火災共済協同組合	95
株式会社タブチ	表3

あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO

「清潔」は、進化する。

NEOREST



「きれい除菌水」でトイレのきれいを保ちます。

便器きれい



※イメージです。

「きれい除菌水」のミストを自動で吹きかけ、目にみえない汚れや菌を分解・除菌。

ノズルきれい



※イメージです。

トイレ使用後に「きれい除菌水」が、ノズルの外側も内側も自動で洗浄・除菌。

においきれい (AH2Wのみ)



※イメージです。

トイレ空間の気になるニオイを取り込み、除菌水フィルターに捕集して脱臭。

※集じん機能はありません。すべてのニオイを除去することはできません。

※詳しくは当社カタログ、またはホームページをご覧ください。

TOTO技術相談室 電話:0570-01-1010 FAX:0570-01-2111 受付時間:(平日)9:00~18:00(土曜日)9:00~17:00(日・祝・夏期休暇・年末年始を除く)
専門家コーナー「COM-ET」 www.com-et.com TOTOホームページ www.toto.co.jp

LIXIL

Link to Good Living

アクアセラミックが、トイレに新世紀を告げる。

100年クリーン

水のチカラで、ずっと輝く

AQUA
CERAMIC

- クリーン① トイレの汚れが、ツルンッと落ちる。
- クリーン② リング状の黒ずみ、くすみとサヨナラ。
- クリーン③ 新品時のツルツルが、100年つづく。*

LIXIL主力住宅トイレのすべてに「アクアセラミック」を展開

* 同一部位の摩擦回数2往復で年間365日お掃除した場合。お掃除ブラシで約7万回(100年相当)の往復を想定しています。

株式会社 LIXIL お客さま相談センター ☎ 0120-179-400 受付時間：平日 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00

小さくてもCat®クオリティ。 作業に合わせて選べる 小型機ラインナップ



現場に合わせて最適なクラスや仕様をご用意しています。

●ミニ油圧ショベル

0.011~0.22m³クラスまで超小旋回機や各種アプリケーション対応機もラインナップ

●ミニホイールローダ

0.4~0.6m³クラスの標準機に加えて除雪、畜産など用途に合わせた仕様もご用意。

●小型ブルドーザ

7~10トンクラスまでの全機種に湿地車、乾地車の2タイプを設定。

※中・大型機も、フルレンジのラインナップを取りそろえています。



キャタピラージャパン株式会社

小型製品販売促進グループ

東京都世田谷区用賀4丁目10番1号 TEL 03-5717-1156

建機プロ <http://kenkipro.com>

CATERPILLAR, Caterpillar, CAT, Cat及びACERTはCaterpillar Inc.の登録商標です。



QSO

Quality, Safety & Originality

大切な水を人々の
暮らしへとつなぐ



前澤給装工業株式会社

<http://www.qso.co.jp/>

本社 〒152-8510 東京都目黒区鷹番二丁目14番4号 Tel.(03)3716-1511(代表)



JQA-1691
(福岡工場)



JQA-EM2080
(本社・福岡工場・東京営業所)

北海道(011) 814-1515	茨城(029) 824-7581	長野(0263) 87-5264	名古屋(052) 745-8211	九州(092) 472-7341
釧路(0154) 25-0311	栃木(028) 633-8821	東京西(042) 578-2571	京都(075) 365-0066	熊本(096) 386-2377
青森(017) 773-3158	群馬(027) 280-6351	横浜(045) 323-5671	大阪(06) 4808-4411	鹿児島(099) 257-1770
秋田(018) 866-3551	埼玉(048) 815-7112	静岡(054) 238-2171	岡山(086) 243-8151	
仙台(022) 263-2331	千葉(043) 233-9631	新潟(025) 241-5466	広島(082) 291-4351	
福島(024) 927-5651	東京(03) 3711-6331	北陸(076) 240-6510	四国(089) 974-8577	

かけがえのないものを つなぐ仕事。

わたしたちは、
暮らしをつなぐ資材を運び、
食をつなぐ資材を創り、
社会の生活インフラづくりを
支えています。

かけがえのない、
あたりまえの日々。
セディアシステムは、
今日も人々の暮らしを
明日へとつなげています。



水・住まい・農業の明日へ。そこにセディアシステム
渡辺パイプ株式会社

業務内容:管工機材、住宅設備機器、電設資材、土木資材、農業資材の販売、並びに企画、設計。

本社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス6階 TEL:03-3549-3111 <http://www.sedia-system.co.jp>



一般社団法人 一設備業の方々のIT活用を支援一

全国設備業IT推進会

<http://www.setsubi-it.jp/>

設備業者様にITに関する提案を行っている企業が集い、全国レベルのIT推進を目的として設立した組織です。「全国設備業IT推進会」では、組合経由で設備業の方々へITの啓発活動を行い、さまざまな無料の特典をご用意しています。



メールマガジン



専用サイト



無料セミナー



組合HP
作成サービス



企業HP
作成サービス



PDF図面CAD
変換サービス



会員限定
特価クーポン

現在1,217組合
48,969社様に
ご加入いただき、
当会のサービスを
ご利用いただいで
います！

そのほかにも

会員様限定の
無料特典が
満載!!

おすすめ製品情報



こうじやさんEXシリーズ

より良いシステムでつながる信頼の企業パートナー

石田データサービス株式会社

電気設備・給排水衛生設備・空調換気設備・消防弱电設備工事業向けの積算見積、原価管理ソフトです。

材料拾い集計システム

拾い EX

手拾い感覚で作業時間を短縮！



CADデータやPDFファイル、スキャナから図面を読み込んでパソコンの画面上から簡単な操作で正確な拾い出し作業が行えるシステムです。

工事積算見積システム

本丸 EX

情報共有による積算の効率化！



手書きによる見積作業をイメージした画面構成で、導入後すぐに使える操作性を追求した積算ソフトです。ネットワーク運用による社内情報の一元化が可能です。

工事原価管理システム

二の丸 EX

請求・入金漏れ対策！



各社員が原価を意識することで利益率をアップさせることを目的としたシステムです。工事の進捗状況をいつでも確認できるので、社内業務の改善に役立ちます。

簡単操作!!低価格なのに高機能な設備業に特化した見積ソフト!

アクアソフト 株式会社

設備業者様向け 見積ソフト『見積Goo!』



給排水 空調 衛生 見積原価管理ソフト Est

製品特徴

- ◆簡単シンプル操作でサクサク見積作成!!
- ◆参考複合単価・材料データ多数搭載!!
- ◆見積した過去物件の管理もできる!!

エクセルライクな操作画面でパソコンが苦手な方でも直感的に操作できます。参考複合単価・材料データを約8000件搭載！書式カスタマイズ・請求書出力・物件管理etc...本当に使いたい機能だけを搭載した見積専用ソフトです。価格も驚きの低価格！でも高機能！それが【見積Goo!】！姉妹製品にデータフリーな建築版(Arc)もご用意しています！

ソフト価格
80,000円 [税別]



水道申請業務の効率化におすすめ

水道工事 専用CAD

給排水申請CADシステム「ANDES水匠 for 申請」

N 株式会社 システムズナカシマ

給排水申請 / 排水申請 / プラン図 / 材料集計
まで作成可能なマルチなCADシステムです！

- 躯体図と必要な器具を配置すれば自動配管で平面図作画工数削減
- 給排水共に平面図から立面図自動作成。排水縦断面図もワンタッチ作成
- EXCEL感覚で帳票作成可能、さらにワンタッチで材料集計可能
- 本管管割図/プラン図用機能も多数搭載

図面&書類を
30分
仕上げ!!

上水道本管工事の
業務に特化した
CADシステム
水匠for本管
もごさいます



ITに関するご相談・ご用命・お問い合わせはこちら

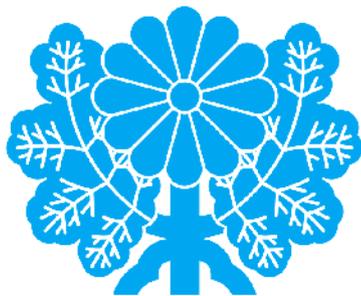
※お気軽にご相談ください

03-5821-9761

一般社団法人全国設備業IT推進会 事務局 (システムズナカシマ内)
Email : setsubi-it@nakashima.co.jp

青山にお墓を

地名「青山」の由来となった名刹



長青山 寶樹寺

梅窓院

ばい そう いん



【一般墓所】お求めやすい墓所から世界でただひとつのお墓づくりまで。
【永代供養墓】後継者のいない方の為に梅窓院が永代にわたりご供養致します。

●お問い合わせ：青山梅窓院墓苑
南青山2-26-34 NBM南青山ビル

外苑前駅 1b 出口

総販売代理店：(株)日本エキスパートシステム

0120-876-762

受付時間：午前9時～午後5時

SEKISUI

ハ タ チ
二十歳。

MATERIAL SWITCH

20th

水道用耐震型高性能ポリエチレン管

エスロハイパー

ライフラインは、Futureだ

エスロハイパー 20周年

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー

エスロタイムズ on the Web <http://www.eslontimes.com>

キャビネット型

技術と信頼のトレードマーク



集合メータユニット

アクアステージア MUA

- マンションの改修用に好評
- エントランス周りがスッキリ
- メータの集中管理で検針・交換が容易

マンション改修工事での使用例

改修前

各戸メータはパイプシャフト内にそれぞれ設置されて、複数存在。



改修後

MUAを設置し、各戸メータを1箇所に集約。



レバーを手前に倒すとメータが45°傾き、計量指示を読むことができます。



株式会社 日邦バルブ
<http://www.nippov.co.jp/>

素敵な創造～人へ・未来へ

東京支店 〒160-0023 新宿区西新宿7-22-35 西新宿三晃ビル TEL (03) 5338-2231

札幌 (011) 232-0471
仙台 (022) 213-3177
北関東 (0283) 22-7547

神奈川 (042) 741-7121
松本 (0263) 50-5221
名古屋 (052) 735-6511

大阪 (06) 6354-1057
広島 (082) 232-8117
福岡 (092) 472-5128

祝 全管連青年部協議会20周年

安定した企業経営のために、全管連の2つの制度をご利用下さい。

法定外労働災害補償制度

(従業員の補償のために) [労働災害総合保険]

管工事賠償補償制度

(第三者に対する賠償事故の補償のために) [賠償責任保険]

詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

引受保険会社



損害保険ジャパン日本興亜株式会社

営業開発部第三課

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

TEL: 03-3349-3820 FAX: 03-6388-0157

取扱幹事代理店

株式会社ウーベル保険事務所

〒104-0041 東京都中央区新富2-4-5 ニュー新富ビル8階

TEL: 03-3553-8552 FAX: 03-3553-8553

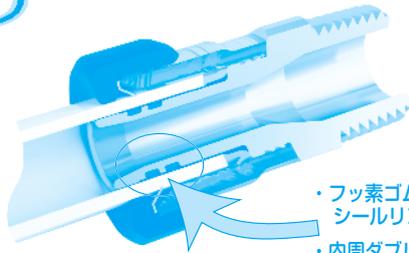
(SJNK16-04474)2016年6月30日作成

KITZ

<http://www.kitz.co.jp/>

とことん機能で勝負！ クリアロックS

架橋ポリエチレン管用ワンタッチ継手



- ・フッ素ゴム製
シールリング採用
- ・内周ダブルシール構造

株式会社 **キッツ**

国内営業本部 給湯営業部
本社 千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1
Tel: 043-299-1760

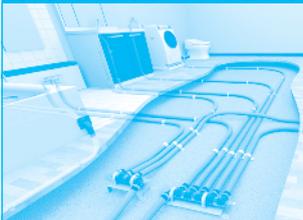
パイプの挿入は
“パチン”という
音と感触、赤い目印で
確認！

塩素・お湯に
強く長寿命！

015-1-198

ONDA CAPORI 給水・給湯配管システム

カボリパイプW・ダブルロックジョイント



カボリパイプW ダブルロックジョイント

豊富なバリエーションと、しっかりと固定する「ダブルロック構造」で安心・確実。

逆止弁付ボールバルブ

給湯器配管に便利！



カボリエコ

カボリエコパイプ

新乳着管合金と
耐熱ポリエチレンの
二層管

カボリエコジョイント

安心・確実
ワンタッチ
接続

優れた耐熱性、耐食性で長期使用も安心です。

新製品



本体一体型樹脂製ヘッダー



屋外リフォーム配管カバー



アングル・ストレート兼用循環口

ONDA

株式会社 オンダ製作所

<http://www.onda.co.jp/>

営業所

札幌・盛岡・仙台・宇都宮・さいたま
千葉・東京・立川・横浜・新潟・富山
静岡・中部・大阪・岡山・広島・高松
福岡・鹿児島

くつろぎ、味わい、楽しむ。
ホテルのあたたかさ感じてください。



京王フラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL. (03) 3344-0111
<http://www.keioplaza.co.jp>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

安全でおいしい水のために

KRK
減圧式逆流防止器
CX(飯圧調整型)/BX(標準型)

受水槽以降の
逆流防護に最適です。



飲み水の逆流汚染を
防ぐことができます。

ECO CLEAN KRK
ボールタップ
形式:FWH

貯留水の
衛生維持には
基準塩素濃度、
吐水口空間の
確保が重要。

調整止水位は
最大 1000mm
最小 300mm

残留塩素の適正管理
に最適です。

KRK-KANE 兼工業株式会社

札幌 / 仙台 / 東京 / 名古屋 / 大阪 / 広島 / 福岡

<http://www.kkkvalve.jp> www.kanevalve.com
e-mail: domestic@kkkvalve.jp

伸縮可とう離脱防止継手



小口径管路における圧倒的な安全性を
簡単施工かつ低コストで実現

管種による特殊作業

- 銅管……………ねじ切り作業
フランジ接続
- 内外面被覆鋼管……………被覆剥ぎ作業
- 塩ビ管……………溶剤塗布
- ポリエチレン管……………インコアの打込み作業
- 給水用高密度PE管……………融着作業

不要

管を挿入し締付ける簡単施工
(全管種共通)



● 施工時間の大幅短縮を実現
● 狭小スペースでも施工可能



ジョイントテクノロジーの未来を拓く

(株)川西水道機器

(本社)〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶7188-1

施工についてのお問い合わせ先: TEL:087-877-2800 担当: 漆原(ウルハラ)

祝 全管連青年部協議会 創立20周年

人と水の未来をみつめて

COSMO

代表取締役社長 加藤 正明

コエモ工業株式会社 <https://www.cosmo-koki.co.jp/>

本社 〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目9番5号

(TEL)03-3435-8805 (FAX)03-3435-8825

大会誌・報告書・記念誌

おまかせください

創業50余年の実績と培った技術でみなさまの本づくりをサポート。
原稿づくりから印刷製本まで社内一貫で対応。
各種書籍のことなら弊社へ安心しておまかせください。



出版実績多数 ネット販売、書店流通
まで対応可能。

まずはお気軽にご相談ください。



株式会社美巧社 総合印刷
出版

本社 / 香川県高松市多賀町1-8-10 TEL(087)833-5811 FAX(087)835-7570
東京支社 / 東京都豊島区駒込1-35-4グローバル駒込2F TEL(03)6912-2255 FAX(03)6912-5652
木太工場 / 香川県高松市木太町4区2374-3 TEL(087)863-5651 FAX(087)863-5652



公共上下水道資材及び
住宅設備機器販売商社



河上商事株式会社

代表取締役 河上 忠司

本社 〒710-0038 倉敷市新田2877-1
TEL. 086-422-1515 FAX. 086-422-0987

岡山支店 〒700-0945 岡山市南区新保370-7
TEL. 086-223-3881 FAX. 086-223-0987

水と取り組む実績と信用

上下水道用資材総合取扱店
上下水道設計施工



株式会社 佐藤管材工業

本社 / 〒701-0165 岡山市北区大内田830-2
TEL. (086)292-5311(代) FAX. (086)292-5188
(工事部) TEL. (086)292-5319 FAX. (086)292-4849



前田印刷は
新たな一歩を
踏み出します。

前田印刷株式会社 白山工場・金沢事業部
大阪支店・筑波支店・富山支店
東京支店 / 東京都新宿区水道町2-13 江戸川橋Hビル3F ☎03(3269)6690(代)

全管連青年部協議会
創立20周年
おめでとうございます

株式会社 **トラパンツ** www.torapants.co.jp
Webサイト・システム・ムービー・CM 企画/制作/運営
◎ 秋田本社 秋田県秋田市 ◎ 岩手オフィス 岩手県盛岡市

トラパンツコンテンツスクール
パソコン操作の基礎・Webクリエイター&プログラマーの育成
◎ 竿燈大通り校 ◎ 山王校 ◎ 岩手校

全国管工事業協同組合連合会
青年部協議会
創立20周年
おめでとうございます

株式会社 大成美術印刷所
〒104-0043 東京都中央区湊1-9-9
TEL:03-3552-3810 FAX:03-3552-3820

研修、周年事業、招待旅行
各種イベント・旅行企画・出張
貸切バス手配は



ばすらくねっと
株式会社関東観光社
TEL 03-3918-6431
FAX 03-3917-5533
http://www.bus-raku.net/ mail: info@bus-raku.net

デザインから発送までの総合印刷企業



アサガミプレスセンター株式会社
代表取締役社長 岩城 静二
〒135-0043 東京都江東区塩浜2-4-20 TEL 03(5690)1113 FAX 03(5690)3800

FUJI XEROX 

富士ゼロックス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 TEL 03(6271)5111
http://www.fujixerox.co.jp/

EM不漏水バルブ工法に待望の新モデルが誕生!
超コンパクトボディで狭小空間に対応

新登場

【铸铁管・鋼管用】EM不漏水バルブ工法 PAT.
エスゲートEX
■適用管種
ダクタイル铸铁管・鋼管:呼び径75~150mm



水研 株式会社
本社/滋賀県蒲生郡日野町北脇 206-7 TEL(0748)53-8083
東京支店/東京都練馬区春日町6丁目7番32号 TEL(03)3970-9030

人と、街と、社会のために

安田株式会社
岡山支店

〒702-8022 岡山市南区福成3丁目5番11号 ☎(086)263-8581 FAX(086)263-1910
本社(岐阜)/名古屋支店/大阪支店/金沢支店/三重支店/松山支店/岡山支店/
静岡支店/富山支店/姫路支店/京都支店/東京支店/徳島支店/熊本支店

株式会社 日本設備工業新聞社

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町10-13 野元第1ビル
TEL 03-3496-4774(代) FAX 03-3464-1884
<http://setubikougyo.co.jp>
E-mail:info@setubikougyo.co.jp

日本設備工業新聞・月刊コア発行

代表取締役社長 高倉克也

生命傷害共済制度

＜中小企業者の相互扶助制度＞
皆様の万一の傷害や死亡に対し
安い掛金で大きな保障を

 とうきょう共済

東京都火災共済協同組合

(<http://www.tokyo-kyosai.or.jp/>)

中央区銀座2-10-18 中小企業会館2階

TEL03-3542-0271 FAX03-3542-8410



編集後記

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会（全管連青年部）が
創立20周年を迎えるにあたり、記念誌を発刊することになりました。
創立10周年の時にも記念誌を発刊しましたので今回の20周年も
当然作るんだろうなあという所感をもっていました。
そして、今年度、私は全管連青年部総務担当に所属していたので、
なんとなく実行委員長になる予感がしていましたが
やはり記念誌の発刊に携わることになりました。
全体の校正については、総務部会のメンバーと協力しながら、確認を行い、
編集後記は私が執筆する事となりました。
この記念誌を読み解くと初代先輩達の立ち上げ時の
産みの苦しみや、歴代の諸先輩達のご活躍、そして20年という重みを痛感しました。
現役である我々は今後もこの20年の歴史に恥じぬよう
一層の努力を重ねていきたいと思えます。
最後になりますが、この記念誌作成にあたり関係各位のご協力に厚く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

創立20周年記念誌 実行委員長 扇 俊介

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会
創立20周年記念事業

発行 全国管工事業協同組合連合会 青年部協議会
〒170-0004 東京都豊島区北大塚3丁目30番30号
TEL：03-3949-7312
FAX：03-3949-7351
発行日 2016.10.31
発行部数 3,500部
印刷 株式会社美巧社

全国管工事業協同組合連合会青年部協議会 創立 20 周年
おめでとうございます。

低層集合住宅用
複式メータボックス

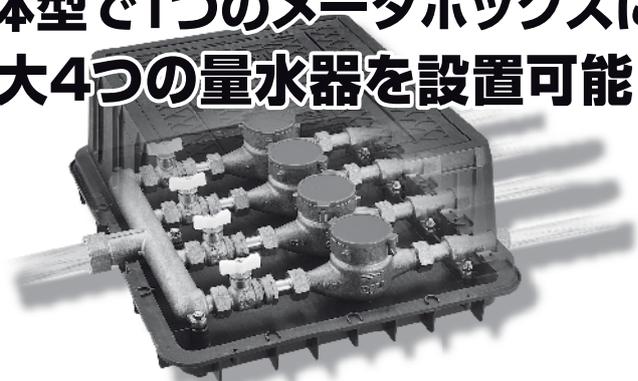
NEW

樹脂製

クワットロ

Quattro

メータユニット一体型で1つのメータボックスに
最大4つの量水器を設置可能！



NEW 樹脂製による軽量化…………… **重量 約1/3**

メータボックスを全て樹脂にした為、大幅な軽量化が実現でき、持ち運びなどが行いやすくなりました。
※当社鉄製比

鉄製

樹脂製

掘削作業を…………… **45% 削減!**

メータボックスの集約により、掘削作業の軽減と、施工時間の短縮化が可能です。
※当社比4連の場合

前面道路からの引き込みのための掘削作業を考慮するとさらに削減率は大きくなります。

メータボックス水平出し時間を…………… **50% 低減!**

メータボックスの集約により、水平出し時間が半減します。
※当社比4連の場合

水平を測るだけでも
大変!

一度でOK!

仕上げ(埋め戻し・タイル割り)作業時間を…… **50% 低減!**

メータボックスの集約により、埋め戻し時間が半減します。
※当社比4連の場合

カットも貼付時間も
大変!

O.K.
完了!

『水』の『安心』『安全』をお届けしています。
株式会社 タブチ
<本社 / 工場> 〒547-0023 大阪市平野区瓜破南 2-1
TEL 06-6708-0150 (代) FAX 06-6708-0210



商品のお問合せは **0120-481-130** い い み ず
<支店 / 営業所> 札幌・盛岡・仙台・北関東・新潟・千葉・土浦・さいたま・多摩
東京・横浜・静岡・金沢・名古屋・大阪・神戸・岡山・広島・福岡・南九州・沖縄

検索機能充実の **TRC WEB カタログ** はホームページから! **ホームページはこちら▶**
TABUCHI WEB CATALOG



20th
Anniversary

